EXILIM

液晶デジタルカメラ

EX-Z55

取扱説明書
（保証書付き）

JZ

はじめに
早分かりガイド
準備する
撮影する（基本編）
撮影する（応用編）
再生する
消去する
ファイルの管理について
その他の設定について
メモリーカードを使用する
プリント（印刷）する
パソコンでファイルを見る
パソコンでファイルを活用する
付録

ごあいさつ

このたびはカシオ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

- 本機をご使用になる前に、必ず別冊の「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 本書はお読みになった後も、大切に保管してください。
- 本製品に関する情報は、EXILIMオフィシャルWebサイト（http://www.exilim.jp/）またはカシオホームページ（http://www.casio.co.jp/）でご覧になることができます。

K872FCM1PKC

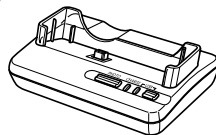
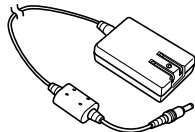
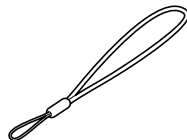
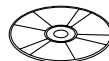
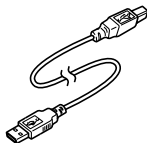
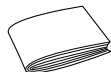
はじめに

付属品の確認

箱を開けたら、まず以下の付属品が全部そろっているかどうかをご確認ください。もし、これらの付属品が全部そろっていなかった場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

デジタルカメラ本体

リチウムイオン充電池（NP-40）

USBクレードル（CA-24）

専用ACアダプター（AD-C51J）

ストラップ

CD-ROM

USBケーブル

取扱説明書

取扱説明書（保証書付き）

目次

はじめに 2

■付属品の確認 2
■あらかじめご承知いただきたいこと 9
■本機の特徴 10
■使用上のご注意 12

早分かりガイド 14

■はじめに電池を充電する 14
■画面メッセージの言語／日時を設定する 15
■撮影する 16
■撮影したファイルを見る(再生する) 17
■撮影したファイルを消去する 17

準備する 18

■本書の表記について 18
■各部の名称 18
カメラ本体 18
USBクレードル 20
■液晶モニターの表示内容 21
液晶モニターの表示内容を切り替える 23
■ストラップを取り付ける 25
■電源について 25
充電式電池を入れる／出す 25
充電式電池を充電する 27
電源に関する使用上のご注意 30
電源を入れる／切る 32
電池の消耗を抑えるための機能 33
■メニュー画面の操作について 34
■表示言語／日時を設定する 36

撮影する（基本編） 38

■基本的な撮影のしかた 38
撮影モードを設定する 38
カメラの正しい構えかた 39
撮影する 40
■ファインダーを使って撮影する 43
■ズームを使って撮影する 44
光学ズーム 44
デジタルズーム 45
■フラッシュを使って撮影する 46
フラッシュの状態について 48
フラッシュの光量を変える 48
フラッシュ撮影時の光量の不足を補う（フラッシュアシスト機能） 49
■セルフタイマーを使って撮影する 51
■画像サイズを変更する 52
■画質を変更する 53

撮影する（応用編） 54

■ピント合わせの方法を変える 54
自動でピントを合わせる（オートフォーカス） 55
近くを撮影する（マクロ） 56
ピントを固定して撮影する（パンフォーカス） 57
遠くを撮影する（無限遠） 57
手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス） 58
フォーカスロック 59
■露出を補正する（EVシフト） 59
■ホワイトバランスを変える 61
マニュアルホワイトバランスを設定する 62
■さまざまなシーンを選んで撮影する（ベストショットモード） 63
撮影したいシーンを登録する（カスタム登録） 65
登録したシーンを削除する 66
■二人で記念撮影をする（カップリングショット） ...66
■好みの構図で記念撮影をする（プリショット） 68
■名刺や書類などを撮影する（ビジネスショット機能） 69
ビジネスショット機能を選択するには 70
■動画を撮影する（ムービーモード） 71

■音声を記録する 73
画像に音声を加えて記録する
（音声付き静止画撮影モード） 73
音声のみ記録する（ボイスレコードモード） 74
■ヒストグラムを活用する 76
■各種機能を設定する 77
ISO感度を変える 78
シャープネスを変える 79
彩度を変える 79
コントラストを変える 80
グリッドを表示する 80
撮影した画像を確認する（撮影レビュー） 81
画面上のアイコンの意味を確認する
（アイコンガイド機能） 81
左右キーに機能を割り当てる（キーカスタマイズ） 82
各種設定を記憶させる（モードメモリ） 83
各種設定をリセットする 84

再生する 85

■基本的な再生のしかた 85
音声付き画像を再生する 86
■反転表示させる 86
■画像を拡大して表示する 87
■画像サイズを変える（リサイズ） 88
■画像の一部を切り抜く（トリミング） 89
■動画を再生する 90
■1つの画面に9つの画像を表示する 90
■カレンダー表示をする 91
■画像を自動的にページめくりさせる
（スライドショー） 92
USBクレードルにセットしたまま
スライドショーさせる（フォトスタンド機能） 93
■回転表示させる 94
■画像ルーレット機能を使う 95
■画像に音声を追加する
（アフターレコーディング機能） 96
音声を記録し直す 96
■音声を再生する 97

消去する 99

■1ファイルずつ消去する 99
■すべてのファイルを消去する 100

ファイルの管理について　101

■フォルダの分類について 101
メモリー内のフォルダ／ファイルについて 101
■記録したファイルにメモリープロテクト（消去防止）をかける 102
1ファイル単位でメモリープロテクトをかける 102
全ファイルにメモリープロテクトをかける 103
■お気に入りフォルダを使う 103
お気に入りフォルダにファイルをコピー（登録）する 103
お気に入りフォルダのファイルを表示する 104
お気に入りフォルダから1ファイルずつ消去する .. 105
お気に入りフォルダの全ファイルを消去する 106

その他の設定について　107

■カメラの音を設定する 107
4種類の音を設定する 107
音量を設定する 107
■起動画面のオン／オフを切り替える 108
■エンディング画面に表示する画像を設定する 109
■ファイルの連番のカウント方法を切り替える 110
■アラームを鳴らす 111
■日時を設定し直す 112
ホームタイムの都市を設定し直す 112
ホームタイムの日時を設定し直す 112
日付の表示スタイルを切り替える 113
■ワールドタイムを表示する 113
ワールドタイムを表示させる 113
ワールドタイムを設定する 114
■表示言語を切り替える 115
■USB端子の通信方法を切り替える 115
■【●】（REC）／【▶】（PLAY）の動作を設定する 116
■内蔵メモリーをフォーマットする 116

メモリーカードを使用する 117

■メモリーカードを使う 118
メモリーカードを入れる 118
メモリーカードを取り出す 119
メモリーカードをフォーマットする 119
■ファイルをコピーする 120
内蔵メモリーからメモリーカードに
ファイルをコピーする 121
メモリーカードから内蔵メモリーに
ファイルをコピーする 121

プリント（印刷）する 122

■プリント(印刷)するには 122
■DPOF機能について 123
1画像単位で印刷設定する 123
全画像に印刷設定する 124
■PictBridge／
USB DIRECT - PRINTについて 125
■PRINT Image MatchingⅢについて 128
■Exif Printについて 128

パソコンでファイルを見る 129

■お持ちのパソコンがWindowsの場合 129
■お持ちのパソコンがMacintoshの場合 135
■パソコンでいろいろなことができます 138
■メモリーカードを直接接続して取り込む 138
■メモリー内のデータについて 139
DCF規格について 139
メモリー内のフォルダ構造 140
このデジタルカメラで扱える画像ファイル 141

パソコンでファイルを活用する 142

■アルバム機能を使う 142
アルバムを作成する 142
アルバムのレイアウトを選ぶ 144
アルバムの詳細を設定する 144
アルバムファイルを見るには 146
アルバムを保存するには 149
アルバムを消去する 149

■ソフトをインストールする 150
付属のCD-ROM(カシオデジタルカメラ
アプリケーションソフトウェア)について 150
パソコンの動作環境について 151
インストールする 152

付録 157

■メニュー一覧表 157
■ランプの状態と動作内容 159
■故障かな？と思ったら 162
現象と対処方法 162
USBドライバを正しくインストール
できない場合は 165
画面に表示されるメッセージ 166
■主な仕様／別売品 168
主な仕様 168
別売品 172
■サービスステーション／相談窓口 172
カシオテクノ・サービスステーション 172
カシオお客様ご相談窓口 173
■保証規定 173
■保証・アフターサービスについて 174
■索引 176
■EXILIMオフィシャルWebサイトのお知らせ 179

あらかじめご承知いただきたいこと

- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できません。
- 万一、本機使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 万一、Photo Loader、Photohands使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 故障、修理、その他の理由に起因するメモリー内容の消失による、損害および逸失利益等につきまして、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 取扱説明書に記載している画面やイラストは、実際の製品と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■著作権について

個人で楽しむ場合などのほかは、画像／動画フォーマットファイル、音声／音楽フォーマットファイルを権利者に無断で複製することは著作権法や国際条約で固く禁じられています。また、これらのファイルを有償・無償に関わらず権利者に無断でネット上で記載したり、第三者に配付したりすることも著作権法や国際条約で固く禁止されています。万一、本機が著作権法上の違法行為に使用された場合、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本文中の以下の用語は、それぞれ各社の登録商標または商標です。

- SDロゴは登録商標です。
- Windows、Internet ExplorerおよびDirectXは米国マイクロソフト社の商標です。
- AppleおよびMacintoshは米国アップルコンピューター社の商標です。
- MultiMediaCard™は、独Infineon Technologies AG社の商標であり、MMCA(MultiMediaCard Association)にライセンスされています。
- Adobe、Readerは、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- その他の社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。
- Photo Loader、Photohandsはカシオ計算機(株)の著作物であり、上記を除き、これにかかわる著作物およびその他の権利はすべてカシオ計算機(株)に帰属します。

本機の特徴

- 有効画素数500万画素
  フォトプリンタ等できめ細やかな高画質画像が印刷できるCCD総画素数525万画素の高画質CCD搭載。
- 2.5型TFTカラー液晶モニター搭載
- 長電池寿命
  カメラ本体の省電力化と大容量電池採用により、長時間の撮影、再生を実現しました。
- 12倍シームレスズーム搭載(44ページ)
  光学ズーム3倍／デジタルズーム4倍
- 9.3MBフラッシュメモリー内蔵
  メモリーカードを使用しなくても撮影ができます。
- ダイレクトONボタン搭載(32ページ)
  撮りたいときは【カメラ】(REC)、見たいときは【▶】(PLAY)を押すだけですぐに希望のモードで起動できます。
- マルチオートフォーカス機能搭載(56ページ)
  オートフォーカスのエリアを“マルチ”に切り替えることにより、7つのポイントを同時に測距して、最適なピント位置をカメラが自動的に判断することができます。
- パンフォーカスモード搭載(57ページ)
  ピント位置を固定した撮影をすることができます。
- オートパンフォーカス機能(55ページ)
  シャッター半押しによるオートフォーカスが完了する前に、シャッターを全押しすると、オートフォーカスが作動せずにパンフォーカスで撮影されます。オートフォーカスにかかる時間が削減できます。
- 拡張用メモリーカードとしてSDメモリーカードとMMC(マルチメディアカード)に対応(117ページ)
- USBクレードル同梱(27、93、125、129ページ)
  充電、パソコンへの画像転送、スライドショーが可能です。
- ベストショット機能搭載(63ページ)
  煩わしい設定をカメラが自動的に行うので、簡単に綺麗な写真を撮ることができます。
- ビジネスショット機能を搭載(69ページ)
  名刺や書類、ホワイトボードなどを斜めから撮影しても、正面から撮影したように自動的に補正します。
- 2つの記念撮影支援機能を搭載(66、68ページ)
  二人きりでも二人揃って記念撮影ができるカップリングショット機能、安心して他人に構図をまかせることができるプリショット機能があります。
- トリプルセルフタイマーモード搭載(51ページ)
  セルフタイマー撮影を自動的に3回繰り返すモードを搭載しました。

- リアルタイムヒストグラム機能を搭載（76ページ）
  ヒストグラム表示を確認しながら露出の調節ができます。
- ワールドタイム機能搭載（113ページ）
  簡単に現地の時間にセットできます。世界162都市（32タイムゾーン）に対応しています。
- アラーム機能搭載（111ページ）
  目覚まし時計の代わりにもなります。また、登録した画像や、音声、動画をアラームと同時に再生させることもできます。
- アルバム機能搭載（142ページ）
  撮影した画像をレイアウトしたHTMLファイルを作成し、Webブラウザで見たり、印刷することができます。また、自分のホームページ用データとしても利用することができます。
- カレンダー表示が可能（91ページ）
  1ヶ月分のカレンダー表示の日付上に、その日に撮影した最初の画像を表示させることができ、見たい画像を素早く探すことができます。
- 画像撮影後、続けて音声も録音可能な音声付き静止画撮影モードを搭載（73ページ）
- 音声付きムービー撮影機能を搭載（71ページ）
- 音声を録音することができるボイスレコード機能を搭載（74ページ）
- 撮影済みの画像に音声を追加するアフターレコーディング機能を搭載（96ページ）
- カメラの音設定が可能（107ページ）
  電源オン時の起動音、撮影時のシャッター音、シャッターボタン半押し時、キー操作時の操作音を、好みに合わせて設定することができます。
- DCF（Design rule for Camera File system）対応（139ページ）
  同規格に準じた他の機器との互換性があります。
- DPOF（Digital Print Order Format）対応（123ページ）
  同規格に準じたデジタルDPEサービスを簡単に利用することが可能です。
- PRINT Image MatchingⅢ対応（128ページ）
  PRINT Image MatchingⅢ対応プリンタでの出力および対応ソフトウエアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。
- USB DIRECT - PRINT、PictBridgeに対応（125ページ）
  この規格に対応したプリンタに直接接続して、画像を印刷することができます。
- Photo Loader、Photohands付属（150、151ページ）
  好評な自動取り込み機能を備えたPhoto Loaderを付属。レタッチ機能を備えたPhotohands も付属。更に多彩に画像を活用できます。

使用上のご注意

■ 撮影前のご注意（ためし撮りをしてください）

必ず事前にためし撮りをして、カメラに画像が正常に記録されていることを確認してください。

■ データエラーのご注意

- 本機は精密な電子部品で構成されており、以下のお取り扱いをすると内部のデータが破壊される恐れがあります。
  – カメラの動作中に電池やメモリーカードを抜いたり、USBクレードルにセットした
  – 電源を切ったときに緑色の【動作確認用ランプ】が点滅している状態で電池やメモリーカードを抜いたり、USBクレードルにセットした
  – 通信中にUSBケーブルがはずれたり、USBクレードルからカメラやACアダプターがはずれた
  – 消耗した電池を使用し続けた
  – その他の異常操作

このような場合、画面にメッセージが表示される場合があります（166ページ）。画面に対応した処置をお願いいたします。

■ 使用環境について

- 使用できる温度の範囲は、0℃～40℃です。
- 次のような場所には置かないでください。
  – 直射日光のあたる場所、湿気やホコリの多い場所
  – 冷暖房装置の近くなど極端に温度、湿度が変化する場所
  – 日中の車内、振動の多い場所

■ 結露について

- 真冬に寒い屋外から暖房してある室内に移動するなど、急激に温度差の大きい場所へ移動すると、本機の内部や外部に水滴が付く（結露）ことがあります。結露は故障の原因になりますので、ご注意ください。結露を防ぐには、温度差の大きな場所の間を移動する前に、本機をビニール袋で密封しておき、移動後に本機を周囲の温度に充分慣らしてから取り出して、電池カバーを開けたまま数時間放置してください。

■ レンズについて

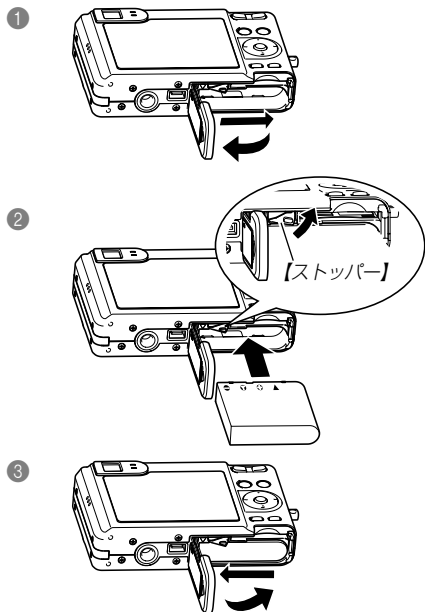
- レンズ面は強くこすったりしないでください。レンズ面に傷が付いたり、故障の原因となります。
- レンズ面が指紋やゴミなどで汚れていると、カメラ本体の性能が十分に発揮できませんので、レンズ面には触れないでください。レンズ面の汚れは、ブロアー等でゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。

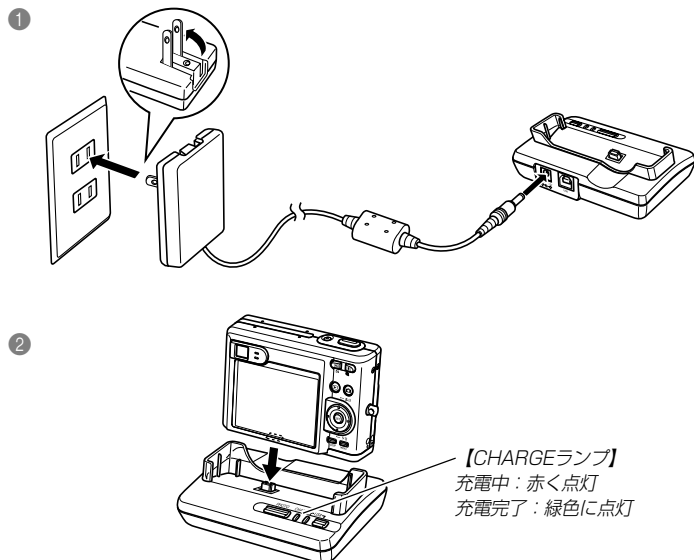
■ その他の注意

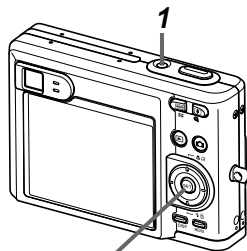
- 使用中、本機は若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- 本機が汚れた場合は、乾いた柔らかい布で拭いてください。

早分かりガイド

はじめに電池を充電する

1. **電池を入れます(25ページ)。**

2. **カメラをUSBクレードルにセットして、電池を充電します(27ページ)。**

- 約3時間10分でフル充電されます。

画面メッセージの言語／日時を設定する

重要! • お買い上げ後、初めて撮影する前に設定してください(詳しくは36ページ参照)。

1. 【電源ボタン】を押して、電源を入れます。

2. 【▲】を押して、言語(日本語)を選び、【SET】を押します。

3. 【▲】【▼】【◀】【▶】で自宅都市のエリアを選び、【SET】を押します。

4. 【▲】【▼】で自宅都市を選び、【SET】を押します。

- 日本で使う場合は“Tokyo”を選んでください。

5. 【▲】【▼】でサマータイムの設定を選び、【SET】を押します。

- 日本で使う場合は“切”を選んでください。

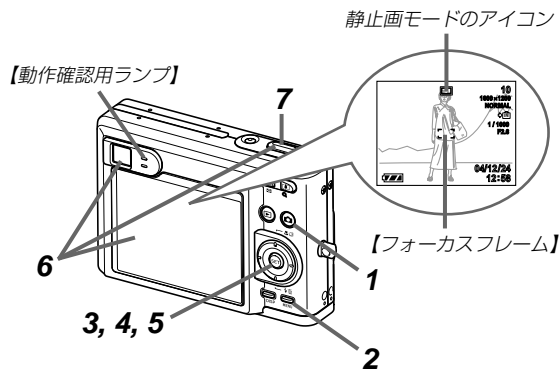
6. 【▲】【▼】で日時の表示スタイルの設定を選び、【SET】を押します。

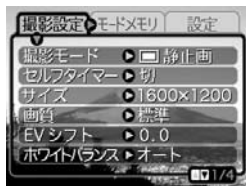
7. 日付と時刻を合わせます。

8. 【SET】を押します。

- 設定を終了します。

撮影する

（詳しくは38ページ参照）

1. 【📷】(REC)を押します。

2. 【MENU】を押します。

3. 【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選びます。

4. 【▲】【▼】で“撮影モード”を選び、【▶】を押します。

5. 【▲】【▼】で“□静止画”を選んで、【SET】を押します。

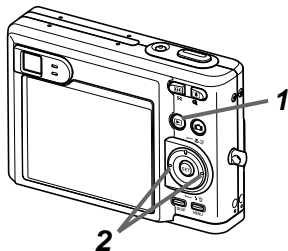
- 【液晶モニター】に“□”（静止画モード）が表示されます。

6. 撮影する被写体にカメラを向け、【液晶モニター】または【ファインダー】を覗いて、【シャッター】を半押ししてピントを合わせます。

- ピントが合うと【フォーカスフレーム】が緑色になり、緑色の【動作確認用ランプ】が点灯します。

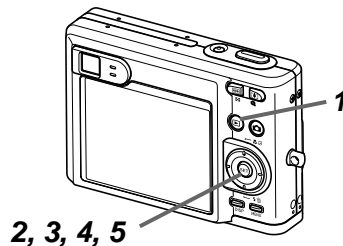
7. カメラを固定し、静かに【シャッター】を押します。

撮影したファイルを見る（再生する）

（詳しくは85ページ参照）

1. 【▶】（PLAY）を押します。

2. 【◀】【▶】を押すと、記録したファイルの戻し／送りができます。

撮影したファイルを消去する

（詳しくは99ページ参照）

1. 【▶】（PLAY）を押します。

2. 【▼】（⚡ 🗑）を押します。

3. 【◀】【▶】を押して、消去したいファイルを選びます。

4. 【▲】【▼】を押して、“消去”を選びます。

- 消去を中止したいときは、“キャンセル”を選んでください。

5. 【SET】を押します。

- ファイルが消去されます。

準備する

初めてご使用になる方は、撮影前の準備を行ってください。

本書の表記について

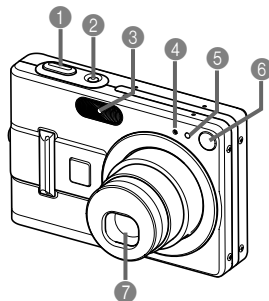
- 【　】に囲まれた単語は、本機のボタンや各部の名称です。
- “　”に囲まれた単語は、本機の液晶画面に表示されるアイコンやメッセージです。

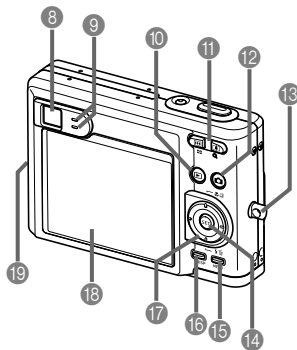
- **重要!** に記載された情報は、使用上、注意していただきたい重要な情報です。
- **参考** に記載された情報は、便利な使いかたや、参考になる情報です。

各部の名称

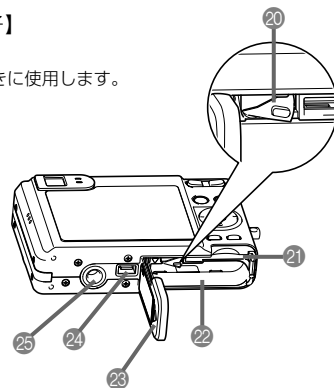
この取扱説明書では、本機の各部の名称を次のように【　】を使って表記します。

カメラ本体

■ 前面部

1【シャッター】
2【電源ボタン】
3【フラッシュ】
4【マイク】
5【セルフタイマーランプ】
6【ファインダー】
7【レンズ】

■ 後面部

⑧【ファインダー】
⑨【動作確認用ランプ】
⑩【▶】(PLAYモード)
⑪【ズームボタン】
⑫【📷】(RECモード)
⑬【ストラップリング】
⑭【SET】
⑮【MENU】
⑯【DISP】
⑰【コントロールボタン】
※本書では、このボタンは【▲】【▼】【◀】【▶】と表記します。
⑱【液晶モニター】
⑲【スピーカー】

■ 底面部

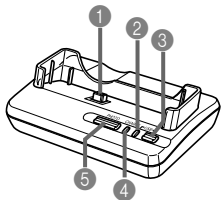
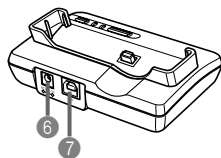
⑳【ストッパー】
㉑【メモリーカード挿入口】
㉒【電池室】
㉓【電池カバー】
㉔【クレードル接続端子】
㉕【三脚穴】
※ 三脚に取り付けるときに使用します。

USBクレードル

カメラをUSBクレードルにセットするだけで、次のようなことができます。

- 充電式電池を充電することができます(27ページ)。
- 撮影した画像を、パソコンに転送することができます(129ページ)。
- プリンタと接続してプリントすることができます(125ページ)。
- フォトスタンド機能を利用して、撮影した画像のスライドショーを見ることができます(93ページ)。

■ 前面部

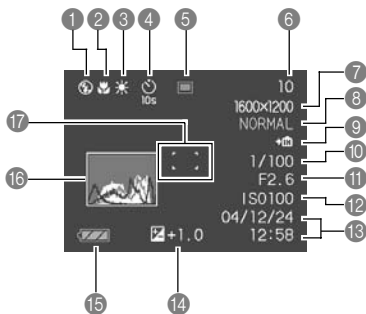
❶【カメラ接続端子】
❷【USBランプ】
❸【USB】
❹【CHARGEランプ】
❺【PHOTO】

■ 後面部

❻【DC IN 5.3V】
(外部電源端子)
❼【USB】
(USB接続端子)

液晶モニターの表示内容

【液晶モニター】には、さまざまな情報が表示されます。

- この章の画面は、説明に必要な内容を表示させたものですので、実際の画面とは一致しません。あらかじめご了承ください。

■ RECモード時

① フラッシュモード表示（46ページ）

表示なし（自動発光）

（発光禁止）

（強制発光）

（赤目軽減）

- 自動発光時にフラッシュ発光する場合は、【シャッター】を半押ししたときに が表示されます。

② フォーカスモード（54ページ）

表示なし（オートフォーカス）

（マクロ）

PF（パンフォーカス）

∞（無限遠）

MF（マニュアルフォーカス）

③ ホワイトバランス表示（61ページ）

表示なし（オート）

（太陽光）

（曇天）

（日陰）

（蛍光灯1）

（蛍光灯2）

（電球）

MWB（マニュアル）

④ セルフタイマー（51ページ）

表示なし（1枚撮影）

10s（セルフタイマー10秒）

2s（セルフタイマー2秒）

x3（トリプルセルフタイマー）

⑤ 撮影モード（38ページ）

（静止画モード）

BS（ベストショットモード）

（ムービーモード）

（音声付静止画モード）

（ボイスレコードモード）

⑥ 撮影可能枚数（41、71、168ページ）

ムービーモード時：残り撮影時間

⑦ 画像サイズ（52ページ）

2560×1920 pixels
2560×1712（3:2）pixels
2048×1536 pixels
1600×1200 pixels
1280× 960 pixels
640× 480 pixels
ムービーモード時：撮影時間

⑧ 画質（53ページ）

FINE（高精細）
NORMAL（標準）
ECONOMY（エコノミー）

⑨ メモリー表示（117ページ）

IN（内蔵メモリー使用中）

（メモリーカード使用中）

⑩ シャッター速度（41ページ）

- 絞りとシャッター速度はAE（自動露出）が適正範囲でない場合、【シャッター】を半押ししたときにオレンジ色で表示されます。

⑪ 絞り値（41ページ）

⑫ ISO感度（78ページ）

⑬ 日付／時刻（112ページ）

⑭ 露出補正表示（59ページ）

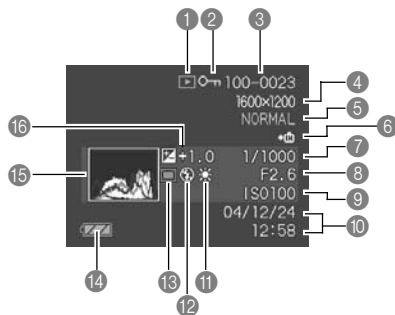
⑮ バッテリー残量表示（30ページ）

⑯ ヒストグラム（76ページ）

⑰ フォーカスフレーム （55ページ）

- ピント合わせ完了時：緑色に点灯
- ピント合わせ不可時：赤色に点灯

参考 ● 下記の機能を切り替えたとき、アイコンの意味(アイコンガイド)が表示されます。このガイドは表示させないこともできます(81ページ)。
フラッシュモード、フォーカスモード、ホワイトバランス、セルフタイマー、撮影モード

■ PLAYモード時

❶ ファイル形態
(85ページ)
（静止画）
（動画）
（音声付静止画）
（ボイスレコード）

❷ プロテクト表示
（102ページ）

❸ フォルダ名／ファイル番号
（101ページ）
例： メモリー内のフォルダ名が100CASIO、
ファイル名がCIMG0023.JPGの場合
100-0023
フォルダ名　ファイル名

④ 画像サイズ(52ページ)
2560×1920 pixels
2560×1712 (3:2) pixels
2048×1536 pixels
1600×1200 pixels
1280× 960 pixels
640× 480 pixels
動画再生時：再生時間

⑤ 画質(53ページ)
FINE（高精細）
NORMAL（標準）
ECONOMY（エコノミー）

⑥ メモリー表示(117ページ)
IN （内蔵メモリー使用中）
（メモリーカード使用中）

⑦ シャッター速度

⑧ 絞り値

⑨ ISO感度(78ページ)

⑩ 日付／時刻(112ページ)

⑪ ホワイトバランス表示(61ページ)
AWB （オート）
（太陽光）
（曇天）
（日陰）
1 （蛍光灯1）
2 （蛍光灯2）
（電球）
MWB （マニュアル）

⑫ フラッシュモード表示(46ページ)
（発光）
（非発光）
（赤目軽減）

⑬ 撮影モード(38ページ)
（静止画モード）
BS （ベストショットモード）

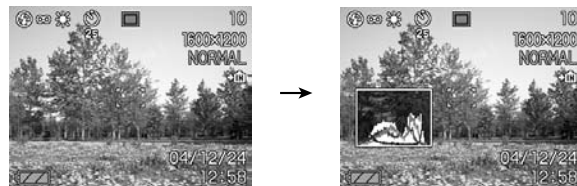
⑭ バッテリー残量表示(30ページ)

⑮ ヒストグラム(76ページ)

⑯ 露出補正表示(59ページ)

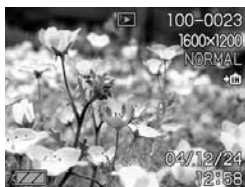
液晶モニターの表示内容を切り替える

【DISP】を使って、【液晶モニター】に表示される内容を切り替えることができます。

■ RECモード時

情報表示オン → ヒストグラム表示オン

液晶モニターオフ

情報表示オフ

■ PLAYモード時

情報表示オン

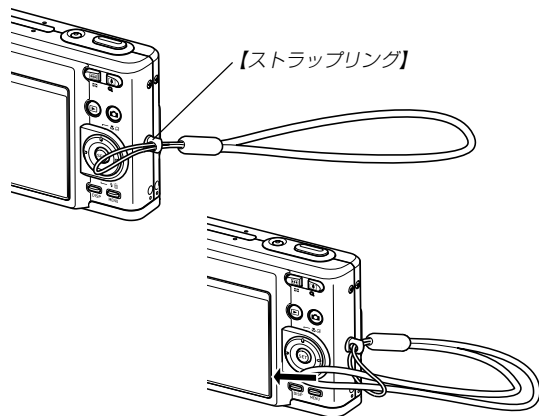
ヒストグラム／
詳細情報表示オン

情報表示
オフ

重要!

- 下記のモードでは「液晶モニターオフ」にはなりません。
  PLAYモード、ベストショットモード、ムービーモードの撮影待機中
- ムービー撮影中と音声付き静止画の音声待機中／記録中は、【DISP】を使って【液晶モニター】の表示内容を切り替えることはできません。
- RECモード時のボイスレコードモードでは、「情報表示オン」と「液晶モニターオフ」の切り替えのみ、PLAYモード時のボイスレコードファイルの表示では「情報表示オン」と「情報表示オフ」の切り替えのみとなります。
- 「情報表示オフ」でボイスレコードファイルを再生すると、2秒後に自動的に【液晶モニター】が非表示になります。再生が終了すると自動的に「情報表示オフ」の表示に戻ります。

ストラップを取り付ける

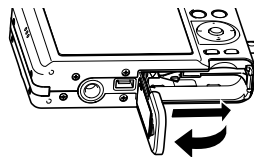
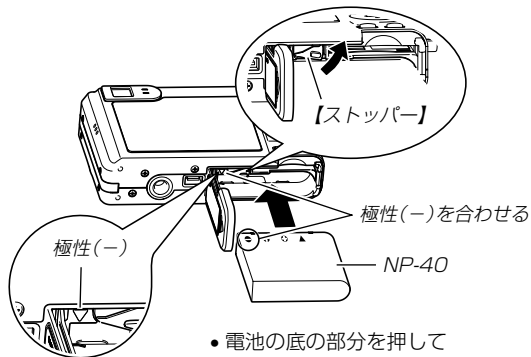
ストラップは、【ストラップリング】に取り付けます。

重要! • 本機操作時は落下を防止するため、必ずストラップに指を通した状態で使用してください。
• 付属のストラップは本機専用です。他の用途に使用しないでください。
• ストラップを持って本機を振り回さないでください。

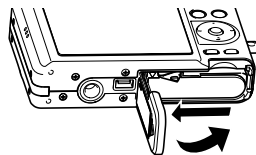
電源について

本機は専用リチウムイオン充電池(NP-40)を電源として利用します。

充電式電池を入れる/出す

■ 充電式電池を入れる

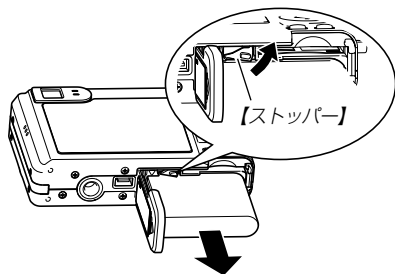
1. 本体底面の【電池カバー】を押しながら、矢印の方向にスライドさせて開きます。

2. カメラと電池の極性(−)を合わせるようにして、電池側面で【ストッパー】を矢印の方向にずらしたまま電池をセットします。

• 電池の底の部分を押して【ストッパー】が電池にしっかりかかるのを確認してください。

3. 【電池カバー】を矢印の方向に押しつけながら、スライドして閉めます。

重要! • 電池は、必ず専用リチウムイオン充電池(NP-40)をお使いください。他の電池は使用できません。

電池は、最初充電されておりません。「充電式電池を充電する」(27ページ)に従って充電してください。

■ 充電式電池を取り出す

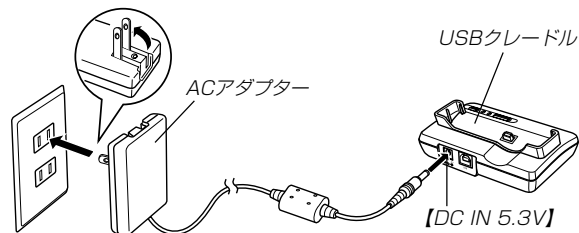
1. 【電池カバー】を開きます。

2. 【ストッパー】を矢印の方向にずらすと、電池が少し出てきます。

3. 出てきた電池を引き抜きます。

- 電池を落とさないようにご注意ください。

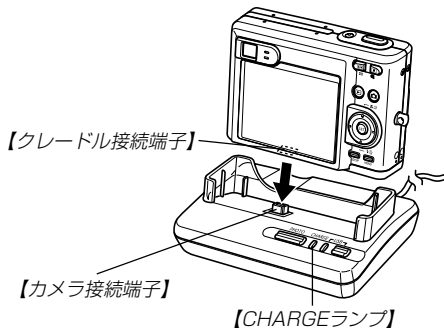
充電式電池を充電する

1. USBクレードルの【DC IN 5.3V】に付属のACアダプターを接続します。

2. ACアダプターのプラグを起こし、家庭用コンセントに接続します。

3. カメラの電源を切ります。

4. カメラをUSBクレードルの上にセットします。

- カメラの電源を入れたまま、USBクレードルの上にセットしないでください。
- USBクレードルの【CHARGEランプ】が赤色に点灯し、充電が始まります。充電を完了すると、【CHARGEランプ】が緑色の点灯に変わります。
- 約3時間10分でフル充電されます。

  充電時間は、電池の容量や残量、使用環境によって変化します。

5. 充電が完了したら、USBクレードルからカメラを取りはずします。

重要!

- 専用リチウムイオン充電池(NP-40)の充電は、同梱のUSBクレードル(CA-24)または別売の専用急速充電器(BC-30L)をお使いください。他の充電器では使用できません。
- ACアダプターは、必ず付属のACアダプターをお使いください。それ以外のACアダプターは使用しないでください(別売品:AD-C40/C620J/C630Jは使用できません)。
- カメラの【クレードル接続端子】は、USBクレードルの【カメラ接続端子】にしっかりと差し込んでください。
- カメラ使用直後や周辺温度が高温状態または低温状態で充電しようとすると、充電が開始されない場合があります(【CHARGEランプ】がオレンジ色に点灯します)。その場合は常温で放置してください。電池の温度が充電可能な温度になると、充電を開始します(【CHARGEランプ】が赤色点灯に変わります)。

- 充電中にエラーが起こったときは【CHARGEランプ】が赤色に点滅します。原因は、本体の不良、カメラや電池のセット(装着)不良、電池不良です。USBクレードルからカメラを取りはずし、カメラが動作するか確認してください。カメラが動作する場合は、電池を使い切ってから充電してください。
  動作しない場合は、電池のセット不良の可能性があります。電池をカメラからはずし、電池接点部が汚れていないか確認してください。汚れている場合は、乾いた布で拭いてください。また、ACアダプターのコンセントやプラグがはずれかけていないか確認してください。
  上記確認の後、再度USBクレードルにカメラをセットしても同じ症状になる場合は、カシオテクノ・サービスステーションにお問い合わせください。
- USBクレードル上では、フォトスタンド機能、充電およびUSB通信以外はできません。

■ 海外でのご使用について

- ACアダプターはAC100V〜240V・50/60Hzの電源に対応していますので、 海外への旅行の際にもご利用できます。
  但し、使用する国によってはプラグ形状が合わないなどの問題があるため、旅行代理店などで、現地で使用可能かどうかを事前にご確認ください。

■ 電池寿命の目安

下記の電池寿命は、温度23℃で使用した場合の電源が切れるまでの目安であり、保証時間、または保証枚数ではありません。低温下で使うと、電池寿命は短くなります。

項目	目安
撮影枚数(CIPA)(動作時間)※1	約400枚(約3時間20分)
連続撮影枚数(動作時間)※2	約1070枚(約3時間30分)
連続再生時間(静止画)※3	約6時間50分
ボイスレコード録音時間※4	約6時間20分

- 使用電池：NP-40(定格容量：1230mAh)
- 記録メディア：SDメモリーカード
- 測定条件
  ※1 撮影枚数(CIPA)
  CIPA規準に準ずる
  温度(23℃)、液晶モニターオン、30秒毎にズームのワイド端とテレ端で交互に撮影、フラッシュ発光(2枚に1回)、10回撮影に1度電源を切／入操作
  ※2 連続撮影枚数
  温度(23℃)、液晶モニターオン、フラッシュ非点灯、12秒毎に、ズームのワイド端とテレ端で交互に撮影
  ※3 連続再生時間
  温度(23℃)、約10秒に1枚ページ送り
  ※4 ボイスレコード録音時間は、連続で録音したときの時間です。

- 上記数値は、新品の電池のフル充電状態での数値です。繰り返し使用すると、電池寿命は徐々に短くなります。

- フラッシュの使用頻度や電源が入った状態の時間により、撮影時間または枚数は大幅に異なる場合があります。

■ 電池を長持ちさせるために

- フラッシュを使用しないで撮影するときは、フラッシュの発光方法を（発光禁止）に設定してご使用いただくと、電池寿命が長くなります（46ページ）。
- オートパワーオフ機能やスリープ機能（33ページ）を使用することにより、電源の切り忘れなどのむだな消費電力をおさえることができます。
- 【DISP】を押して【液晶モニター】をオフにすると、消費電力が小さくなります。

■ バッテリー残量表示

電池が消耗すると【液晶モニター】に表示されているバッテリー残量表示が下記表のように変化します。の状態は電池残量が少ないことを表しています。の状態では撮影できません。速やかに電池を充電し直してください。

電池残量	多 ←→ 少
画面情報表示	→ → →
残量表示の色	みず色 → オレンジ色 → 赤色 → 赤色

電源に関する使用上のご注意

■ 電池使用時のご注意

使用上のご注意

- この電池は、カシオデジタルカメラ専用のリチウムイオン充電池です。適応機種については、お使いのカメラの取扱説明書でご確認ください。
- 専用リチウムイオン充電池（NP-40）の充電は、同梱のUSBクレードル（CA-24）または別売の専用急速充電器（BC-30L）をお使いください。他の充電器では使用できません。
- 寒い場所では、電池の特性上、充分に充電された電池を使用しても、使用時間が短くなります。
- 充電は10℃～35℃の温度範囲で行ってください。範囲外の温度で充電すると、充電時間が長くなったり、充分な充電ができないことがあります。
- 充電直後でも電池の使用時間が大幅に短くなった場合は、電池の寿命と思われますので、新しいものをお買い求めください。

保存上のご注意

- リチウムイオン充電池は小型で高容量の電池ですが、充電された状態で長期間保存すると特性が劣化することがあります。
  - しばらく使わない場合は、使い切った状態で保存してください。
  - 使用しないときは必ず充電池をデジタルカメラから取りはずしてください。取り付けたままにしておくと、電源が切れていても微少電流が流れていますので、電池が消耗し、充電に時間がかかったり、こわれたりします。
  - 乾燥した涼しい場所（20 ℃以下）で保存してください。

充電式電池の取扱いについて

- リサイクルのお願い

Li-ion

不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

＜最寄りのリサイクル協力店 へ＞

詳細は、社団法人　電池工業会小形二次電池再資源化推進センターのホームページをご参照ください。

- ホームページ　http://www.JBRC.com/

- 使用済み充電式電池の取扱い注意事項
  - プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
  - 被覆をはがさないでください。
  - 分解しないでください。

■USBクレードル／ACアダプターご使用時のご注意

- ●表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・故障・感電の原因となります。
- ●ACアダプターの電源コードを傷つけたり、破損したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したりしないでください。電源コードが破損し、火災・事故・感電の原因となります。
- ●ACアダプターのコードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。火災・故障・感電の原因となります。
- ●濡れた手でACアダプターを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- ●タコ足配線をしないでください。火災・故障・感電の原因となります。
- ●万一、ACアダプターの電源コードが傷んだら(芯線の露出・断線など)、販売店またはカシオテクノ・サービスステーションに連絡してください。そのまま使用すると火災・故障・感電の原因となります。

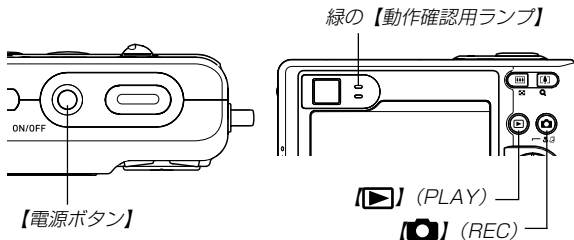
- ACアダプターを抜き差しする際は、必ずカメラをUSBクレードルから取りはずした状態で行ってください。
- 充電中、USB通信中、フォトスタンド機能使用中、ACアダプターは若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- ご使用にならないときは、ACアダプターをコンセントから必ずはずしてください。
- ACアダプターの上に毛布などがかぶさらないようにしてください。火災の原因となります。

電源を入れる／切る

■ 電源を入れる

電源を入れる場合は、【電源ボタン】、【📷】(REC)または【▶】(PLAY)を押すと、緑の【動作確認用ランプ】が一時点灯し、電源が入ります。押すボタンによって電源が入った後の状態が異なります。

REC(撮影)モードで電源を入れたいとき
：【電源ボタン】または【📷】(REC)を押す。

PLAY(再生)モードで電源を入れたいとき
：【▶】(PLAY)を押す。

参考 ● 電源が入っているときに【 】(REC)を押すとRECモードに、【▶】(PLAY)を押すとPLAYモードに切り替わります。
● RECモードから【▶】(PLAY)を押してPLAYモードに切り替えると、約10秒後にレンズが収納されます。

重要! ● オートパワーオフ機能により電源が切れた場合は、再度【電源ボタン】、【 】(REC)または【▶】(PLAY)を押して電源を入れてください。
● 【電源ボタン】または【 】(REC)を押して電源を入れると、レンズが出てきます。その際にレンズを押さえたり、ぶつけたりしないようご注意ください。

■ 電源を切る

電源を切る場合は、【電源ボタン】を押すと、電源が切れます。

参考 ● 【 】(REC)や【▶】(PLAY)を押しても電源が入らないようにしたり、【 】(REC)や【▶】(PLAY)を押して電源を切ることができるように設定することができます。詳しくは「【 】(REC)/【▶】(PLAY)の動作を設定する」(116ページ)をご覧ください。

電池の消耗を抑えるための機能

電池の消耗を抑えるために、以下の2通りの設定ができます。

スリープ　　　　：RECモード時に一定時間操作をしないと、【液晶モニター】のみ消灯します。ボタン操作をすると【液晶モニター】が再度点灯します。
オートパワーオフ：一定時間操作しないと電源が切れます。

1. 電源を入れます。

2. 【MENU】を押します。

3. 【◀】【▶】で"設定"タブを選びます。

4. 【▲】【▼】で設定したい項目を選び、【▶】を押します。

スリープの設定："スリープ"
オートパワーオフの設定："オートパワーオフ"

- メニューのたどりかたについては34ページを参照してください。

5.【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

スリープの設定内容："30秒""1分""2分""切"

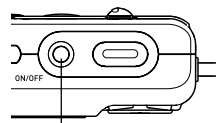
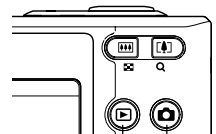
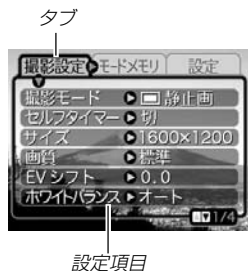
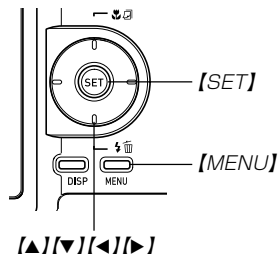
オートパワーオフの設定内容："2分""5分"

- PLAYモードではスリープは働きません。
- スリープ中にいずれかのボタンを押すと、スリープを解除してすぐに撮影できる状態になります。
- 以下の状態では、オートパワーオフ、スリープは働きません。
  - 本機のUSBクレードルを通じてパソコンなどと接続しているとき
  - スライドショー中
  - ボイスレコードファイル再生中
  - 動画再生中

メニュー画面の操作について

本機ではメニュー画面を使用してさまざまな操作を行います。この操作をまず覚えてください。【MENU】を押すと、メニュー画面が表示されます。メニューの内容はREC(撮影)モードとPLAY(再生)モードでは異なります。ここでは例としてRECモードでの操作を説明します。

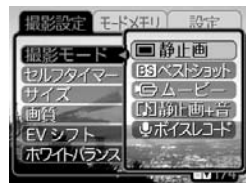
1.【電源ボタン】または【📷】(REC)を押します。

- PLAYモードにして操作を行うときは【▶】(PLAY)を押します。

2. 【MENU】を押します。

●メニュー画面で使うキーについて

【◀】【▶】	タブを選びます。【▶】は項目の決定にも使います。
【▲】【▼】	設定項目を選びます。
【SET】	選択した項目に決定します。
【MENU】	メニュー画面の操作を中断します。

3. 【◀】【▶】で設定したい項目のあるタブを選びます。

4. 【▲】【▼】で設定したい項目を選び、【▶】を押します。

- 【▶】を押す代わりに【SET】を押しても、次の画面に移ります。

例）設定項目"撮影モード"を選んだ場合

5. 【▲】【▼】で設定内容を選びます。

6. 選択した内容を決定します。

- 【SET】を押すと内容が決定され、メニュー画面から出ます。
- 【◀】を押すと内容が決定され、メニュー画面に戻ります。続けて他の項目を設定することができます。
- 他のタブに移りたいときは、【◀】を押して、【▲】でタブに戻り、【◀】【▶】で他のタブに移ってください。

- メニューの内容については「メニュー一覧表」(157ページ)を参照してください。

表示言語／日時を設定する

お買い上げ後初めて撮影をする前に、下記の設定を行ってください。

- 画面のメッセージの言語設定
- 自宅の都市の設定
- 表示スタイルの設定
- 日時設定（この日時は、印刷情報などに利用されます）

重要!
- 日時を設定しないと、間違った時間で記録されてしまいますので、必ず設定してください。
- 下記のような電源が供給されない状態で約2日間放置した場合は、日時がリセットされてしまいます。
  - 充電式電池が消耗している／充電式電池を取り外している
  - 充電式電池が消耗しているか、充電式電池を取り外している状態で、クレードルから電源が供給されていない
- 日時がリセットされているときに電源を入れると、日時設定画面が表示されます。その場合は、再度日時を設定してください。
- 誤って設定してしまった場合は、表示言語/日時を設定し直すことができます。（115、112ページ）

1. **【電源ボタン】、【📷】（REC）または【▶】（PLAY）を押して、電源を入れます。**

2. **【▲】【▼】【◀】【▶】で言語を選び、【SET】を押します。**

日本語	：日本語
English	：英語
Français	：フランス語
Deutsch	：ドイツ語
Español	：スペイン語
Italiano	：イタリア語
Português	：ポルトガル語
中國語	：中国語（繁体）
中国语	：中国語（簡体）
한국어	：韓国語

3. **【▲】【▼】【◀】【▶】で自分の住んでいる地域を選び、【SET】を押します。**

4. **【▲】【▼】で自分の住んでいる都市を選び、【SET】を押します。**

- 日本で使う場合は“Tokyo”を選んでください。

5. **【▲】【▼】でサマータイムの設定を選び、【SET】を押します。**

入：サマータイムになります。

切：通常の時刻になります。

- 日本で使う場合は“切”を選んでください。

6. **【▲】【▼】で日付のスタイルを選び、【SET】を押します。**

例）2004年12月24日

年／月／日：04/12/24

日／月／年：24/12/04

月／日／年：12/24/04

7. **日付と時刻を合わせます。**

【▲】【▼】を押す：

カーソル（選択枠）の部分の数字を変えます。

【◀】【▶】を押す：

カーソル（選択枠）を移動します。

【DISP】：

12時間表示と24時間表示の切り替えができます。

8. **【SET】を押して、設定を終了します。**

撮影する(基本編)

ここでは最も基本的な撮影方法について説明します。

基本的な撮影のしかた

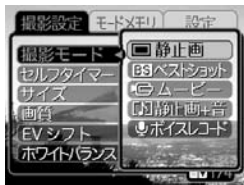
撮影モードを設定する

本機には5つの撮影モードがあります。撮影する前に下記のように操作して、撮影したい被写体に合った撮影モードに設定してください。

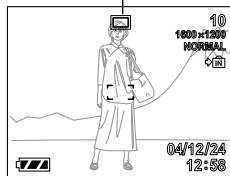
- (静止画モード)
  静止画を撮影するときに設定します。通常はこのモードに設定してお使いください (40ページ)。
- BS(ベストショットモード)
  簡単に綺麗な写真を撮影したいときに設定します。23種類のシーンの中から撮影したいシーンを選び、煩わしい設定をカメラにまかせることができます (63ページ) 。
- (ムービーモード)
  動画を撮影するときに設定します (71ページ) 。
- (音声付き静止画モード)
  音声付きの静止画を撮影するときに設定します(73ページ)。
- (ボイスレコードモード)
  音声のみ録音するときに設定します(74ページ)。

1. **【電源ボタン】または【】(REC) を押します。**

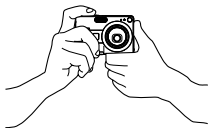
2. **【MENU】を押し、【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選びます。**

3. **【▲】【▼】で“撮影モード”を選び、【▶】を押します。**

4. **【▲】【▼】で設定したい撮影モードを選び、【SET】を押します。**

- 【液晶モニター】に撮影モードを示すアイコン (“”など) が表示されます。

撮影モードを示すアイコン

カメラの正しい構えかた

カメラは両手でしっかりと持って、撮影してください。片手で持つと、手ぶれを起こす恐れがあります。

- 横に持つ場合

両手でカメラをしっかり持ち、脇をしっかり締めてください。

- 縦に持つ場合

縦に持つ場合は、【レンズ】より【フラッシュ】が上にくるようにして、カメラをしっかり持ってください。

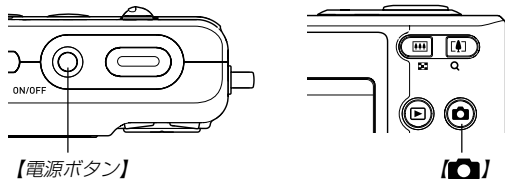
重要! • 指やストラップが、右記の部分にかからないように注意してください。

参考 • 【シャッター】を押し切った瞬間にカメラがぶれると、きれいな画像が撮れません。正しく構えて、【シャッター】を静かに押し、【シャッター】を押し切った瞬間にカメラが動かないようにしてください。特に暗い場所で撮影するときは、シャッター速度が遅くなるので、注意してください。

撮影する

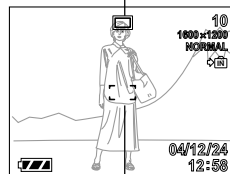
本機では被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度を自動的に調整します。撮影された画像は、順次内蔵フラッシュメモリーに保存されます。

- 市販のメモリーカード(SDメモリーカードまたはMMC〈マルチメディアカード〉)に保存することもできます(117ページ)。

1.【電源ボタン】または【📷】(REC)を押して、電源を入れます。

- 【液晶モニター】に画像が表示されます。
- RECモードになり、撮影できる状態になります。
- すでに電源が入っている状態で下記のようにPLAY(再生)モードになっている場合は、【📷】を押してREC(撮影)モードに切り替えてください。

 –「ファイルがありません」と表示されている。
 – “▶”が【液晶モニター】の上部に表示されている。

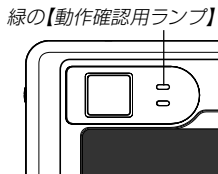
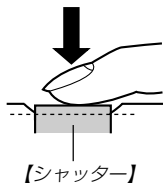
2. “撮影モード”を“□静止画”に設定します。

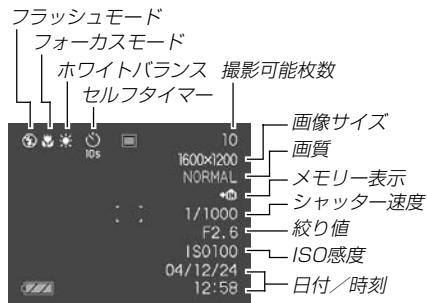
- 静止画モードに設定すると、【液晶モニター】に“□”が表示されます。
- 設定のしかたは、「撮影モードを設定する」(38ページ)をご覧ください。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけで撮影モードを切り替えることができます(82ページ)。

3.【液晶モニター】に表示されている【フォーカスフレーム】を被写体に合わせます。

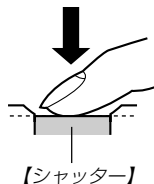
- 撮影できる距離は、フォーカスモードによって異なります(54ページ)。
- 【ファインダー】から被写体を見て撮影することもできます(43ページ)。
- 【ファインダー】から被写体を見るときは【DISP】を押して、【液晶モニター】を消すことで、電力の消費を減らすことができます。

4.【シャッター】を半押しし、ピントを合わせます。

- 【シャッター】を半押しすると、オートフォーカス機能により自動的にピントが合い、シャッター速度と絞り値が表示されます。

- ピントは【フォーカスフレーム】や緑の【動作確認用ランプ】の点灯のしかたで知ることができます。

状況	動作確認用ランプ	フォーカスフレーム
ピント合わせ完了	緑点灯	緑点灯
ピント合わせ不可	緑点滅	赤点灯

- 【液晶モニター】には様々な情報が表示されます。

5. ピントが合っていることを確認して【シャッター】を全押しします。

- サイズ、画質によって撮影できる枚数が異なります(52、53、168ページ)。

重要! • "撮影設定"の"オートPF"を"入"に設定している場合(55ページ)シャッター半押しによるオートフォーカスが完了する前に、シャッターを全押しすると、オートフォーカスが作動せずにパンフォーカス(57ページ)で撮影されます。シャッターチャンスを逃さずに撮影することができます。

■ 撮影時のご注意

- 緑の【動作確認用ランプ】が点滅している間に【電池カバー】を開けたり、カメラをUSBクレードルにセットすることは、絶対にお止めください。今撮影した内容が記録されないばかりでなく、撮影済みの内容が破壊されたり、カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。
- メモリーカードに記録中は、メモリーカードを抜かないでください。
- 蛍光灯照明の室内で撮影する場合、本機は蛍光灯のフリッカー(人の目では感じられない、ごく微妙なちらつき)を感知してしまい、撮影するタイミングによって、微妙に撮影画像の明るさや色合いが変わる場合があります。
- ISO感度が“オート”の場合(78ページ)は、被写体の明るさに応じて感度が自動的に変化します。被写体が暗いと画像にノイズがのる場合があります。
- ISO感度が“オート”の場合(78ページ)は、被写体が暗いときは感度を上げてシャッタースピードを速くなるようにしていますが、フラッシュの発光方法(46ページ)が (発光禁止)のときには手ぶれに注意してください。
- 不要な光がレンズに当たる場合は、手で遮光してから撮影してください。

■ オートフォーカスのご注意

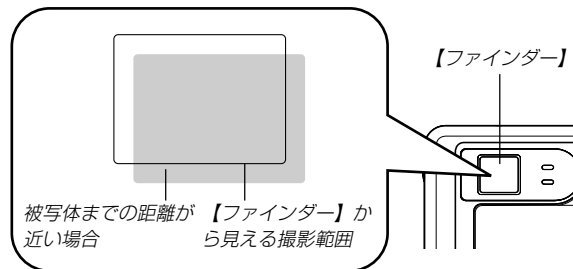
- 次のような被写体に対しては、ピントが合わないことがあります。
  - 階調のない壁などコントラストが少ない被写体
  - 強い逆光のもとにある被写体
  - 光沢のある金属など明るく反射している被写体
  - ブラインドなど、水平方向に繰り返しパターンのある被写体
  - カメラからの距離が異なる被写体がいくつもあるとき
  - 暗い場所にある被写体
  - 手ぶれをしているとき
  - 動きの速い被写体
- 緑の【動作確認用ランプ】が点灯していたり、【フォーカスフレーム】が緑で表示されていてもピントが正しく合わない場合があります。
- ピントが合わない場合は、フォーカスロック(59ページ)やマニュアルフォーカス(58ページ)をご利用ください。

■ 撮影時の画面のご注意

- 撮影時、【液晶モニター】に表示される被写体の画像は、フレーム確認のための簡易画像です。撮影した内容は、選択した画質で記録されており、出力画素数は確保されています。メモリーには精細な画像で記録されています。
- 被写体の明るさにより、撮影時の【液晶モニター】の表示速度が遅くなったり、ノイズが出る場合があります。
- 極端に明るい被写体を撮影すると、【液晶モニター】上の画像に、縦に尾を引いたような光の帯が表示される場合があります(スミア現象といいます)。これはCCD特有の現象で、故障ではありません。なお、この帯は静止画には記録されませんが、動画(71ページ)にはそのまま記録されますので、ご注意ください。

ファインダーを使って撮影する

電池の消耗を抑えるために【液晶モニター】をオフ(23ページ)にし、【ファインダー】を使って撮影することができます。暗い場所での撮影など、【液晶モニター】が見づらいときに【ファインダー】を使うと便利です。

重要!
- 【ファインダー】から見える撮影範囲は約1m以上離れた被写体を撮影した場合の範囲を表します。被写体の距離が近い場合、視差の関係で実際に写る範囲が異なります。

- マクロモードやマニュアルフォーカスモードでは、【液晶モニター】をファインダーとして使用してください。【液晶モニター】は視差の問題がないため、記録される画像が正しく表示されます。

ズームを使って撮影する

本機のズームには、光学ズームとデジタルズームの2種類があります。

光学ズーム

レンズの焦点距離を変えて撮影することができます。ズームの倍率は次の通りです。

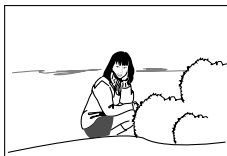
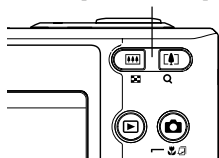
倍率：1～3倍

1. RECモードにします。

2. 【ズームボタン】を押して、ズームの倍率を変えます。

（広角）：広角になります。

（望遠）：望遠になります。

【ズームボタン】

広角

望遠

3. 【シャッター】を押して撮影します。

参考

- 光学ズームの倍率により、レンズの絞りの値も変わります。
- 望遠で撮影するときは、手ぶれ防止のため、三脚の使用をおすすめします。
- 動画撮影中は光学ズームは動作しません。デジタルズームのみ使用できます。【シャッター】を押す前であれば、光学ズームは使用できます（72ページ）。
- マクロ（接写）／マニュアルフォーカス撮影時に光学ズームを行うと、画面上に撮影可能な距離の範囲が表示されます（56、58ページ）。

デジタルズーム

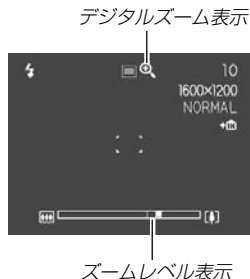
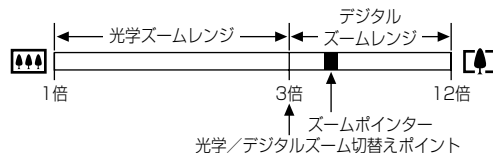
光学ズームが最も望遠になった（3倍）状態から、さらに画面の中央を拡大して撮影することができます。デジタルズームを使ったときのズームの倍率は次の通りです。

倍率：3〜12倍（光学ズーム併用）

重要!
- 【液晶モニター】の表示を消している場合は、デジタルズームを使って撮影することはできません（23ページ）。
- デジタルズームを使ってズーム撮影すると、画面の中央をデジタル処理で拡大するため、光学ズームと異なり画像は粗くなります。

■デジタルズームを使って撮影する

1. **RECモードにし、【ズームボタン】の［望遠マーク］（望遠）側を押して、ズームの倍率を変えます。**

- 【ズームボタン】を押すと、【液晶モニター】にズームレベルが表示されます。この表示で現在のおおよその倍率が分かります。

2. **【ズームボタン】を押して、光学ズームが最も望遠になると（ズームポインターが光学／デジタルズーム切替えポイントにくると）、いったんズーム動作を停止します。**

- ズームレベル表示のデジタルズームレンジは、デジタルズームが“入”に設定されているときにのみ表示されます（46ページ）。

3. **続けて【ズームボタン】の［望遠マーク］（望遠）側を押すと、ズームポインターがデジタルズームレンジに入り、デジタルズームに切り替わります。**

- 【ズームボタン】の［広角マーク］（広角）側を押すと、ズームポインターが光学／デジタルズーム切替えポイントでいったん停止した後、光学ズームレンジに戻り、光学ズームに切り替わります。

4. **【シャッター】を押して撮影します。**

■デジタルズーム機能のオン／オフを切り替える

1. **RECモードにして【MENU】を押します。**

2. **【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選びます。**

3. **【▲】【▼】で“デジタルズーム”を選び、【▶】を押します。**

4. **【▲】【▼】で設定項目を選び、【SET】を押します。**

入：デジタルズーム機能が働きます。

切：デジタルズーム機能は働きません。

- “切”を選ぶと、ズームレベル表示には光学ズームレンジのみが表示されます。

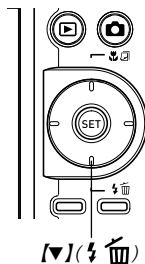
フラッシュを使って撮影する

撮影条件に合わせてフラッシュの発光方法を切り替えることができます。

- フラッシュの撮影範囲は下記の通りです。
  広角時：約0.4m～約2.6m（ISO感度オート時）
  望遠時：約0.4m～約2.0m（ISO感度オート時）

1. **RECモードにします。**

2. **【▼】（⚡ 🗑）を押して、フラッシュの発光方法を選びます。**

- 【▼】を押すたびに【液晶モニター】に次の順でフラッシュの発光方法が表示され、切り替わります。

フラッシュモード表示

表示なし(自動発光):露出(光の量や明るさ)に合わせて自動的に発光します。

- アイコンガイド(81ページ)を使用している場合は“⚡A(フラッシュオート)”を選んでください。

(発光禁止):露出に関係なく発光しません。

(強制発光):露出に関係なく強制的に発光します。

(赤目軽減):フラッシュ撮影時に人の目が赤く写ることを軽減します。露出に合わせて自動的に発光します。

3. 撮影します。

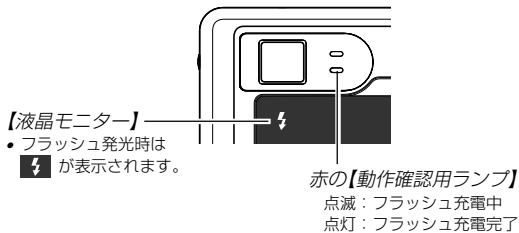
重要!
- フラッシュ撮影時、フラッシュは数回発光します。最初にプリ発光(露出情報を得るための予備発光)し、最後にメイン発光(フラッシュ撮影するための発光)することにより、最適な発光量でフラッシュ撮影が行われます。メイン発光が終わるまで、カメラは動かさないでください。

■ 赤目軽減機能について

夜や暗い室内などで人物をフラッシュ撮影したとき、目が赤く写ることがあります。これは、フラッシュ光が目の網膜に反射するために起こる現象です。赤目軽減機能を使うと、フラッシュ撮影する前に赤目用プリ発光(写す人の瞳孔を小さくするためにフラッシュが発光)することにより、人の目が赤く写ることを軽減します。

重要!
- 赤目軽減機能により撮影する場合は、下記の点に注意してください。
  – 写される人がフラッシュを注視していないと効果がありません。撮影する前にフラッシュを見るように声をかけておいてください。
  – 被写体までの距離が遠いと、効果が現れにくい場合があります。

フラッシュの状態について

フラッシュの状態については【シャッター】を半押ししたときに、【液晶モニター】や赤の【動作確認用ランプ】で確認できます。

フラッシュの光量を変える

フラッシュの光量を変えることができます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. 【◀】【▶】で"撮影設定"タブを選びます。

3. 【▲】【▼】で"フラッシュ光量"を選び、【▶】を押します。

4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

+2: 強く光る
+1 ↑
0
−1 ↓
−2: 弱く光る

重要! • 被写体が遠かったり、近すぎたりする場合は、光量が変わらない場合があります。

フラッシュ撮影時の光量の不足を補う（フラッシュアシスト機能）

フラッシュの撮影範囲よりも遠い被写体を撮影したとき、撮影に必要なフラッシュ光量が得られずに、被写体が暗く写ってしまう場合があります。そのような場合、この機能を使うと、撮影した被写体の明るさを補正し、フラッシュの光がより遠くへ届いたときと似たような効果を得ることができます。

フラッシュアシスト機能未使用

フラッシュアシスト機能使用

1. **RECモードにして【MENU】を押します。**

2. **【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選びます。**

3. **【▲】【▼】で“フラッシュアシスト”を選び、【▶】を押します。**

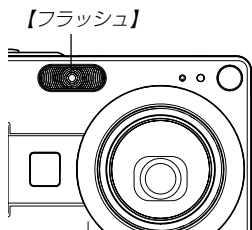
4. **【▲】【▼】で“オート”を選び、【SET】を押します。**

- “切”を選ぶと、フラッシュアシスト機能は働きません。

重要!

- 被写体によっては、思ったような効果が得られないことがあります。
- 下記のような操作を行ったとき、フラッシュアシスト機能を使用した撮影結果にほとんど変化が表れない場合があります。
  －フラッシュ光量を切り替えたとき（48ページ）
  －露出補正（ＥＶシフト）を行ったとき（59ページ）
  －ISO感度を切り替えたとき（78ページ）
  －コントラストの設定を切り替えたとき（80ページ）

■ フラッシュ使用時のご注意

- 【フラッシュ】が指で隠れないようにしてください。隠れてしまうとフラッシュ本来の効果が得られなくなります。
- 被写体までの距離が遠かったり、近かったりする場合は適切な効果が得られません。
- フラッシュの充電時間は、そのときの使用条件(電池の状態や温度等)により異なります。
  数秒〜10秒程度(フル充電の場合)
- ムービーモードの場合は、フラッシュは発光しません。このとき(発光禁止)が表示されます。
- 電池が消耗するとフラッシュの充電ができなくなることがあります。このとき(発光禁止)が点灯し、フラッシュが正常に発光せずに適正な露出が得られないことを示します。速やかに電池を充電してください。
- 暗い場所で撮影するときにフラッシュを“ ”(発光禁止)に設定すると、シャッター速度が遅くなるので、手ぶれを防ぐために、カメラを三脚などで固定するようにしてください。なお、このとき撮影した画像は多少ざらついた感じ(ノイズが発生した画像)になる場合があります。

【フラッシュ】

- (赤目軽減)では露出に合わせて自動的に発光するため、明るい場所ではフラッシュは発光しません。
- フラッシュを使用した場合は、外光や蛍光灯など他の光源があると色味が変わることがあります。

セルフタイマーを使って撮影する

【シャッター】を押してから約10秒または約2秒後に撮影することができます。また、3枚連続でセルフタイマー撮影する（トリプルセルフタイマー）こともできます。

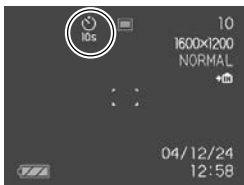
1. **RECモードにして【MENU】を押します。**

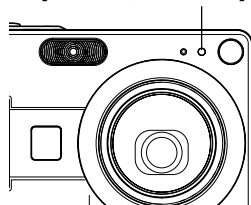
2. **【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選びます。**

3. **【▲】【▼】で“セルフタイマー”を選び、【▶】を押します。**

4. **【▲】【▼】でセルフタイマーの種類を選び、【SET】を押します。**

10秒：10秒後に撮影されます。
2秒：2秒後に撮影されます。
×3：10秒後に1枚、その後撮影準備完了の1秒後に1枚、さらに撮影準備完了の1秒後に1枚と、合計3枚撮影されます（トリプルセルフタイマー）。
切：セルフタイマーは使用できません。

- 【液晶モニター】にセルフタイマーの種類が表示されます。

5. **撮影します。**

- 【セルフタイマーランプ】が点滅し、約10秒、または2秒後に撮影されます。
- カウントダウン中に【シャッター】を半押しすると、セルフタイマーを解除することができます。【シャッター】を全押しすると、最初から再度カウントダウンを始めます。

参考

- シャッター速度が遅いときにセルフタイマーの2秒の設定を使用すると手ぶれ防止になります。
- トリプルセルフタイマーでは、次の撮影準備が終わると“1sec”と表示され、約1秒後に撮影されます。撮影準備完了までの時間は、画像の“サイズ”や“画質”とメモリーカードの有無またはフラッシュの充電の有無によって異なります。
- 下記の撮影では、トリプルセルフタイマーは使用できません。
  カップリングショット（66ページ）、プリショット（68ページ）、ビジネスショット（69ページ）

画像サイズを変更する

画像サイズとは、カメラが記録する撮影画像の大きさを画素数(pixels)で表したものです。この画素数は1枚の画像を構成する粒子のきめ細かさを示している数値で、数字が大きいほど、印刷したときにきめが細かく美しい仕上がりになります。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. 【◀】【▶】で"撮影設定"タブを選びます。

3. 【▲】【▼】で"サイズ"を選び、【▶】を押します。

4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

- 画像サイズを選択している際に、画素数とプリントサイズが交互に表示されます。プリントサイズは、選んだ画素数に対して、プリント時に最適な用紙のサイズを示しています。

画素数(pixels)		
大きい	2560×1920	
↕	2560×1712 (3:2)	
	2048×1536	
	1600×1200	
	1280× 960	
小さい	640× 480	

- 「プリントサイズ」は、あくまでも参考のサイズとお考えください(印刷解像度が200dpiの場合)。
- "2560×1712(3:2)"を選ぶと、プリント紙の横縦比3:2に合うように、画像を3:2の比率で撮影します。

画質を変更する

画質とは、画像を記録する際のデータ圧縮率を表したものです。
用途に合わせて画質を変更してください。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. 【◀】【▶】で"撮影設定"タブを選びます。

3. 【▲】【▼】で"画質"を選び、【▶】を押します。

4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

設定内容		選択時の目安
高画質 ↕ 低画質	高精細	画質を優先したいとき
	標準	通常の撮影をするとき
	エコノミー	撮影枚数を優先したいとき

重要! • 撮影した画像によってファイルサイズが異なるため、実際の撮影可能枚数と画面上の表示枚数が一致しない場合があります(21、168ページ)。

撮影する(応用編)

ピント合わせの方法を変える

ピント合わせの方法には、オートフォーカス、マクロ、パンフォーカス、無限遠、マニュアルフォーカスの5種類があります。これらをフォーカスモードといいます。

1. **RECモードにします。**

2. **【▲】( )を押して、ピント合わせの方法を選びます。**

- 【▲】を押すたびに【液晶モニター】に次の順でフォーカスモードが切り替わります。

フォーカスモード

表示なし(オートフォーカス):
自動的にピントを合わせます。
- アイコンガイド(81ページ)を使用している場合は"AF(オートフォーカス)"を選んでください。

↓

(マクロ<接写>):
近くのものを撮影するときに使用します。

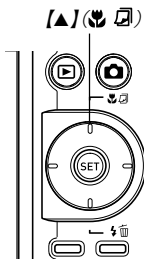
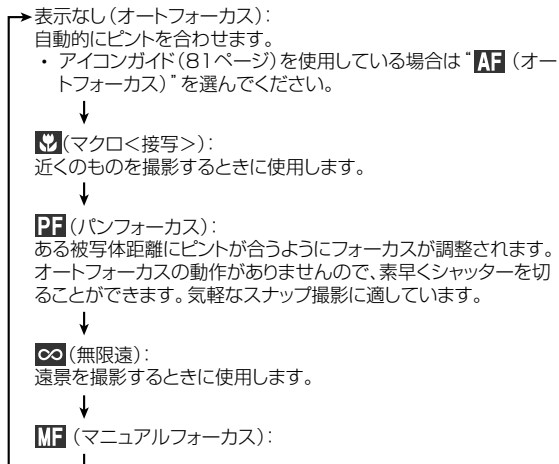
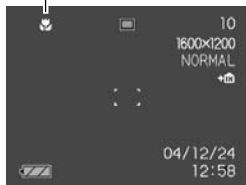
↓

PF(パンフォーカス):
ある被写体距離にピントが合うようにフォーカスが調整されます。オートフォーカスの動作がありませんので、素早くシャッターを切ることができます。気軽なスナップ撮影に適しています。

↓

∞(無限遠):
遠景を撮影するときに使用します。

↓

MF(マニュアルフォーカス):

自動でピントを合わせる（オートフォーカス）

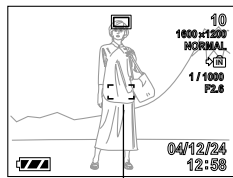
オートフォーカスでは自動的にピントを合わせることができます。シャッターを半押しすると、オートフォーカス機能が働き、自動的にピント調整を始めます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

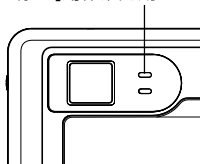
範囲：約40cm～∞（無限遠）

1. 【▲】（ ）を何回か押して、フォーカスモード表示を消します。

- アイコンガイド（81ページ）を使用している場合は“AF（オートフォーカス）”を選んでください。

2. ピントを合わせたい被写体を【フォーカスフレーム】の中に入れて、【シャッター】を半押しします。

- 【動作確認用ランプ】と【フォーカスフレーム】の点灯のしかたによってピントの状況を知ることができます。

【フォーカスフレーム】

緑の【動作確認用ランプ】

状況	動作確認用ランプ	フォーカスフレーム
ピント合わせ完了	緑点灯	緑点灯
ピント合わせ不可	緑点滅	赤点灯

3. 【シャッター】を全押しして撮影します。

参考
- 被写体がオートフォーカスの範囲よりも近距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にマクロ（56ページ）の範囲までピント調整を行います。

■ オートパンフォーカスについて

オートフォーカスモードでは、シャッター半押しによるオートフォーカスが完了する前に、シャッターを全押しすると、オートフォーカスが作動せずにパンフォーカス（57ページ）で撮影されます。シャッターチャンスを逃さずに撮影することができます。

1. RECモードで【MENU】を押します。

2. “撮影設定”タブ→“オートPF”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

入：オートパンフォーカスが機能します。
切：オートパンフォーカスが機能しません。

■ オートフォーカスの測定範囲(AFエリア)を変える

オートフォーカスモード、マクロモードでは、オートフォーカス(AF)の測定範囲を変更することができます。

1. RECモードで【MENU】を押します。

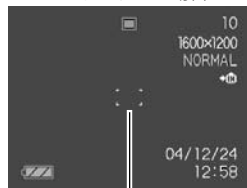
2. "撮影設定"タブ→"AFエリア"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

スポット：中央のごく狭い部分を測定します。フォーカスロック(59ページ)を活用した撮影に便利です。

マルチ　：【シャッター】を半押しすると、7つの測距点の中で、距離が一番近い被写体にピントを合わせます。ピントの中抜け防止に役立ちます。被写体が画面の中心にない場合や、気軽なスナップ撮影などに便利です。

参考
- "マルチ"の場合、幅の広い【フォーカスフレーム】が表示されます。【シャッター】を半押しすると、ピントが合った場所の【フォーカスフレーム】が表示されます。

"スポット"の場合

【フォーカスフレーム】

"マルチ"の場合

【フォーカスフレーム】

近くを撮影する(マクロ)

近くのものにピントを合わせて撮影します。ピントが合う距離は下記の通りです。

範囲：約6cm～50cm

1. 【▲】(🌷 ⏱)を何回か押して、"🌷"を表示させます。

2. 撮影します。
- ピントの合わせかた、撮影のしかたはオートフォーカスモードと同じです。

参考
- 被写体がマクロの範囲より遠距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にオートフォーカス(55ページ)の範囲までピント調整を行います。
- マクロ(接写)撮影時に光学ズーム(44ページ)を行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。
  例：🌷10cm-50cm

重要!
- マクロ(接写)でフラッシュ撮影すると、フラッシュの光がレンズ部にさえぎられて、画像に影が映し込まれることがありますので、ご注意ください。

ピントを固定して撮影する(パンフォーカス)

本機では通常、ピント合わせをオートフォーカスで行っています。パンフォーカス機能では、ある被写体距離にピントが合うようにフォーカスを調整しておくため、オートフォーカスの動作がありませんので、素早くシャッターを切ることができます。気軽なスナップ撮影に適しています。ピントが合う範囲はズームの位置や明るさなどによって異なります。

1. **【▲】(🌷 ◪)を何度か押して、"PF"を表示させます。**

2. **【シャッター】を全押しして撮影します。**

参考

- 【シャッター】を半押しすることで、【液晶モニター】にピントが合う範囲が表示されます。

ピントが合う範囲

重要!

- 光学ズームの広角側より、望遠側の方がピントの合う範囲が狭くなります。
- 被写体が明るいときより、暗いときの方がピントの合う範囲が狭くなります。
- フラッシュ撮影時は、広角側での撮影をおすすめします。

遠くを撮影する(無限遠)

無限遠では∞(無限遠)にピントが固定されます。景色など遠景を撮影するときに使用します。

1. **【▲】(🌷 ◪)を何回か押して、"∞"を表示させます。**

2. **撮影します。**

手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）

マニュアルフォーカスでは手動でピントを合わせることができます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

光学ズーム倍率	範囲
1倍	約6cm～∞
3倍	約18cm～∞

1. **【▲】（ ）を何回か押して、"MF"を表示させます。**

- 手順2で拡大表示される範囲が枠で囲まれます。

枠

2. **【液晶モニター】で確認しながら【◀】【▶】を押してピントを合わせます。**

【◀】：近い側にピントを合わせる

【▶】：遠い側にピントを合わせる

- ピントを合わせている間は表示が拡大表示になり、ピントの確認がしやすくなります。

マニュアルフォーカスの位置

3. **【シャッター】を押して撮影します。**

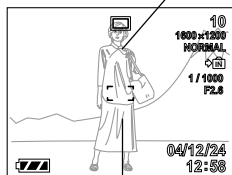
重要!
- マニュアルフォーカス時の【◀】【▶】の働きは、「左右キー設定」（82ページ）で設定された機能でなく、ピント合わせの動作が優先されます。

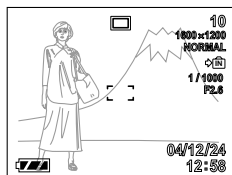
参考
- マニュアルフォーカス撮影時に光学ズーム（44ページ）を行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。
  例：MF 10cm-∞

フォーカスロック

【フォーカスフレーム】に入らない被写体にピントを合わせる場合は、フォーカスロックを使います。フォーカスロックはオートフォーカスモード、マクロモード"🌷"で使用できます。

1. ピントを合わせたい被写体をフォーカスフレームに入れて、【シャッター】を半押しします。

ピントを合わせたい被写体

【フォーカスフレーム】

2. 【シャッター】を半押ししたまま、撮影したい構図を決めます。

3. 【シャッター】を全押しして撮影します。

参考 • フォーカスロックと同時に露出(AE)もロックされます。

露出を補正する(EVシフト)

本機は撮影時の明るさに応じて、露出値(EV値)を下記の値に手動で補正することができます。逆光での撮影、間接照明の室内、背景が暗い場合の撮影などに利用すると、より良好な画像が得られます。

露出補正値：−2.0EV～+2.0EV
補正単位　：1/3EV

1. RECモードにして【MENU】を押します。

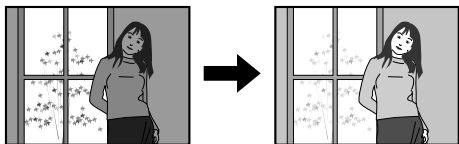
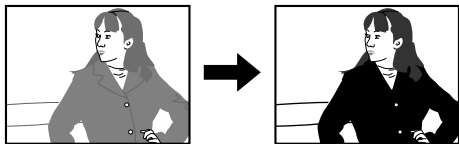
2. "撮影設定"タブ→"EVシフト"と選び、【▶】を押します。

露出補正表示

3. **【▲】【▼】で露出補正値を選び、【SET】を押します。**

- これで露出補正値が設定されました。

露出補正表示

【▲】: ＋方向に補正されます。白い物の撮影や逆光での撮影のときに押します。

【▼】: －方向に補正されます。黒い物の撮影や晴天の野外などのときに押します。

- 露出補正値を元に戻したいときは、反対方向に露出補正して"0.0"に合わせてください。

4. **撮影します。**

重要!
- 明るすぎたり、暗すぎたりするときは、露出補正ができない場合があります。

参考
- 露出補正を行うと、測光方式が自動的に中央重点測光(中央部を重点的に測光します)に切り替わります。露出補正値を"0.0"に戻すとマルチパターン測光(画面全体を分割し、それぞれのエリアの測光データを元に露出を決めます)に戻ります。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけで露出値を補正することができます(82ページ)。ヒストグラム表示(76ページ)を確認しながらの撮影に便利です。

ホワイトバランスを変える

被写体は、太陽光や電球の光など光源の波長によって色味が異なっています。ホワイトバランスとは、被写体を自然な色合いで撮影できるように白を基準に色味を調整することです。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. "撮影設定"タブ→"ホワイトバランス"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

オート　：自動的にホワイトバランスを調整します。
太陽光：晴天時の野外での撮影用
曇天　：薄雲〜雨天の野外や木陰などの撮影用
日陰　：ビルの陰など極端に色温度が高いところでの撮影用
蛍光灯1：白色・昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用
蛍光灯2：昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用
 電球　：電球の雰囲気を消した撮影用
マニュアル：その場の光源に合わせて手動で設定します。詳しくは「マニュアルホワイトバランスを設定する」(62ページ)を参照してください。

参考
- ホワイトバランスの"オート"では、被写体の中から白色点を自動的に判断します。被写体の色や光源の状況によってはカメラが白色点の判断に迷い、適切なホワイトバランスに調整されないことがあります。このような場合は、太陽光、曇天など光源を指定する固定モードをご使用ください。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけでホワイトバランスを変更することができます(82ページ)。
- キーカスタマイズ機能で"オート"を選ぶときにアイコンガイド(81ページ)を使用している場合は、"AWB(オートWB)"を選んでください。

マニュアルホワイトバランスを設定する

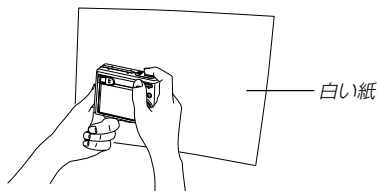
ホワイトバランスの“オート”や太陽光、曇天など光源を指定する固定モードでは、複数の光源下など難しい環境において調整できる範囲に限界があります。マニュアルホワイトバランスを使うと、さまざまな光源下で適正な色に調整することができます。マニュアルホワイトバランスの設定のために、白い紙を用意しておいてください。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. “撮影設定”タブ→“ホワイトバランス”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で“マニュアル”を選びます。

- 【液晶モニター】には、前回調整したバランスで被写体が表示されます。この設定で使う場合は、操作5に進んでください。

4. 画面全体に白い紙などを写した状態で【シャッター】を押します。

- “完了”と表示されたらホワイトバランスの調整は完了です。

5. 【SET】を押します。

- ホワイトバランスを決定し、撮影ができる画面に戻ります。

参考
- 一度設定したマニュアルホワイトバランスは、新たにマニュアルホワイトバランスを設定し直さない限り、電源を入／切しても保持されたままとなります。

さまざまなシーンを選んで撮影する(ベストショットモード)

23種類のシーンの中から撮影したいシーンを選ぶと、自動的にそのシーンに最適な設定になります。

シーンNo.	内蔵シーン
1	人物を写します
2	風景を写します
3	風景と人物を写します
4	カップリングショット(66ページ)
5	プリショット(68ページ)
6	子供を写します
7	キャンドルライトで人物を写します
8	パーティーを写します
9	ペットを写します
10	花を写します
11	緑を鮮やかに写します
12	夕日を写します
13	夜景を写します
14	夜景と人物を写します
15	花火を写します
16	食べ物を写します
17	文字を写します
18	コレクションを写します
19	白黒
20	レトロ
21	トワイライト
22	名刺や書類を写します(69ページ)
23	ホワイトボードなどを写します(69ページ)
	新規登録(65ページ)

1. **RECモードにして、"撮影モード"を"BSベストショット"に設定します。**

- ベストショットモードに設定すると、シーンのサンプル画像が表示されます。
- 設定のしかたは、「撮影モードを設定する」(38ページ)をご覧ください。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけで撮影モードを切り替えることができます(82ページ)。

2. 【◀】【▶】で撮影したいシーンを選び、【SET】を押します。

- 再度【SET】を押すと、別のシーンを選び直すことができます。また、現在選ばれているシーンを、確認することもできます。

3. 撮影します。

重要!

- シーンに使用されているサンプル画像は本機で撮影されたものではありません。イメージ画像です。
- 被写体の条件によっては、充分な効果が得られなかったり、正しく撮影されない場合があります。
- 選んだシーンの各種設定内容は変更することができますが、シーンを選び直したり、電源を入れ直すと、設定内容は初期状態に戻ります。
- 夜景や花火のシーンなどシャッター速度が遅くなる撮影では、撮影した画像にノイズが発生するため、自動的にノイズ低減処理を行っています。このノイズ低減処理のために、撮影が終了するまでの時間がシャッター速度に比べて長くなります。その間はキー操作を行わないでください。
- 夜景や花火のシーンなどシャッター速度が遅くなる撮影では、手ぶれを防ぐために、三脚の使用をおすすめします。

参考

- ベストショットモードで電源を入れたとき、または【◀】【▶】で撮影モードをベストショットモードに切り替えたとき、約2秒間、操作ガイドと現在選ばれているシーンのサンプル画像が表示されます。

撮影したいシーンを登録する(カスタム登録)

今まで撮影した画像の設定内容をベストショットモードに登録して、同じ設定で撮影することができます。

1. RECモードにして"撮影モード"を"ベストショット"に設定します(38ページ)。

- ベストショットモードに設定すると、シーンのサンプル画像が表示されます。

2. 【◀】【▶】を押して、"新規登録"を表示させせます。

3. 【SET】を押します。

4. 【◀】【▶】を押して、登録したい画像を選びます。

5. 【▲】【▼】で"登録"を選び、【SET】を押します。

- 登録が完了し、撮影できる状態になります。以降、63ページと同じ操作により、この設定を選んで撮影することができます。

重要!
- 本機内蔵のシーンのあとに"マイベストショット"(カスタム登録したシーン)の順番でシーンが登録されます。
- 内蔵メモリーをフォーマット(116ページ)すると、カスタム登録したベストショットモードのシーンファイルは消えてしまいます。

参考
- 登録される設定内容は下記の通りです。
  フォーカスモード、EVシフト、ホワイトバランス、フラッシュモード、ISO感度、フラッシュ光量、フラッシュアシスト、シャープネス、彩度、コントラスト
- 登録できるのは本機で撮影された画像だけです。
- 登録可能件数は最大999件です。
- 各シーンの設定状態はメニューをたどり、各機能の設定内容を表示させせることにより、確認できます。
- カスタム登録したシーンは、内蔵メモリー内の「SCENE」フォルダに保存されます。ファイル名は、「UEZ55nnn.JPE (n=0〜9)」となります。

登録したシーンを削除する

自分で登録(カスタム登録)したベストショットを削除することができます。

1. ベストショットモード中に【SET】を押します。
2. 【◀】【▶】で削除したいシーンを選びます。
3. 【▼】(⚡ 🗑)を押します。
4. 【▲】【▼】で"解除"を選び、【SET】を押します。
5. 【MENU】を押します。

二人で記念撮影をする(カップリングショット)

一画面を2つに分けて2回撮影し、その後自動合成して1枚の画像にする機能です。他の人に撮影を頼むことができないときでも、全員揃って記念撮影できます。この機能はベストショットモード(63ページ)の中にあります。

- 1回目の撮影
  撮影者以外を撮影する。

- 2回目の撮影
  背景の重なり具合を確認しながら撮影者のみを撮影する。

- 合成

1. RECモードにして、"撮影モード"を"BSベストショット"に設定します(38ページ)。

2. 【◀】【▶】で"カップリングショット"のシーンを選び、【SET】を押します。

3. 最初に【液晶モニター】で【フォーカスフレーム】を左側部分の被写体に合わせます。

- カップリングショットでは、"AFエリア"(56ページ)が自動的に"スポット"になります。

【フォーカスフレーム】

4. 【シャッター】を押して、左側部分を撮影します。

- この撮影で下記の情報が固定されます。
  フォーカス、露出、ホワイトバランス、ズーム、フラッシュ

5. 次に【液晶モニター】上で半透明で表示されている左側部分と、現在の背景が正しく重なるようにフレームを合わせます。

- 【MENU】を押すと、この撮影をキャンセルし、操作3に戻ることができます。

半透明の画像

6. 【シャッター】を押して、 右側部分を撮影します。

好みの構図で記念撮影をする(プリショット)

プリショット機能は人に撮影を依頼するときに便利な機能です。この機能では一度の撮影で2回の撮影を行います。1回目の撮影で撮影画像を半透明の状態で【液晶モニター】上に表示し、2回目では表示されている半透明の画像を目安に最終的な撮影を行います。2回目に撮影した画像が記録されます。この機能はベストショットモード(63ページ)の中にあります。

- 好みの構図を自分で撮影

- 構図に合わせて他の人に撮影してもらう

- 2回目のみの画像が記録される

1. **RECモードにして、"撮影モード"を"BSベストショット"に設定します(38ページ)。**

2. **【◀】【▶】で"プリショット"のシーンを選び、【SET】を押します。**

3. **【シャッター】を押して、最初に仮撮影を行います。**

- この操作で撮影した画像は操作4で半透明で表示されますが、最終的にはカメラに保存されません。
- この撮影で下記の情報が固定されます。

  フォーカス、露出、ホワイトバランス、ズーム、フラッシュ

4. **次に他の人にカメラを渡して、【液晶モニター】上で半透明で表示されている背景と、現在の背景が正しく重なるように合わせてもらいます。**

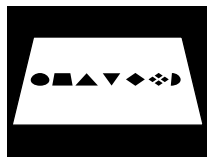
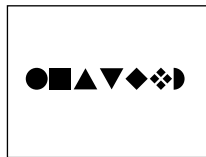
- 【MENU】を押すと、この撮影をキャンセルし、操作3に戻ることができます。

半透明の画像

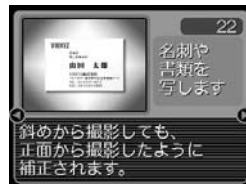
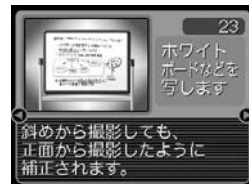
5. **【シャッター】を押して、撮影してもらいます。**

- この操作で撮影した画像がカメラに保存されます。

名刺や書類などを撮影する(ビジネスショット機能)

名刺や書類、ホワイトボードなどの撮影時に、撮影の立ち位置の都合によって正面からは撮影できない場合があります。ビジネスショットでは、斜めから撮影した画像を自動的に正面から撮影したかのように補正して撮影することができます。

補正処理前　　補正処理後

■ ビジネスショット用シーンのサンプル画像例

- 名刺や書類を写します

- ホワイトボードなどを写します

重要!
- 被写体が【液晶モニター】に収まるような構図で撮影してください。被写体が【液晶モニター】からはみ出すと認識できません。
- 被写体と背景が同色の場合、認識できません。被写体と背景の境界がはっきりするような構図で撮影してください。

参考
- 名刺や書類の撮影時に、被写体に対してカメラが傾いていると、「台形歪み」(長方形の被写体が遠近の関係で台形として写ってしまう状態)が生じます。本機は台形歪みが生じた画像を自動的に補正するため、撮影時の多少の台形歪みを気にする必要はありません。

ビジネスショット機能を選択するには

1. RECモードにして、“撮影モード”を“BS ベストショット”に設定します(38ページ)。

2. 【◀】【▶】でビジネスショット用のシーンを選び、【SET】を押します。

3. 撮影します

- 補正確認画面が表示されます。ただし、補正候補が検出できない場合は、補正確認画面が表示されず、エラーメッセージが表示されます(166ページ)。その後、撮影した元画像を保存します。

4. 【◀】【▶】で補正候補を選びます。

5. 【▲】【▼】で“補正”を選び、【SET】を押します。

- “キャンセル”を選ぶと、補正せずに撮影した元画像を保存します。

重要!
- ビジネスショットでは、大きな撮影サイズに設定しても1600×1200pixelsの画像として撮影されます。ただし、撮影サイズの設定が1600×1200pixelsよりも小さい場合には、設定されている通りのサイズで撮影されます。

動画を撮影する(ムービーモード)

メモリー容量いっぱいに、音声付き動画を撮影することができます。

●ファイル形式：AVI形式
AVI形式は、Open DML グループが提唱したMotion JPEGフォーマットに準拠しています。

●画像サイズ：320×240pixels

●動画ファイルサイズ：約300KB/秒

●撮影可能なムービーの時間：
• 一度に撮影可能な最長時間：メモリー容量による

• ムービーモードで撮影したファイルは、Windows Media Playerを使用して、パソコン上で再生することもできます。

1. RECモードにして“撮影モード”を“ ムービー”に設定します(38ページ)。

撮影可能な残り時間

撮影時間

- ムービーモードに設定すると、【液晶モニター】に“ ”が表示されます。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけで撮影モードを切り替えることができます(82ページ)。

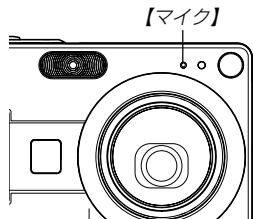
2. 撮影する被写体にカメラを向け、【シャッター】を押します。

ムービー録画中

- 残りのメモリー容量の範囲内で撮影することができます。
- ムービーモードではモードメモリ(83ページ)の“フォーカス方式”の設定にかかわらず、フォーカスモードが自動的にパンフォーカス(57ページ)になります。撮影前であれば、他のフォーカスモードに切り替えることができます。

- 動画撮影中は光学ズームは動作しません。デジタルズームのみ使用できます。【シャッター】を押す前であれば、光学ズームは使用できます。
- 動画撮影を途中で終了させたいときは、もう一度【シャッター】を押してください。

3. 動画撮影が終了したら、動画ファイルがカメラのメモリーに保存されます。

重要!
- フラッシュは発光しません。
- 本機では音声も同時に記録されますので、次の点に注意してください。
  - 指などで【マイク】をふさがないようにご注意ください。
  - 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。
  - 撮影中にボタン操作をすると、操作音が入ることがあります。
  - 音声はモノラルで録音されます。
  - ムービーモードに切り替えると、モードメモリ(83ページ)の"フォーカス方式"の設定にかかわらず、自動的にフォーカスモードがパンフォーカス(57ページ)になります。

  - フォーカスモード(54ページ)をオートフォーカスモードかマクロモード(🌷)にすると、自動的にピント調整を行います。その際に「カタカタ」というレンズ移動音も一緒に収録されてしまいます。ピント調整音が気になる場合は、パンフォーカスのまま撮影するか、あらかじめマニュアルフォーカスモード(MF)でピントを調整したうえ、撮影することをおすすめします。
  - フォーカスモードをパンフォーカスモード(PF)、マニュアルフォーカスモード(MF)、無限遠モード(∞)にすると「カタカタ」という動作音は入りません。ただし、マニュアルフォーカスモードでは撮影中のピント調整ができなくなりますので、撮影前にピントを合わせてください。
- 使用するメモリーカードによっては、記録時間がかかるため、コマ落ちする場合があります。このとき、[アイコン]と●RECが点滅します。

音声を記録する

画像に音声を加えて記録する (音声付き静止画撮影モード)

画像撮影後に、音声を録音することができます。

- ●画像形式:JPEG形式
  画像を効率よく圧縮するための画像フォーマットです。
  拡張子は".JPG"となります。
- ●録音形式:WAVE/ADPCM記録形式
  音声を録音するためのWindows標準フォーマットです。
  拡張子は".WAV"となります。
- ●録音時間:1画像につき最長約30秒間
- ●音声ファイルサイズ:
  約120KB(約4KB/秒で30秒間録音時)

参考 • 音声付き静止画撮影モードで録音したファイルは、Windows Media Playerを使用して、パソコン上で再生することもできます。

1. RECモードにして、"撮影モード"を"♪ 静止画+音"に設定します(38ページ)。

- 音声付き静止画モードに設定すると、【液晶モニター】に"♪"が表示されます。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけで撮影モードを切り替えることができます(82ページ)。

2. 【シャッター】を押して、画像を撮影します。

- 画像を撮影した後、音声録音スタンバイ状態になります(今、撮影した画像が表示されます)。
- 音声録音スタンバイ状態で【MENU】を押すと、音声録音を解除することができます。

録音可能時間

3. 【シャッター】を押して、音声を録音します。

- 録音中は緑色の【動作確認用ランプ】が点滅します。
- 【DISP】を押して【液晶モニター】をオフに設定しても、音声録音時には【液晶モニター】は点灯します。

4.【シャッター】を押すか約30秒経つと、録音を終了します。

重要! • 音声付き静止画モードでは次の撮影はできません。
セルフタイマー撮影の"×3"（トリプルセルフタイマー）

音声のみ記録する（ボイスレコードモード）

音声のみを録音することができます。

●録音形式：WAVE/ADPCM記録形式
音声を録音するためのWindows標準フォーマットです。
拡張子は".WAV"となります。

●録音時間：内蔵メモリー使用時で最長約39分

●音声ファイルサイズ：
約120KB（約4KB／秒で30秒間録音時）

参考 • ボイスレコードモードで録音したファイルは、Windows Media Playerを使用して、パソコン上で再生することもできます。

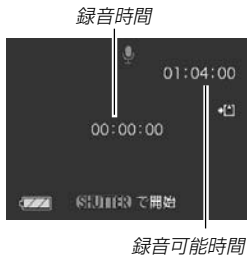
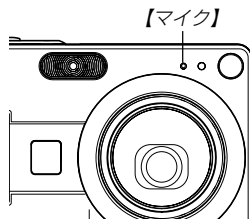
1. **RECモードにして、"撮影モード"を"🎙ボイスレコード"に設定します(38ページ)。**

- ボイスレコードモードに設定すると、【液晶モニター】に"🎙"が表示されます。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけで撮影モードを切り替えることができます(82ページ)。

2. **【シャッター】を押して、音声を録音します。**

- 録音中は緑色の【動作確認用ランプ】が点滅します。
- 録音中に【DISP】を押すと、【液晶モニター】が消灯します。
- 録音中に【SET】を押すと、録音位置を記憶したマークを付けることができます。

3. **再度【シャッター】を押すと録音が終わり、音声が記録されます。**

参考 •【DISP】を押しながら、【電源ボタン】または【📷】(REC)を押すと、レンズを繰り出さずにボイスレコードモードで起動します。

■ 音声記録時のご注意

- カメラ前面部にある【マイク】を必ず対象に向けてください。
- 指などで【マイク】をふさがないようにご注意ください。
- 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。
- 録音中に【電源ボタン】を押したり【▶】(PLAY)を押すと、録音は中止となり、その時点までの音声が記録されます。
- 撮影済みの静止画像に、後から音声を追加(アフターレコーディング機能)することができます。また、録音済みの音声を記録し直すこともできます(96ページ)。

ヒストグラムを活用する

【DISP】を押して【液晶モニター】上にヒストグラムを表示させることにより、露出（光の量や明るさ）をチェックしながら撮影することができます（23ページ）。再生モードでは撮影された画像のヒストグラムを見ることができます。

ヒストグラム

ヒストグラム（輝度成分分布表）とは、画像の明るさのレベルをピクセル数によりグラフ化したものです。縦軸がピクセル数、横軸が明るさを表します。ヒストグラムを見ると、補正するために充分な画像のディテールが画像のシャドウ（左側）、中間調（中央部分）、ハイライト（右側）に含まれているかどうかを確認することができます。もしもヒストグラムが片寄っていた場合は、EVシフト（露出補正）を行うと、ヒストグラムを左右に移動させることができます。なるべくグラフが中央に寄るように補正をすることによって、適正露出に近づけることができます。さらにR（赤）、G（緑）、B（青）の色成分が独立したヒストグラムも同時に表示されますので、色ごとに「赤成分がオーバー」「青成分がアンダー」のように各色の分布状況も直感的に把握することができます。

- キーカスタマイズ機能で“EVシフト”の切り替えを【◀】【▶】に割り当てると（82ページ）、ヒストグラムを確認しながら【◀】【▶】でEVシフトを行って撮影することができます（59ページ）。

- ヒストグラムが左の方に寄っている場合は、暗いピクセルが多いことを示しています。
  全体的に暗い画像はこのようなヒストグラムになります。また、あまり左に寄り過ぎていると、黒つぶれを起こしている可能性もあります。

- ヒストグラムが右の方に寄っている場合は、明るいピクセルが多いことを示しています。
  全体的に明るい画像はこのようなヒストグラムになります。また、あまり右に寄り過ぎていると、白飛びを起こしている可能性もあります。

- ヒストグラムが中央に寄っている場合、明るいピクセルから暗いピクセルまで適度に分布していることを示しています。
  全体的に適度な明るさの画像はこのようなヒストグラムになります。

重要!

- 前記のヒストグラムはあくまでも例であり、被写体によってはヒストグラムの形が例のようにならない場合もあります。
- 撮影したい画像を意図的に露出オーバーやアンダーにする場合もあるので、必ずしも中央に寄ったヒストグラムが適正となる訳ではありません。
- 露出補正には限界がありますので、調整しきれない場合があります。
- フラッシュ撮影など、撮影したときの状況によっては、ヒストグラムによりチェックした露出とは異なる露出で撮影される場合があります。
- カップリングショット撮影時(66ページ)、プリショット撮影時(68ページ)は、ヒストグラムは表示されません。
- RGB(色成分)ヒストグラムは、静止画にのみ表示されます。
- ムービーモードでは、輝度成分のヒストグラムのみが表示されます。

各種機能を設定する

RECモードでは、下記の機能を設定することができます。

- ISO感度
- シャープネス
- 彩度
- コントラスト
- グリッド表示のオン/オフ
- 撮影レビュー
- アイコンガイド
- 左右キー設定
- 各種設定の記憶(モードメモリ)
- 各種設定のリセット

参考

- 上記以外に、次の機能も変更できます。操作方法については各ページをご覧ください。
  – サイズ(52ページ)
  – 画質(53ページ)
  – ホワイトバランス(61ページ)
  – デジタルズーム(45ページ)
  – AFエリア(56ページ)
  – オートPF(57ページ)
  – フラッシュ光量(48ページ)
  – フラッシュアシスト(49ページ)

ISO感度を変える

暗い場所で撮影するときやシャッター速度を速くしたいとき、ISO感度が変更できます。使用目的に応じてISO感度を設定してください。

- ISO感度とは、光に対する感度をISO（写真フィルムの感度単位）の数値で表したものです。数値が大きいほど感度が高くなり、暗い場所での撮影に強くなります。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. "撮影設定"タブ→"ISO 感度"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

ISO 50　：感度が低い
ISO 100　↕
ISO 200
ISO 400　：感度が高い
オート　：撮影条件により自動調整します。

重要!
- 同じ撮影条件下でISO感度を上げるとシャッター速度は早くなりますが、画像は多少ざらついた感じ（ノイズが増加した画像）になりますので、きれいに撮りたいときはなるべくISO感度を下げてください。
- ISO感度を上げてフラッシュ撮影すると、近くの被写体の明るさが適正にならない場合があります。

参考
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけでISO感度を変更することができます（82ページ）。

シャープネスを変える

撮影される画像の鮮鋭度を設定できます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. "撮影設定"タブ→"シャープネス"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

彩度を変える

撮影される画像の色の鮮やかさを設定できます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. "撮影設定"タブ→"彩度"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

コントラストを変える

撮影される画像の明暗の差を設定できます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. “撮影設定”タブ→“コントラスト”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

＋2：　明暗がクッキリする
＋1　↑
　0
－1　↓
－2：　明暗が平坦になる

グリッドを表示する

撮影時、【液晶モニター】に方眼を表示します。カメラを水平や垂直に保つのに便利です。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. “撮影設定”タブ→“グリッド表示”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

入：グリッドを表示します。
切：グリッドは表示しません。

撮影した画像を確認する（撮影レビュー）

撮影した直後に撮影した画像を【液晶モニター】で確認することができます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. “撮影設定”タブ→“撮影レビュー”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定項目を選び、【SET】を押します。

入：撮影した画像が約1秒間表示されます。

切：撮影した画像は表示されません。

画面上のアイコンの意味を確認する（アイコンガイド機能）

RECモード時に【液晶モニター】上でアイコンの意味を確認しながら操作することができます（22ページ）。

- アイコンの意味を確認できる機能は、次の通りです。
  フラッシュモード、フォーカスモード、ホワイトバランス、セルフタイマー、撮影モード
  ただし、ホワイトバランス、セルフタイマー、撮影モードのアイコンの意味は、キーカスタマイズ機能（82ページ）を“ホワイトバランス”“セルフタイマー”“撮影モード”に設定したときにのみ表示されます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. “撮影設定”タブ→“アイコンガイド”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

入：各種撮影機能を切り替えたとき、切り替えた機能を示すアイコンの近くに、アイコンの意味が表示されます。

切：アイコンの意味を表示しません。

重要! • 次のアイコンは切り替え操作したときにだけアイコンとその意味が表示され、しばらくすると表示は消えます。
– フラッシュモードの“⚡A”（フラッシュオート）（47ページ）
– フォーカスモードの“AF”（オートフォーカス）（55ページ）
– ホワイトバランスの“AWB”（オートWB）（61ページ）

左右キーに機能を割り当てる（キーカスタマイズ）

【◀】【▶】に、5つの中のどれか1つの機能の操作を割り当てることにより、操作しやすくすることができます。

1. **RECモードにして【MENU】を押します。**

2. **“撮影設定”タブ→“左右キー設定”と選び、【▶】を押します。**

3. **【▲】【▼】で割り当てる機能を選び、【SET】を押します。**

- 【◀】【▶】を押すだけで、割り当てた機能を設定することができるようになります。

撮影モード	：（38ページ）
EVシフト	：（59ページ）
ホワイトバランス	：（61ページ）
ISO感度	：（78ページ）
セルフタイマー	：（51ページ）
切	：【◀】【▶】に操作を割り当てません。

各種設定を記憶させる(モードメモリ)

モードメモリとは、電源を切ったときでも直前の状態を記憶しておく機能です。電源の入/切で毎回設定をし直す手間がはぶけます。

●モードメモリで設定できる機能

撮影モード、フラッシュ、フォーカス方式、ホワイトバランス、ISO感度、AFエリア、セルフタイマー、デジタルズーム、フラッシュ光量、MF位置、ズーム位置

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. 【◀】【▶】で"モードメモリ"タブを選びます。

3. 【▲】【▼】で設定したい機能を選び、【▶】を押します。

4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

入:電源を切ったときにその時点の設定を記憶します。

切:電源を切ったときに初期設定に戻ります。

機　能	入	切
撮影モード	最後の状態	静止画
フラッシュ		オート
フォーカス方式※1		オート
ホワイトバランス		オート
ISO感度		オート
AFエリア		スポット
セルフタイマー		切
フラッシュ光量		0
デジタルズーム		入
MF位置		MFに切り替える前の位置
ズーム位置※2		ワイド端

※1 ムービーモードでは設定を記憶することができません。自動的にPF(パンフォーカス)に戻ります。

※2 ズーム位置では光学ズームの位置のみ記憶します。

重要!

- ベストショットモードでは、シーンの選択をしたり、電源のオン/オフを行うと、モードメモリが入/切のどちらに設定されていても、撮影設定("撮影モード"、"ズーム位置"以外)は各シーンの初期設定値となります。
- ムービーモードでは、モードメモリの入/切のどちらに設定されていても、フラッシュは常に" "(発光禁止)に設定されます。

各種設定をリセットする

本機の設定内容を初期値に戻すことができます。初期値については「メニュー一覧表」（157ページ）をご覧ください。

1. 【MENU】を押します。

2. "設定"タブ→"リセット"を選び、【▶】を押します。

3. "リセット"を選び【SET】を押します。

- リセットしない場合は"キャンセル"を選びます。

再生する

本機は【液晶モニター】を備えていますので、記録されているファイルを本機だけで確認することができます。

基本的な再生のしかた

記録されているファイルを順次送ったり戻したりしながら見ることができます。

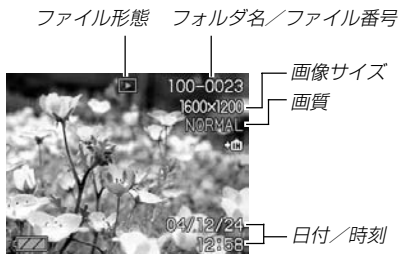
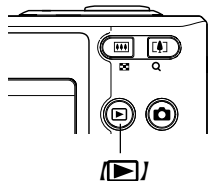
1. 【▶】(PLAY)を押します。

- PLAYモードになり、再生できる状態になります。
- 【液晶モニター】に画像またはメッセージが表示されます。

ファイル形態　フォルダ名／ファイル番号

画像サイズ

画質

日付／時刻

2. 【◀】【▶】でファイルを見ていきます。

【▶】を押す：進みます。

【◀】を押す：戻ります。

- 【◀】【▶】を押し続けると、ファイルは早送りされます。
- 初めに表示される画像は簡易画像のため、粗い表示になっていますが、すぐ後に精細な画像が表示されます。ただし、他のデジタルカメラからコピーした画像は、この限りではありません。

音声付き画像を再生する

音声付きの画像(♪が表示される画像)を見るときは、下記のように操作してください。

1. PLAYモードにして、【◀】【▶】で音声付き画像を表示させます。

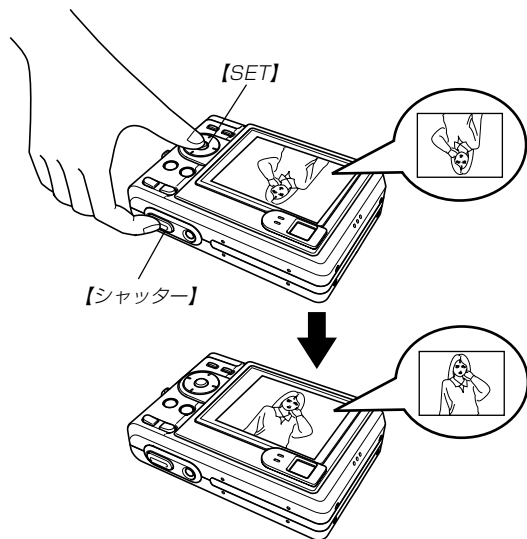
2. 【SET】を押します。

- 画像に録音された音声がスピーカーから再生されます。

- 音声再生中に、次のような操作ができます。
  音声を早戻し／早送りする ....【◀】【▶】を押し続ける
  再生と一時停止を切り替える ....【SET】を押す
  音量を調整する ....【▲】【▼】を押す
  再生を中断する ....【MENU】を押す

重要! • 音声付き画像の音量調整は、再生／一時停止中に可能です。

反転表示させる

表示している画像を180゜反転させることができます。画像を対面の人に見せるときなどに便利です。

1. **PLAYモードにして、【◀】【▶】で画像を表示させせます。**

2. **【シャッター】を押したまま【SET】を押します。**

- 画像が180°反転します。このときは情報表示やヒストグラム等の表示は消え、画像のみの表示となります。
- 【◀】【▶】で画像の送り、戻しができます。

3. **【▲】【▼】【◀】【▶】以外のボタンを押すと、元の状態に戻ります。**

重要!
- 反転表示中は、【◀】【▶】を押しても、動画、ボイスレコードファイルのアイコンは表示されません。
- 拡大表示、カレンダー表示、9画面表示、動画、音声付き画像、ボイスレコードファイルのアイコン表示中は、反転表示できません。

画像を拡大して表示する

撮影した画像を4倍まで拡大して表示させせることができます。

1. **PLAYモードにして、【◀】【▶】で拡大したい画像を表示させせます。**

2. **【ズームボタン】の“🔍”側を押して、画像を拡大します。**

- 【DISP】を押すと、倍率などの表示のオン／オフができます。

拡大倍率

3. **【▲】【▼】【◀】【▶】で拡大した画像を上下左右にスクロールすることができます。**

4. **【MENU】を押すと、画像は元の大きさに戻ります。**

重要!
- 動画は拡大表示できません。
- 画像のサイズによっては、4倍までの拡大表示ができない場合があります。

画像サイズを変える（リサイズ）

撮影した静止画像を、次の2種類のサイズに変えることができます。

- 1280×960pixelsのSXGAサイズ
  ：写真のL判サイズ以下で印刷する場合に最適です。
- 640×480pixelsのVGAサイズ
  ：メールに添付する画像やホームページに貼り付ける画像に最適です。

1. **PLAYモードにして【MENU】を押します。**

2. **“再生機能”タブ→“リサイズ”と選び、【▶】を押します。**

- 静止画が【液晶モニター】に表示されているときのみ操作することができます。

3. **【◀】【▶】でサイズを変えたい画像を表示させます。**

4. **【▲】【▼】でリサイズ内容を選び、【SET】を押します。**

- リサイズを中止したいときは、“キャンセル”を選びます。

重要!
- リサイズした画像は、リサイズする前の画像とは別に最新ファイルとして保存されます。
- 次の場合はリサイズできません。
  - 画像サイズが640×480pixels以下の画像
  - 画像サイズが2560×1712（3:2）pixelsの画像
  - 動画、ボイスレコードファイルのアイコン
  - このカメラで撮影した画像以外の画像
  - リサイズした画像を保存できるだけのメモリー容量が残っていない場合
- リサイズした画像をカメラで表示した場合、日付はリサイズした日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

画像の一部を切り抜く(トリミング)

拡大した画像から必要な箇所を切り抜くことができます。

1. **PLAYモードにして【◀】【▶】でトリミングしたい画像を表示させます。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **“再生機能”タブ→“トリミング”と選び、【▶】を押します。**

- 【液晶モニター】に画像を切り抜くための枠が表示されます。
- 静止画が【液晶モニター】に表示されているときのみ操作することができます。

4. **【ズームボタン】を押して、枠の拡大／縮小をします。**

- 画像サイズが小さいほどトリミングできる枠の大きさが限定されます。

5. **【▲】【▼】【◀】【▶】で切り抜きたい部分を枠で囲みます。**

6. **【SET】を押します。**

- トリミングを中止する場合は【MENU】を押します。

重要!
- トリミングした画像は最新ファイルとして保存されます。
- 画像サイズが640×480pixelsの画像では、枠は拡大／縮小できません。
- トリミングしても、トリミングする前の画像は残っています。
- 次の場合はトリミングできません。
  - 画像サイズが2560×1712(3:2)pixelsの画像
  - 動画、ボイスレコードファイルのアイコン
  - このカメラで撮影した画像以外の画像
  - トリミングした画像を保存できるだけのメモリー容量が残っていない場合
- トリミングした画像をカメラで表示した場合、日付はトリミングした日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

動画を再生する

ムービーモードで撮影した動画を再生することができます。

1. **PLAYモードにして【◀】【▶】で再生したい動画を表示させせます。**

動画アイコン

2. **【SET】を押します。**

- 動画が再生されます。
- 動画再生中に、次のような操作ができます。

早戻し／早送りする .... 【◀】【▶】を押し続ける
再生と一時停止を切り替える...... 【SET】を押す
一時停止中にコマ送りする .... 【◀】【▶】を押す
再生を中断する .... 【MENU】を押す
音量を調整する .... 【▲】【▼】を押す

重要! • 動画の音量調整は、再生／一時停止中に可能です。

1つの画面に9つの画像を表示する

撮影した内容を9つまで同時に一覧表示させせることができます。

1. **PLAYモードにして【ズームボタン】の"▦"側を押します。**

- 9つの画像が表示され、最後に表示されていた画像が枠が付いた状態で中央に表示されます。
- 画像の総数が9枚以下の場合は、左上から順に画像が表示されます。枠は直前まで【液晶モニター】に表示されていた画像に付きます。
- 【◀】【▶】を押して、枠が画面の左端、または右端まで行くと、次の9枚を表示します。
- ボイスレコードファイル（97ページ）には🎙が表示されます。

2. **【▲】【▼】【◀】【▶】で画像を見ていきます。**

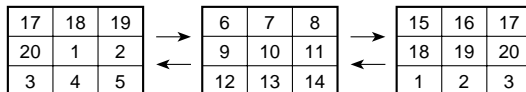
例：画像の総数が20枚で、1番目の画像を最初に表示していた場合

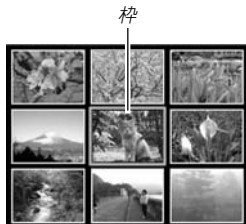
17	18	19
20	1	2
3	4	5

→ ←

6	7	8
9	10	11
12	13	14

→ ←

15	16	17
18	19	20
1	2	3

- 通常表示(1画面表示)で見たいときは、目当ての画像に枠を移動して【▲】【▼】【◀】【▶】以外のボタンを押します。

枠

3.【▲】【▼】【◀】【▶】以外のボタンを押すと9画面表示は終了します。

カレンダー表示をする

1ヶ月分のカレンダー表示の日付上に、その日に撮影した最初の画像を表示させることができ、見たい画像を素早く探すことができます。

1. PLAYモードにして【▲】()を押します。

- 年／月の表示は"表示スタイル"の設定(113ページ)に従って表示されます。
- 各日付上にその日に撮影した最初の画像が表示されます。
- カレンダー表示を終えるには【MENU】または【DISP】を押します。
- ボイスレコードファイル(97ページ)にはが表示されます。
- このカメラで表示できないデータの場合はが表示されます。

枠　年／月

2.【▲】【▼】【◀】【▶】で見たい画像のある日付に枠を移動して【SET】を押します。

- その日に撮影した最初の画像が表示されます。

画像を自動的にページめくりさせる(スライドショー)

撮影した内容を自動的に次々とページめくりさせる機能(スライドショー)です。ページめくりの間隔を設定することもできます。

 → →

1. **PLAYモードにして【MENU】を押します。**

2. **"再生機能"タブ→"スライドショー"と選び、【▶】を押します。**

3. **表示させる画像の種類や時間を設定します。**

表示画像	• 全画像 メモリー内のすべてのファイルを表示 • 1枚画像 ファイルを1枚選んで表示 【◀】【▶】で目的の画像を表示させ【SET】を押します。 • お気に入り お気に入りフォルダにあるファイルを表示
時間	再生したい時間を【◀】【▶】で選ぶ(1～60分)
間隔	スライドショーの間隔を決める • 【◀】【▶】で"最速"と"1～30秒"の中から設定 • "最速"での動画は、先頭のコマだけ表示

4. **【▲】【▼】で"開始"を選び【SET】を押します。**

- 指定した条件でスライドショーが始まります。

5. **もう一度【SET】を押すと、スライドショーが終了します。**

- 【DISP】、【MENU】、【▲】【▼】【◀】【▶】以外のボタンを押してもスライドショーは終了します。
- "時間"で設定した時間が経過すると自動的に終了します。

重要!

- 画面の切り替わり中はボタン操作が効かなくなります。画面が静止しているときにボタン操作をしてください。ボタンが効かない場合は、しばらくボタンを押し続けてください。
- スライドショー再生中に【◀】【▶】を押すと、画像を送ることができます。
- 動画は音声とともに1回再生します。
- ボイスレコードファイルと音声付き静止画は音声を1回再生します。
- スライドショーの“間隔”を“最速”に設定した場合は動画、音声付き静止画、ボイスレコードの音声は再生されません。“最速”以外に設定している場合は何秒に設定しても動画と音声(音声付き静止画、ボイスレコード)は最後まで再生されます。
- 音声再生中に【▲】【▼】を押して、音量を調整することができます。
- パソコンからコピーした画像や、他のデジタルカメラの画像では、設定した間隔より長くなる場合があります。
- 【DISP】を押すことで、画面の表示内容を切り替えることができます(23ページ)。

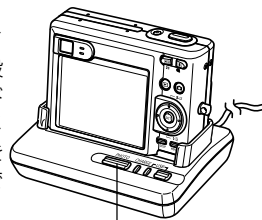
USBクレードルにセットしたままスライドショーさせる(フォトスタンド機能)

カメラをUSBクレードルにセットしたままスライドショーができます。電池の消耗を気にせずに、フォトスタンドのように画像を見ることができます。フォトスタンド機能はスライドショーの設定にしたがって表示します。あらかじめスライドショーの設定を行ってください(92ページ)。

1. **カメラをUSBクレードルにセットします。**

- カメラの電源を入れたまま、USBクレードルの上にセットしないでください。

2. **USBクレードルの【PHOTO】を押します。**

- スライドショーが始まります。
- 【MENU】を押すと、スライドショーの各設定項目が設定できます。スライドショーを再開するには、メニュー表示中に【MENU】を押すか、“開始”を選んで【SET】を押してください。
- 音声再生中に【▲】【▼】を押して、音量を調整することができます。

【*PHOTO*】

3.【PHOTO】を押すと、スライドショーが終了します。

重要! • スライドショー中は電池の充電ができません。充電する場合はスライドショーを終了してください。

回転表示させる

画像の回転情報（向き）を画像ファイルに書き込むことができます。再生時には回転情報をもとに画像を表示することができます。縦置きで撮影した画像に使用すると便利です。

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

2. "再生機能"タブ→"回転表示"と選び、【▶】を押します。
- 静止画が【液晶モニター】に表示されているときのみ操作することができます。

3.【◀】【▶】で回転させたい画像を表示させます。

4.【▲】【▼】で"回転"を選び、【SET】を押します。
- "回転"を選んだ状態で【SET】を押すたびに、90°ごとに右まわりに回転します。

5.【MENU】を押して、設定を終了します。

重要!
- メモリープロテクトをかけたファイルは、回転することはできません。メモリープロテクトを解除してから操作してください。
- 他のデジタルカメラで撮影した画像では、回転できない場合があります。
- 動画／ボイスレコードファイルのアイコンは回転表示できません。

画像ルーレット機能を使う

カメラ内の画像を【液晶モニター】でルーレットのように送りながら1枚の画像を選択していく機能です。最後に選択される画像がどれになるかはわかりません。全く規則性がありません。

1. 電源が切れている状態で、【◀】を押したまま【▶】(PLAY)を押して電源を入れます。

- 【◀】は【液晶モニター】が表示されるまで押し続けてください。
- 画像ルーレットが開始され、最後に1枚の画像が選択され止まります。

2. 【◀】【▶】を押すと、画像ルーレットを再開します。

3. RECモードにするか、【電源ボタン】を押して電源を切ると、画像ルーレット機能は終了します。

重要!
- 動画やボイスレコードファイルは画像ルーレットの対象となりません。
- 静止画が1枚だけの場合は、画像ルーレット機能に入りません。
- カメラで撮影した画像がルーレットの対象となります。他の画像が入っていると、画像ルーレット機能が動作しない場合があります。
- 画像が停止してから約1分以上、次の画像ルーレットを開始しないと、通常のPLAYモードになります。
- 画像ルーレット機能は“REC／PLAY”の設定(116ページ)が“パワーオン”または“パワーオン／オフ”の場合に使用できます。

画像に音声を追加する（アフターレコーディング機能）

アフターレコーディング機能(アフレコ)により、撮影済みの画像に音声を追加することができます。また、音声付き画像(♪が表示される画像)に録音された音声を、記録し直すことができます。

- 録音形式：WAVE/ADPCM記録形式
  音声を録音するためのWindows標準フォーマットです。
  拡張子は“.WAV”となります。
- 録音時間：1画像につき最長約30秒間
- 音声ファイルサイズ：
  約120KB(約4KB／秒で30秒間録音時)

1. PLAYモードにして【◀】【▶】で音声を追加したい画像を表示させます。

2. 【MENU】を押します。

3. “再生機能”タブ→“アフレコ”と選び、【▶】を押します。

4. 【シャッター】を押して、音声を録音します。

5. 【シャッター】を押すか約30秒経つと録音を終了し、音声を記録します。

音声を記録し直す

1. PLAYモードにして、【◀】【▶】で音声を記録し直したい画像を表示させます。

2. 音声追加(アフレコ)の手順2〜3(96ページ)と同じ操作により“アフレコ”を選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で“消去”を選び、【SET】を押します。

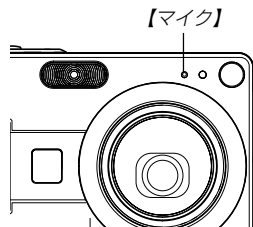
- 音声を消すだけにしたいときは、上の手順3操作後に【MENU】を押してください。

4. 音声追加(アフレコ)の手順4〜5と同じ操作により、音声を録音します。

- 前に録音していた音声は消え、新しい音声が録音されます。

重要!

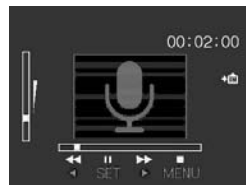
- カメラ前面部にある【マイク】を必ず対象に向けてください。
- 指などで【マイク】をふさがないようにご注意ください。
- 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。

- 音声を追加した画像には、♪(音声アイコン)が表示されます。
- メモリー容量が少ないときは、録音できない場合があります。
- 次の場合は音声を追加することはできません。
  - ムービー画像に音声を追加しようとした場合
  - 画像にメモリープロテクトがかかっている場合(102ページ)
- 音声を記録し直した場合または音声を消去した場合、前に録音していた音声は消え、二度と元に戻すことはできません。音声を記録し直す際は、よく確かめてから行ってください。

音声を再生する

ボイスレコードファイルに録音した音声を再生します。

1. PLAYモードにして、【◀】【▶】で再生したい音声が録音されたボイスレコードファイル(🎤が表示される画像)を表示させます。

2. 【SET】を押します。

- ボイスレコードファイルの音声がスピーカーから再生されます。

- 音声再生中に、次のような操作ができます。

音声を早戻し／早送りする ...... 【◀】【▶】を押し続ける
再生と一時停止を切り替える ... 【SET】を押す
音量を調整する .... 【▲】【▼】を押す
再生を終了する .... 【MENU】を押す

重要!

- ボイスレコードファイルの音量調整は、再生／一時停止中に可能です。
- 録音時にマークを付けたボイスレコードファイルでは、一時停止中に【◀】【▶】を押すことにより、マークを付けた位置まで再生位置を移動させることができます。続けて【SET】を押すと、マークを付けた位置から再生を始めることができます。

消去する

ファイルを消去するには次の 2 つの方法があります。

1ファイル ：1ファイルずつ消去する。
全ファイル：すべてのファイルを消去する。

重要!
- 一度消去してしまった記録内容は、二度と元に戻すことはできません。消去の操作を行う際は、本当に不要なファイルかどうかをよく確かめてから行ってください。特に全ファイル消去の操作では、記録したすべての内容を一度に消去してしまいますので、内容をよく確かめてから操作してください。
- メモリープロテクトのかかったファイルは消去できません。メモリープロテクトを解除してから操作してください(102ページ)。
- すべてのファイルがメモリープロテクト(103ページ)されている状態では、消去は実行できません。
- 音声付き静止画を消去すると、画像ファイルと音声ファイルの両方を消去します。

1ファイルずつ消去する

1. PLAYモードにして【▼】(⚡ 🗑)を押します。

2. 【◀】【▶】で消去したいファイルを表示させせます。

3. 【▲】【▼】で"消去"を選びます。
- 消去を中止したいときは、"キャンセル"を選んでください。

4. 【SET】を押して、表示しているファイルを消去します。
- 手順2～4を繰り返して、他のファイルを消去することができます。

5. 【MENU】を押して、消去操作を終了します。

すべてのファイルを消去する

1. PLAYモードにして【▼】(⚡ 🗑)を押します。

2. 【▲】【▼】で“全ファイル消去”を選び、【SET】を押します。

3. 【▲】【▼】で“はい”を選びます。

- 消去を中止したいときは、“いいえ”を選んでください。

4. 【SET】を押して、すべてのファイルを消去します。

- すべてのファイルが消去されると、“ファイルがありません”と表示されます。

ファイルの管理について

本機では画像の撮影や再生の他、ファイルの消去防止等の設定ができます。

フォルダの分類について

本機は内蔵メモリーやメモリーカード内に、フォルダを自動的に作成します。

メモリー内のフォルダ／ファイルについて

撮影した画像は連番を名前としたフォルダの中に自動的に記録されます。フォルダは最大900作成されます。フォルダ名は次の通りです。

例：連番100のフォルダ名

100CASIO

連番(3桁)

各フォルダには最大9,999番までのファイルが登録できます。10,000枚以上撮影した場合は、次の連番のフォルダが自動的に作成されます。ファイル名は次の通りです。

例：26番目に記録したファイル名

- このフォルダ名、ファイル名はパソコンで見ることができます。カメラでの表示については22ページを参照してください。
- 保存できるフォルダ数、ファイル数はサイズや画質、またはメモリーカードの容量によって異なります。
- 詳しいフォルダ構造に関しては「メモリー内のフォルダ構造」(140ページ)をご覧ください。

記録したファイルにメモリープロテクト（消去防止）をかける

大事なファイルを誤って消去してしまうことを防止する機能（メモリープロテクト）がついています。メモリープロテクトをかけたファイルは、消去操作（99ページ）により消去することはできません。メモリープロテクトのかけかたには、1ファイル単位、全ファイルの2通りがあります。

1ファイル単位でメモリープロテクトをかける

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

2. "再生機能"タブ→"プロテクト"と選び、【▶】を押します。

3. 【◀】【▶】でメモリープロテクトをかけたいファイルを表示させます。

4. 【▲】【▼】で"オン"を選び、【SET】を押します。

- メモリープロテクトがかかり、🔑が画面上に表示されます。
- メモリープロテクトを解除するときは、"オフ"を選んでください。

5. 【MENU】を押して、メモリープロテクトを終了します。

全ファイルにメモリープロテクトをかける

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “再生機能”タブ→“プロテクト”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で“全ファイル　オン”を選び、【SET】を押します。

- メモリープロテクトを解除するときは、“全ファイル　オフ”を選んでください。

4. 【MENU】を押して、メモリープロテクトを終了します。

お気に入りフォルダを使う

記録した思い出の風景や家族の写真など好きな静止画を「記録フォルダ」（140ページ）から内蔵メモリーの「お気に入りフォルダ」（“FAVORITE”フォルダ）」（141ページ）にコピーすることができます。通常の再生では表示されないので、プライベートな画像を持ち歩くのに便利です。メモリーカードを入れ替えても画像は消えませんので、いつでも見ることができます。

お気に入りフォルダにファイルをコピー（登録）する

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “再生機能”タブ→“お気に入り”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で“登録”を選び、【SET】を押します。

- 内蔵メモリーまたはメモリーカード内のファイル名が表示されます。

4. **【◀】【▶】でお気に入りフォルダに登録したいファイルを選びます。**

5. **【▲】【▼】で“登録”を選び、【SET】を押します。**

- 内蔵メモリー内のお気に入りフォルダにファイルを登録します。

6. **設定を終えるには【▲】【▼】で“キャンセル”を選び、【SET】を押します。**

参考
- 画像は、320×240pixelsのQVGAサイズにリサイズしてコピーされます。
- 登録したファイルには、連番(0001～9999)がファイル名として自動的に付けられます。ただし、登録できるファイル数は画質等により異なり、内蔵メモリーの空き容量の範囲内となります。

重要!
- お気に入りフォルダにリサイズしてコピーされたファイルは、元の画像サイズに戻すことはできません。
- お気に入りフォルダに登録されているファイルは、メモリーカードにコピーすることはできません。

お気に入りフォルダのファイルを表示する

1. **PLAYモードにして【MENU】を押します。**

2. **“再生機能”タブ→“お気に入り”と選び、【▶】を押します。**

3. **【▲】【▼】で“表示”を選び、【SET】を押します。**

- お気に入りフォルダにファイルが登録されていないときは、“お気に入りのファイルがありません”と表示されます。

4. **【◀】【▶】でお気に入りフォルダに登録したファイルを見ていきます。**

ファイル名

お気に入りフォルダアイコン

5. **表示を終えるには【MENU】を2回押します。**

重要! ● お気に入りフォルダ（“FAVORITEフォルダ”）は内蔵メモリーにのみ作成されるため、パソコン上でお気に入りフォルダのファイルを表示するときは、カメラからメモリーカードを取り出した状態でUSBクレードルにセットして、USB通信を行ってください（129、135ページ）。

お気に入りフォルダから1ファイルずつ消去する

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “再生機能”タブ→“お気に入り”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で“表示”を選び、【SET】を押します。

4. 【▼】（⚡ 🗑）を押します。

5. 【◀】【▶】でお気に入りフォルダから消去したいファイルを選びます。

6. 【▲】【▼】で“消去”を選び、【SET】を押します。

- 消去を中止したいときは“キャンセル”を選んでください。

7. 消去を終えるには【▲】【▼】で“キャンセル”を選び、【SET】を押します。

重要! ● お気に入りフォルダのファイルは、99ページの消去操作により消去することはできません。ただし、フォーマット操作（116ページ）を行うと、消去されてしまいます。

お気に入りフォルダの全ファイルを消去する

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。
2. “再生機能”タブ→“お気に入り”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で“表示”を選び、【SET】を押します。
4. 【▼】(⚡ 🗑)を押します。
5. 【▲】【▼】で“全ファイル消去”を選び、【SET】を押します。

重要! ● お気に入りフォルダのファイルは、99ページの消去操作により消去することはできません。ただし、フォーマット操作(116ページ)を行うと、消去されてしまいます。

その他の設定について

カメラの音を設定する

4種類の音（起動音／ハーフシャッター音／シャッター音／操作音）とその音量を設定することができます。

4種類の音を設定する

1. 【MENU】を押します。

2. "設定"タブ→"操作音"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定したい音を選び、【▶】を押します。

4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

サウンド1～5　：内蔵されたサンプル音が鳴ります。
切　　　　　　：音は鳴りません。

音量を設定する

1. 【MENU】を押します。

2. "設定"タブ→"操作音"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で"音量"を選びます。

4. 【◀】【▶】で再生したい音量を選び、【SET】を押します。

- 音量は「0」（小）～「7」（大）の8段階の間で設定できます。
- 音量を「0」に設定すると、音は鳴りません。

起動画面のオン／オフを切り替える

RECモードで電源を入れたとき、カメラが記録している画像を起動画面として、【液晶モニター】に約2秒間表示するかどうかを切り替えることができます。

1. 【MENU】を押します。

2. "設定"タブ→"起動画面"と選び、【▶】を押します。

3. 【◀】【▶】で設定したい起動画面を表示させます。

4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

入：設定時に表示していた画像を起動画面として表示します。

切：起動画面は表示しません。

参考

- 設定可能な画像は、下記の通りです。
  - 内蔵されている専用画像
  - 静止画
  - 音声付き静止画（音声は再生されません）
  - 内蔵メモリーの空きメモリー 以下のサイズで撮影された動画
- 起動画面は、1つだけ登録できます。起動画面を別の撮影画像に変更すると、メモリー内の画像は上書きされるので、変更する前の撮影画像に戻すときは、変更する前の画像データが必要となります。
- 登録した起動画像は、内蔵メモリーのフォーマット操作（116ページ）を行うと消去されます。
- 音声付き静止画を起動画面に設定したとき、音声は再生されません。

エンディング画面に表示する画像を設定する

カメラの電源が切れる前に、カメラで撮影した静止画や動画をエンディング画面として表示する機能です。

1. **カメラをUSBケーブルでパソコンと接続します(129ページ)。**

2. **エンディング画面として使用する画像データを、内蔵メモリーのルートフォルダ(第一階層)に入れます。**

Windowsの場合

Macintoshの場合

- ご使用のパソコン設定が「拡張子を表示しない。」になっていると拡張子は表示されません。例：CIMG0001
- メモリーカードをご使用の場合は、カメラからカードを抜いてからファイルをコピーしてください。

3. **画像データのファイル名を次のように変更します。**

静止画の場合：ENDING.JPG
動画の場合　：ENDING.AVI

Windowsの場合

Macintoshの場合

- ご使用のパソコン設定が「拡張子を表示しない。」になっている場合は、拡張子(.JPGや.AVI)を入れないでください。例：ENDING

以上で設定が完了しました。【電源ボタン】を押して、電源が切れる前にエンディング画面が表示されます。

重要!
- 内蔵メモリーをフォーマットすると、エンディング画面に設定されたファイルも消去されます（116ページ）。
- 静止画と動画の両方がエンディング画面として設定されている場合は、動画がエンディング画面として選択されます。
- エンディング画面を途中で止めることはできませんので、動画をエンディング画面に設定する場合は、時間の短いものをおすすめします。

参考
- エンディング画面を解除するには、内蔵メモリーに入れたENDING.JPGまたはENDING.AVIのファイル名を変更するか、画像データを削除します。

ファイルの連番のカウント方法を切り替える

撮影時にファイル（画像データ）に付く連番（101ページ）のカウント方法を切り替えることができます。

1. 【MENU】を押します。

2. "設定"タブ→"ファイルNo."と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

メモリする　：今まで撮影したファイルの連番を記憶します。ファイルを消去したり、メモリーカードを交換しても、記憶した連番からファイル名を付けます。

メモリしない：ファイルの連番は記憶せずに、最大の連番＋1からファイル名を付けます。

アラームを鳴らす

指定した時刻にアラームを鳴らすと同時に、指定した画像を表示できます。最大3つの時刻を設定できます。動画、音声付き静止画、ボイスレコードファイルを指定した場合は、画像とともに音声も再生されます。

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “再生機能”タブ→“アラーム”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定したいアラームを選び、【▶】を押します。

4. 【◀】【▶】で項目を選び、【▲】【▼】で設定内容を選びます。

- 時刻、1回／毎日、オン／オフが設定できます。

5. 【DISP】を押します。

- ここで【SET】を押してもアラームの設定を終えることができます。

6. 【◀】【▶】で表示したい画像を選び、【SET】を押します。

7. 内容を確認して【SET】を押します。

- アラームの優先順は設定1、設定2、設定3です。

参考

- アラームは電源をオフにした状態で、設定した時刻になると約1分間鳴り続けます。その後、電源オフの状態に戻ります。途中で止めたい場合は、何かボタンを押してください。USBクレードル上で充電中の場合は、USBクレードルの【USB】、【PHOTO】ボタン、カメラのボタンを押してください。

重要!

- アラームは次の場合は鳴りません。
  - 電源がオンになっている
  - USB通信中
  - フォトスタンド機能使用中

日時を設定し直す

日時を設定し直したいときは、ホームタイムの都市を設定してから、日時の設定を行います。ホームタイムの都市の変更が必要のない方は、「ホームタイムの日時を設定し直す」の操作のみで日時の設定を行うことができます。

重要! • 日時の設定を行う前にホームタイムを自分の住んでいる地域に正しく設定しないと、ワールドタイム（113ページ）の日時が正しく表示されませんのでご注意ください。

ホームタイムの都市を設定し直す

1. **【MENU】を押します。**

2. **“設定”タブ→“ワールドタイム”と選び、【▶】を押します。**
- 現在設定されている内容が表示されます。

3. **【▲】【▼】で“自宅”を選び、【▶】を押します。**

4. **【▲】【▼】で“都市”を選び、【▶】を押します。**

5. **【▲】【▼】【◀】【▶】で自宅の地域を選び、【SET】を押します。**

6. **【▲】【▼】で自宅の都市を選び、【SET】を押します。**
- 日本で使う場合は“Tokyo”を選んでください。

7. **【SET】を押して、設定を完了します。**

ホームタイムの日時を設定し直す

1. **【MENU】を押します。**

2. **“設定”タブ→“日時設定”と選び、【▶】を押します。**

3. **日付と時刻を合わせます。**

【▲】【▼】：カーソル（選択枠）の部分の数字を変えます。
【◀】【▶】：カーソル（選択枠）を移動します。
【DISP】：12時間表示と24時間表示の切り替えができます。

4. **【SET】を押して、設定を終了します。**

日付の表示スタイルを切り替える

画面に表示される日付の表示スタイルを3通りの中から選ぶことができます。

1. 【MENU】を押します。

2. “設定”タブ→“表示スタイル”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

例）2004年12月24日
年／月／日：04/12/24
日／月／年：24/12/04
月／日／年：12/24/04

ワールドタイムを表示する

購入時に設定した自宅の日時とは別に、海外旅行などで訪問する都市の日時を1都市選んで表示することができます。世界162都市（32タイムゾーン）に対応しています。

ワールドタイムを表示させる

1. 【MENU】を押します。

2. “設定”タブ→“ワールドタイム”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で“訪問先”を選びます。

自宅　：購入時に設定した自宅の日時を表示します。
訪問先：訪問先として設定した都市の日時を表示します。

4. 【SET】を押して、設定を終了します。

ワールドタイムを設定する

1. 【MENU】を押します。

2. “設定”タブ→“ワールドタイム”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で“訪問先”を選び、【▶】を押します。

4. 【▲】【▼】で“都市”を選び、【▶】を押します。

- サマータイムを設定するときは“サマータイム”を選び、“入”、“切”を設定します。
- サマータイムとは、夏の一定期間、日照時間を有効に使うため、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです。
- サマータイムの採用時期は国や地域によって異なります（日本では採用されていません）。

5. 【▲】【▼】【◀】【▶】で訪問先の地域を選び、【SET】を押します。

6. 【▲】【▼】で訪問先の都市を選び、【SET】を押します。

7. 【SET】を押して、設定を終了します。

表示言語を切り替える

画面のメッセージを10の言語の中から選ぶことができます。

1. 【MENU】を押します。

2. "設定"タブ→"Language"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】【◀】【▶】で設定内容を選び、【SET】を押します。

USB端子の通信方法を切り替える

パソコンやプリンタなどの外部機器と接続するときの、USB端子の通信方法を切り替えることができます。接続する機器にあわせて切り替えてください。

1. 【MENU】を押します。

2. "設定"タブ→"USB"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で使用する機器にあわせて設定を選び、【SET】を押します。

- Mass Storage（USB DIRECT - PRINT）：
  パソコンやUSB DIRECT - PRINT対応（125ページ）のプリンタを接続する場合、こちらを選びます。パソコンにカメラを外部記憶装置として認識させる方法です。通常、パソコンへの画像の保存の操作時（付属のソフト「Photo Loader」使用時）はこちらを選んでください。
- PTP（PictBridge）：
  PictBridge対応（125ページ）のプリンタを接続する場合、こちらを選びます。画像データを外部接続機器に簡単に転送するための接続方法です。

【📷】(REC)／【▶】(PLAY)の動作を設定する

【📷】(REC)や【▶】(PLAY)を押しても電源が入らないようにしたり、【📷】(REC)や【▶】(PLAY)を押して電源を切ることができるように設定することができます。

1. 【MENU】を押します。

2. “設定”タブ→“REC/PLAY”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

パワーオン	：【📷】(REC)や【▶】(PLAY)を押すと、電源が入ります。
パワーオン/オフ	：【📷】(REC)や【▶】(PLAY)を押して、電源を入れたり切ったりできます。
切	：【📷】(REC)や【▶】(PLAY)を押しても、電源は入りません。

重要!
- “パワーオン/オフ”に設定しているときは、RECモードで【📷】(REC)を押した場合とPLAYモードで【▶】(PLAY)を押した場合に電源が切れます。
- RECモードで【▶】(PLAY)を押したときはPLAYモードに、PLAYモードで【📷】(REC)を押したときはRECモードに切り替わります。

参考
- 初期設定は、“パワーオン”となります。

内蔵メモリーをフォーマットする

内蔵メモリーをフォーマットすると、内蔵メモリーの内容がすべて消去されます。

重要!
- 内蔵メモリーをフォーマットすると、二度とデータを元に戻すことはできません。フォーマット操作を行う際は、本当にフォーマットしてもよいかどうかをよく確かめてから行ってください。
- 次の画像も同時に消去されます。
  - メモリープロテクトされた画像
  - お気に入りフォルダの画像
  - ベストショットモードでカスタム登録した内容
  - 起動画面に設定した画像
  - エンディング画面

1. 本機にメモリーカードが入っていないことを確認します。

- メモリーカードが入っている場合は、取り出してください(119ページ)。

2. 【MENU】を押します。

3. “設定”タブ→“フォーマット”と選び、【▶】を押します。

4. 【▲】【▼】で“フォーマット”を選び、【SET】を押します。

- フォーマットを実行しないときは、“キャンセル”を選んでください。

メモリーカードを使用する

本機は、市販のメモリーカード(SDメモリーカードまたはMMC〈マルチメディアカード〉)を使用することにより、記録用のメモリーを拡張することができます。また、内蔵のフラッシュメモリーからメモリーカードに、またはメモリーカードから内蔵フラッシュメモリーにファイルをコピーすることもできます。

- ファイルが記録されるメモリーは、次のように自動的に切り替わります。

メモリーカードを入れていないときは	→	内蔵メモリーに記録されます。
メモリーカードを入れているときは	→	メモリーカードに記録されます。

- メモリーカードを入れた状態で内蔵メモリーを使用することはできません。

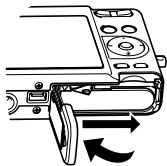
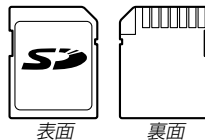
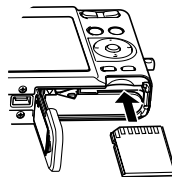
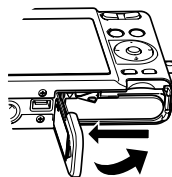
重要!

- メモリーカードは必ずSDメモリーカードまたはMMC(マルチメディアカード)を使用してください。他のメモリーカードをお使いの場合は動作保障できません。
  また、動作確認を行ったメモリーカードについては、カシオホームページ(http://www.casio.co.jp/)をご覧ください。
- メモリーカードを使う際はメモリーカードの取扱説明書もあわせてお読みください。
- カードの種類によって処理速度が遅くなる場合があります。
- SDメモリーカードには、書き込み禁止スイッチがあります。誤って消去する不安があるときは使用してください。ただし、撮影・フォーマット・消去時は解除しないと各操作が実行できません。
- 静電気、電気的ノイズ等により記録したデータが消失または破壊することがありますので、大切なデータは別のメディア(CD-R、CD-RW、MOディスク、ハードディスクなど)にバックアップして控えをとることをおすすめします。

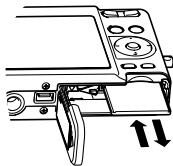
メモリーカードを使う

重要!
- メモリーカードの抜き差しは、電源を切った状態で行ってください。
- カードには、表裏、前後の方向があります。無理に入れようとすると破損の恐れがあります。

メモリーカードを入れる

1. 本体側面の【電池カバー】を押しながら、矢印の方向にスライドさせて開きます。

2. メモリーカードの裏面を上(【液晶モニター】側)にして、【メモリーカード挿入口】に、「カチッ」と音がするまでしっかり押し込みます。

3. 【電池カバー】を図のように矢印の方向に押しつけながら、スライドして閉めます。

メモリーカードを取り出す

1. **メモリーカードを押すと、メモリーカードが少し出てきます。**

2. **メモリーカードを引き抜きます。**

重要!

- 故障の原因となりますので、【メモリーカード挿入口】にはメモリーカード以外のものを入れないでください。
- 万一異物や水がメモリーカード挿入部に入り込んだ場合は、本機の電源を切り、電池を抜いて、販売店またはカシオテクノ・サービスステーションにご連絡ください。
- 緑色の【動作確認用ランプ】が点滅している間にメモリーカードを取り出さないでください。撮影された画像がメモリーカードに記録されなかったり、メモリーカードを破壊する恐れがあります。

メモリーカードをフォーマットする

メモリーカードをフォーマットすると、メモリーカードの内容がすべて消去されます。

重要!

- メモリーカードは必ずカメラでフォーマットしてください。パソコンでフォーマットすると処理速度が著しく遅くなります。またSDメモリーカードの場合、SD規格非準拠となり、互換性・性能等で問題が生じる場合があります。
- メモリーカードをフォーマットすると、二度とデータを元に戻すことはできません。フォーマット操作を行う際は、本当にフォーマットしてもよいかどうかをよく確かめてから行ってください。
- ファイルデータにメモリープロテクト(102ページ)をかけていても、メモリーカードをフォーマットすると、すべてのデータが消去されます。

1. **本機にメモリーカードを入れます。**

2. **電源を入れ、【MENU】を押します。**

3. **“設定”タブ→“フォーマット”と選び、【▶】を押します。**

4. **【▲】【▼】で“フォーマット”を選び、【SET】を押します。**

- フォーマットを実行しないときは、“キャンセル”を選んでください。

■ メモリーカードのご注意

- 万一メモリーカードの異常が発生した場合は、メモリーカードのフォーマット操作で復帰できますが、外出先などでこの操作を行えない場合に備えて複数枚のメモリーカードを持たれることをおすすめします。
- 異常と思われる画像を撮影したり、新たにメモリーカードをご購入された場合は、一度フォーマット（初期化）してお使いいただくことをおすすめいたします。
- SDメモリーカードは撮影／消去を繰り返すとデータ処理能力が落ちてきますので、定期的にフォーマットすることをおすすめします。
- フォーマット操作を行うときは、充電式電池をフル充電状態にしてから行ってください。フォーマット中に電源が切れると正しくフォーマットが行われず、メモリーカードが正常に使用できない場合があります。

ファイルをコピーする

内蔵フラッシュメモリーとメモリーカードの間で、ファイルをコピーすることができます。

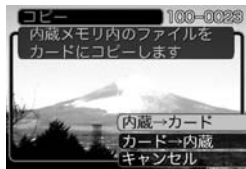
重要!
- コピーできるのはカメラで撮影した静止画、動画、音声付き静止画、ボイスレコードファイルだけです。その他のファイルはコピーできません。
- お気に入りフォルダに登録されているファイルは、コピーできません。
- 音声付き画像は画像ファイルと音声ファイルの両方をコピーします。

内蔵メモリーからメモリーカードにファイルをコピーする

すべての画像がまとめてコピーされます。

1. **本機にメモリーカードを入れます。**

2. **電源を入れ、PLAYモードにして【MENU】を押します。**

3. **“再生機能”タブ→“コピー”と選び、【▶】を押します。**

4. **【▲】【▼】で“内蔵→カード”を選び、【SET】を押します。**

- コピーが始まり、“処理中です　しばらくお待ちください”と表示されます。
- コピーが終わると、コピーしたフォルダの一番最後にあるファイルを表示します。

メモリーカードから内蔵メモリーにファイルをコピーする

ファイルのコピーは画像を確認しながら、1枚ずつ行います。

1. **「内蔵メモリーからメモリーカードにファイルをコピーする」の手順1〜3と同じ操作を行います。**

2. **【▲】【▼】で“カード→内蔵”を選び、【SET】を押します。**

3. **【◀】【▶】でコピーしたいファイルを選びます。**

4. **【▲】【▼】で“コピー”を選び、【SET】を押します。**

- コピーが始まり、“処理中です　しばらくお待ちください”と表示されます。
- コピーが終わると、コピー前に表示していたファイルに戻ります。
- 手順3〜4を繰り返して、他の画像をコピーすることができます。

5. **【MENU】を押して、コピーの操作を終了します。**

参考　• ファイルは内蔵メモリー内の一番大きい番号のフォルダにコピーされます。

プリント(印刷)する

プリント(印刷)するには

デジタルカメラで撮影した画像は、さまざまな方法でプリント(印刷)することができます。プリント方法は大きく分けて下記の3つになります。ご使用されている環境にあわせてプリントしてください。

■ お店でプリントする場合

DPOF 機能を利用することで、希望の画像を希望の枚数でプリントを依頼することができます。

→「DPOF 機能について」(123ページ)

参考 • お店でプリントをする場合、DPOF機能を利用できない場合や、他の方法でプリントを受け付けている場合があります。その際は、店頭のサービスに従ってプリントをご依頼ください。

■ カードスロット付/デジタルカメラ接続対応プリンタでプリントする場合

DPOF 機能を利用することで、希望の画像を希望の枚数でプリントすることができます。また、PictBridgeまたはUSB DIRECT - PRINT に対応しているプリンタでは、カメラを直接プリンタに接続してプリントすることができます。

→「DPOF 機能について」(123ページ)
→「PictBridge/USB DIRECT - PRINT について」(125ページ)

■ パソコンソフトを使用してプリントする場合

Windows では、パソコンにカメラを接続して(129ページ)、付属のソフト(Photo LoaderとPhotohands)をインストール(150 ページ)することで、画像の取り込み、管理、プリントをすることができます。

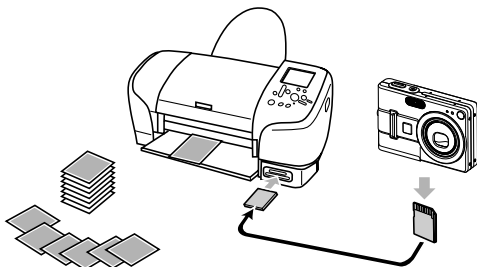
→「パソコンでファイルを見る」(129ページ)
→「ソフトをインストールする」(150ページ)

Macintosh では、パソコンにカメラを接続して(135ページ)、付属のソフト(Photo Loader)をインストール(150ページ)することで、画像の取り込み、管理ができます。ただし、プリントはできません。市販のプリント用ソフトをご利用ください。

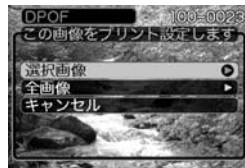
→「パソコンでファイルを見る」(129ページ)
→「ソフトをインストールする」(150ページ)

DPOF機能について

DPOF(Digital Print Order Format)とはデジタルカメラで撮影した中からプリントしたい画像や枚数などの設定情報をメモリーカードなどの記録媒体に記録するためのフォーマットです。DPOF対応の家庭用プリンタやサービスラボでプリントすることができます。
本機では撮影された画像ファイル名などを意識することなく、【液晶モニター】で確認しながらプリントしたい画像の設定を行うことができます。

- 設定可能な内容
  画像／枚数／日付

1画像単位で印刷設定する

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “再生機能”タブ→“DPOF”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で“選択画像”を選び、【▶】を押します。

4. 【◀】【▶】で印刷したい画像を表示させせます。

5. 【▲】【▼】で印刷する枚数を決めます。

- 印刷設定できる枚数は99枚までです。印刷したくない場合は“00”にしてください。

6. 日付を印刷したい場合は、【DISP】を押して を表示させます。

- は日付印刷が設定されたことを表します。
- 日付が不要なときは、【DISP】を押して を消してください。
- 他の画像を印刷する場合は、操作4〜6を繰り返してください。

7. 【SET】を押します。

- 印刷する枚数が設定されます。

全画像に印刷設定する

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “再生機能”タブ→“DPOF”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で“全画像”を選び、【▶】を押します。

4. 【▲】【▼】で印刷する枚数を決めます。

- 印刷設定できる枚数は99枚までです。印刷したくない場合は“00”にしてください。

5. 日付を印刷したい場合は、【DISP】を押して を表示させます。

- は日付印刷が設定されたことを表します。
- 日付が不要なときは、【DISP】を押して を消してください。

6. 【SET】を押します。

- 印刷する枚数が設定されます。

重要!
- お店にプリントを注文する場合は、注文時に「DPOF でプリントする画像、枚数、日付を設定済みです」とお伝えください。お伝えいただかないと、すべての画像がプリントされてしまうことがあります。
- プリントをするお店によってはDPOF 機能に対応していない場合がありますので、あらかじめご確認ください。
- プリンタによっては日付の設定が無効になったり、DPOF に対応していない場合がありますので、プリンタの取扱説明書に従って操作してください。

PictBridge/USB DIRECT - PRINTについて

本製品はPictBridgeまたは、USB DIRECT - PRINT対応プリンタに直接接続し、デジタルカメラのモニター上で写真選択や印刷開始を指示することができます。DPOF機能(123ページ)で登録した画像も印刷することができます。

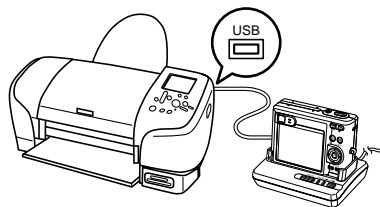
本製品は下記の規格に対応しています。
- PictBridge(ピクトブリッジ):
  カメラ映像機器工業会(CIPA)制定の規格です。
- USB DIRECT - PRINT:
  セイコーエプソン株式会社提唱の規格です。

1. 【MENU】を押します。

2. “設定”タブ→“USB”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で使用するプリンタにあわせて設定を選び、【SET】を押します。

- Mass Storage (USB DIRECT - PRINT)：
  ご使用のプリンタがUSB DIRECT - PRINT対応の場合、こちらを選びます。パソコンにカメラを外部記憶装置として認識させる方法です。通常、パソコンへの画像の保存の操作時はこちらを選んでください。
- PTP（PictBridge）：
  ご使用のプリンタがPictBridge対応の場合、こちらを選びます。画像データを外部接続機器に簡単に転送するための接続方法です。

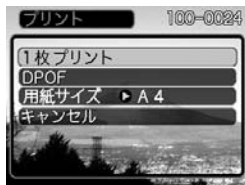
4. カメラに付属のUSBケーブルでUSBクレードルとプリンタを接続します。

- USBクレードルにはACアダプターも接続しておいてください。
- ACアダプターを使用せずに、カメラの電池のみで使用して接続する場合は、充分に充電された電池を使用してください。

5. カメラをUSBクレードルにセットします。

6. プリンタの電源を入れます。

7. プリンタの印刷用紙をセットします。

8. USBクレードルの【USB】ボタンを押します。

- カメラにプリントメニュー画面が表示されます。

9. 【▲】【▼】で "用紙サイズ"を選び、【▶】を押します。

10. 【▲】【▼】で プリントする用紙サイズを選び、【SET】を押します。

- 用紙サイズは次の通りです。
  L判、2L判、はがき、A4、Letter、プリンタで設定
- "プリンタで設定"を選ぶと、プリンタ側で設定した用紙サイズでプリントされます。
- 用紙について設定できる内容は、接続したプリンタによって異なります。詳しくはプリンタの取扱説明書をご覧ください。

11. 【▲】【▼】でプリントの方法を指定します。

- 1枚ずつプリントする場合：
  "1枚プリント"を選び【SET】を押します。続けて【◀】【▶】でプリントしたい画像を選びます。
- すべての画像をプリントする場合：
  "DPOF"を選び【SET】を押します。
- 【DISP】を押すことで日付設定の入／切を切り替えることができます。 を表示させると、日付がプリントされます。

12. 【▲】【▼】で"プリント"を選び、【SET】を押します。

- プリントを開始すると"処理中です　しばらくお待ちください"と【液晶モニター】に表示されます。しばらくすると表示が消えますが、印刷は終了していません。カメラの何かボタンを押すことで、プリントの状況を【液晶モニター】に再表示させることができます。
- プリントが終了すると、プリントメニュー画面が表示されます。
- "1枚プリント"で別の画像を印刷する場合は、手順11から同様の操作を行ってください。

13. プリントが終了したらUSBクレードルの【USB】ボタンを押して、カメラの電源を切ります。

■ プリントについてのご注意

- 印刷品位や用紙の設定についてはプリンタの取扱説明書をご覧ください。
- PictBridgeやUSB DIRECT-PRINT対応プリンタの機種名やプリンタのバージョンアップ等については、プリンタメーカーへお問い合わせください。
- 印刷中はケーブルを抜いたり、カメラやクレードルの操作を行わないでください。プリンタがエラーを起すことがあります。

PRINT Image MatchingⅢについて

本製品はPRINT Image MatchingⅢに対応しています。PRINT Image MatchingⅢ対応プリンタでの出力及び対応ソフトウエアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。

PRINT Image Matching及びPRINT Image MatchingⅢに関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。

Exif Printについて

Exif Print (Exif2.2) は、対応プリンタをお使いの場合に画像ファイルに記録された撮影情報を印刷出力に反映させることを可能にします。

重要!
- Exif Print対応プリンタの機種名やプリンタのバージョンアップ等については、各プリンタメーカーへお問い合わせください。

パソコンでファイルを見る

このカメラは、USBクレードルを介してUSB端子を備えたパソコンと接続して、パソコンでファイルを見たり、保存することができます。USB接続を行うには、使用するパソコンによっては付属のCD-ROM(カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア)からUSBドライバをパソコンにインストールする必要があります。

お持ちのパソコンがWindowsの場合

パソコンにファイルを取り込むためには次の手順で操作します。

1. Windows98/Me/2000を使っている場合はUSBドライバをパソコンにインストールする。
   - 初めて使用するときだけ必要です。
   - Windows XPの場合はインストールの必要はありません。

2. カメラとパソコンをUSBクレードルで接続する。

3. 画像ファイルを見る／コピーする。

具体的な操作方法は以降に記載されていますので、手順に従って操作してください。また、接続するパソコンの取扱説明書もあわせてお読みください。

重要!
- ACアダプターを使用しないで、パソコンとの通信を行った場合、電池が消耗していると、通信中にカメラの電源が切れる可能性があります。パソコンとの通信時には、専用のACアダプターを使用することをおすすめいたします。
- ACアダプターを使用せずに、カメラの電池のみで使用して接続する場合は、充分に充電された電池を使用してください。
- 内蔵メモリーに保存されているファイルデータをパソコンに転送する場合は、カメラからメモリーカードを取り出した状態でUSBクレードルにセットしてください。

USBドライバをインストールする前に、カメラをパソコンに接続しないでください。パソコンがカメラを認識しなくなります。

- Windows98/Me/2000をお使いの場合は、USBドライバのインストールが必要です。この場合、インストール前にカメラをパソコンに接続しないでください。
- Windows XPをお使いの場合は、USBドライバのインストールは不要です。

1. Windows98/Me/2000をお使いの場合は、操作2へ進んでください。WindowsXPをご使用の場合は、USBドライバをインストールする必要はありませんので、操作6に進んでください。

- この操作手順はWindows98をもとに制作されています。

2. 付属のCD-ROM（カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア）をパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

3. MENU上の「日本語」をクリックします。

- MENU上の「English」をクリックすると英語版のソフトをインストールすることができますが、通常は日本語版のソフトのみインストールしてください。

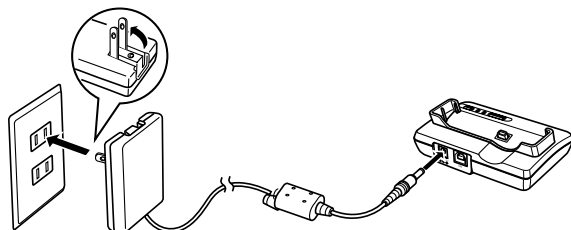
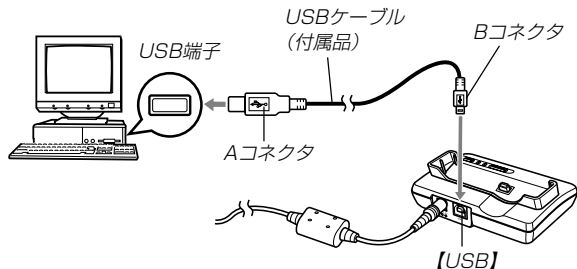
4. 「USB driver」の「インストール」をクリックします。

- インストールが開始されます。

5. セットアップ完了の画面が表示されたら「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」をチェックして「完了」をクリックし、パソコンを再起動させます。

- 再起動時には、付属のCD-ROMをパソコンにセットしたままにしておいてください。

6. 付属の ACアダプターをUSBクレードルの【DC IN 5.3V】と家庭用コンセントに接続します。

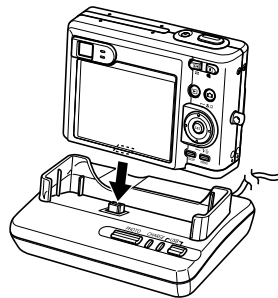
- ACアダプターを使用せずに、カメラの電池のみで使用して接続する場合は、充分に充電された電池を使用してください。

7. 付属のUSBケーブルでUSBクレードルとパソコンのUSB端子を接続します。

- USBケーブルをパソコンとUSBクレードルに接続するときは、それぞれの機器のUSB端子の形状とケーブルの接続端子の形状を合わせて接続してください。
- USBコネクタは奥まで確実に差し込んでください。正しく接続されないと、正常に動作しません。

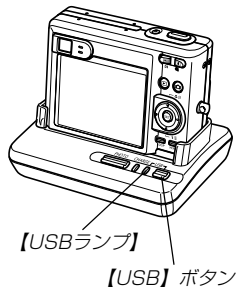
8. カメラの【電源ボタン】を押して電源を入れ、カメラの【MENU】を押します。

9. “設定”タブ→“USB”と選び、【▶】を押します。

10. 【▲】【▼】で“Mass Storage”を選び、【SET】を押します。

11. カメラの【電源ボタン】を押して電源を切ってから、カメラをUSBクレードルの上にセットします。

- カメラの電源を入れたまま、USBクレードルの上にセットしないでください。

12. USBクレードルの【USB】ボタンを押します。

- 「新しいハードウェア…」とダイアログが表示され、自動的にカメラ内のメモリーカードまたは内蔵メモリーが認識されます。次回からはパソコンとカメラをUSBクレードルを介して接続するだけで、カメラ内のメモリーカードまたは内蔵メモリーを認識します。
- 【USB】ボタンを押すとUSBモードになり、クレードルの【USBランプ】が緑色に点灯します(161ページ)。
- パソコンのOSの環境によっては、「リムーバブル　ディスク」ガイダンスが表示されることがあります。この場合は、ガイダンスを閉じてください。

13. 「マイコンピュータ」をダブルクリックします。

- Windows XPでは、画面上の「スタート」→「マイコンピュータ」の順でクリックします。

Windows 98の場合

Windows XPの場合

14. 「リムーバブルディスク」をダブルクリックします。

- メモリーカードまたは内蔵メモリーは、「リムーバブルディスク」として認識されています。

リムーバブルディスク

Windows 98の場合

リムーバブルディスク

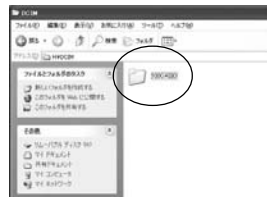
Windows XPの場合

15.「Dcim」フォルダをダブルクリックします。

Dcim
Windows 98の場合

Dcim
Windows XPの場合

16. 見たい画像の入ったフォルダをダブルクリックします。

Windows 98の場合

Windows XPの場合

17. 見たい画像ファイルをダブルクリックして、画像を見ます。

Windows 98の場合

Windows XPの場合

- ファイル名については「メモリー内のフォルダ構造」(140ページ)を参照ください。

18. ファイルを保存する場合は、次のように操作します。

- Windows 98/2000/Meの場合：

①「リムーバブルディスク」内の「Dcim」フォルダを右ボタンでクリックします。
②メニューの「コピー」をクリックします。
③「マイドキュメント」をダブルクリックして開きます。
④「マイドキュメント」のメニューで「編集」→「貼り付け」の順でクリックします。
–これで「Dcim」フォルダ（画像ファイルが保存されているフォルダ）が「マイドキュメント」フォルダにコピーされます。

- Windows XPの場合：

①「リムーバブルディスク」内の「Dcim」フォルダを右ボタンでクリックします。
②メニューの「コピー」をクリックします。
③「スタート」→「マイドキュメント」の順でクリックします。
④「マイドキュメント」メニューで「編集」→「貼り付け」の順でクリックします。
–これで「Dcim」フォルダ（画像ファイルが保存されているフォルダ）が「マイドキュメント」フォルダにコピーされます。

重要! ● カメラ内やメモリーカード内の画像に対して、パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行わないでください。パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行った場合は、画像管理データと整合性がとれず、カメラで再生できなくなったり、撮影枚数が極端に変わったりします。修正・削除・移動・名前の変更などはパソコンにコピーした画像で行ってください。

19. USB接続を終えます。

- Windows98/Me/XPの場合：
  USBクレードルの【USB】ボタンを押し、【USBランプ】が消灯したのを確認してから、カメラをUSBクレードルから取りはずします。
- Windows2000の場合：
  パソコン画面上のタスクトレイのカードサービスを左クリックし、カメラに割り当てられているドライブ番号の停止を選択します。その後、USBクレードルの【USB】ボタンを押し、【USBランプ】が消灯したのを確認してから、カメラをUSBクレードルから取りはずします。

■ USB接続時のご注意

- パソコンのモニターに同一の画像を表示して放置しておくことはお止めください。残像現象（画面焼け）を起す場合があります。
- 通信中にケーブルを抜いたり、カメラやクレードルの操作を行わないでください。データが破壊される恐れがあります。

お持ちのパソコンがMacintoshの場合

Macintoshにファイルを取り込むためには次の手順で操作します。

重要! • Mac OS 8.6以前、またはMac OS Xの10.0ではご使用できません。Mac OS 9、X(10.1、10.2、10.3)のみで使用できます(OS標準のUSBドライバを使用)。

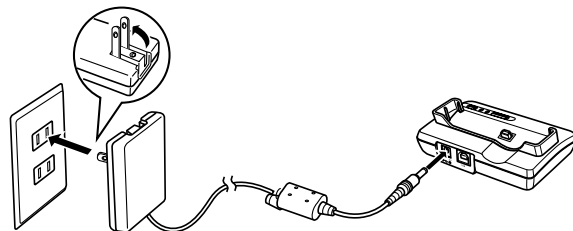
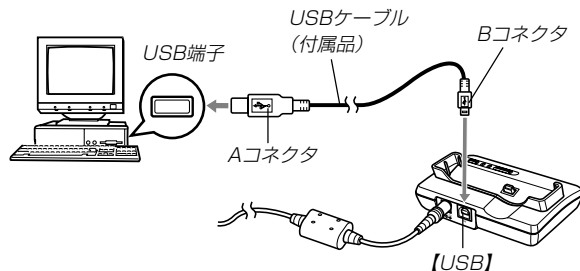
1. カメラとMacintoshをUSBクレードルで接続する。

2. 画像ファイルを見る／コピーする。

具体的な操作方法は以降に記載されていますので、手順に従って操作してください。また、接続するパソコンの取扱説明書もあわせてお読みください。

重要! • 内蔵メモリーに保存されているファイルデータをパソコンに転送する場合は、カメラからメモリーカードを取り出した状態でUSBクレードルにセットしてください。

1. **付属の ACアダプターをUSBクレードルの【DC IN 5.3V】と家庭用コンセントに接続します。**

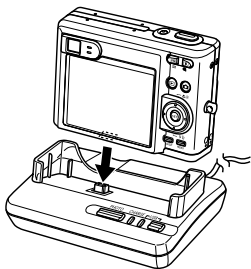
• ACアダプターを使用せずに、カメラの電池のみで使用して接続する場合は、充分に充電された電池を使用してください。

2. **付属のUSBケーブルでUSBクレードルとパソコンのUSB端子を接続します。**

- USBケーブルをパソコンとUSBクレードルに接続するときは、それぞれの機器のUSB端子の形状とケーブルの接続端子の形状を合わせて接続してください。
- USBコネクタは奥まで確実に差し込んでください。正しく接続されないと、正常に動作しません。

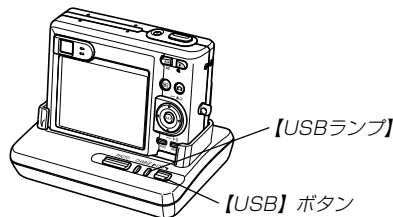
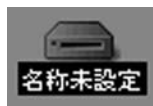
3. **カメラの【電源ボタン】を押して電源を入れ、カメラの【MENU】を押します。**

4. **“設定”タブ→“USB”と選び、【▶】を押します。**

5. **【▲】【▼】で“Mass Storage”と選び、【SET】を押します。**

6. **カメラの【電源ボタン】を押して電源を切り、カメラをUSBクレードルの上にセットします。**

- カメラの電源を入れたまま、USBクレードルの上にセットしないでください。

7. **USBクレードルの【USB】ボタンを押します。**

- 【USB】ボタンを押すとUSBモードになり、クレードルの【USBランプ】が緑色に点灯します(161ページ)。

8. **カメラ内のメモリーカードまたは内蔵メモリーがドライブとして認識されます。**

- Mac OS のバージョンにより、表示されるアイコンが異なる場合があります。
- 次回からはMacintoshとカメラをUSBクレードルを介して接続するだけで、カメラ内のメモリーカードまたは内蔵メモリーをドライブとして認識します。

9. **表示されたドライブ→「DCIM」フォルダ→見たい画像の入ったフォルダの順でダブルクリックします。**

10. 見たい画像ファイルをダブルクリックして、画像を見ます。

- ファイル名については「メモリー内のフォルダ構造」(140ページ)を参照ください。

11. ファイルを保存する場合は「DCIM」フォルダを保存したいフォルダにドラッグアンドドロップします。

- 「DCIM」フォルダがMacintosh内のフォルダにコピーされます。

参考
- ドラッグアンドドロップとは、マウスのポインタ(矢印)が画像ファイルのアイコン上に重なった状態でマウスのボタンを押し、そのままマウスを移動(ドラッグ)させて、別の場所でマウスのボタンを離す(ドロップ)操作のことをいいます。

重要!
- カメラ内やメモリーカード内の画像に対して、パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行わないでください。パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行った場合は、画像管理データと整合性がとれず、カメラで再生できなくなったり、撮影枚数が極端に変わったりします。修正・削除・移動・名前の変更などはパソコンにコピーした画像で行ってください。

12. USB接続を終えるには、画面上のカメラのドライブをゴミ箱へドラッグアンドドロップします。その後、USBクレードルの【USB】ボタンを押し、【USBランプ】が消灯しているのを確認してから、カメラをUSBクレードルから取りはずします。

■ USB接続時のご注意

- パソコンのモニターに同一の画像を表示して放置しておくことはお止めください。残像現象(画面焼け)を起す場合があります。
- 通信中にケーブルを抜いたり、カメラやクレードルの操作を行わないでください。データが破壊される恐れがあります。

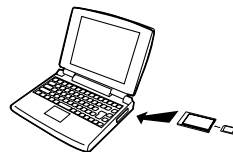
パソコンでいろいろなことができます

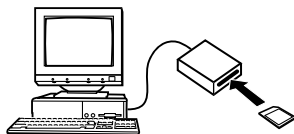
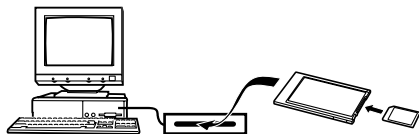
撮影画像をパソコンでさまざまに活用することができます。活用方法については、下記のページを参考にしてください。

- アルバム形式で見たい
  ....「アルバム機能を使う」(142ページ)
- アルバム形式で印刷したい
  ....「アルバム機能を使う」(142ページ)
- 画像を自動取り込み/管理したい
  ....「ソフトをインストールする」(150ページ)を参照して、Photo Loaderをインストールしてください。
- 画像をレタッチ(加工)したい
  ....「ソフトをインストールする」(150ページ)を参照して、Photohandsをインストールしてください。

メモリーカードを直接接続して取り込む

パソコンとのファイルのやりとりをメモリーカードから直接行うことができます。パソコンの機種によって接続方法が異なります。代表的な接続方法は次の通りです。

- SDメモリーカードスロットのある機種
  SDメモリーカードを直接差し込みます。
- PCカードスロットのある機種
  市販のPCカードアダプター(SDメモリーカード/MMC用)を使用します。
  具体的な使用方法はPCカードアダプターとパソコンに付属の取扱説明書を参照ください。

- 前記以外の機種

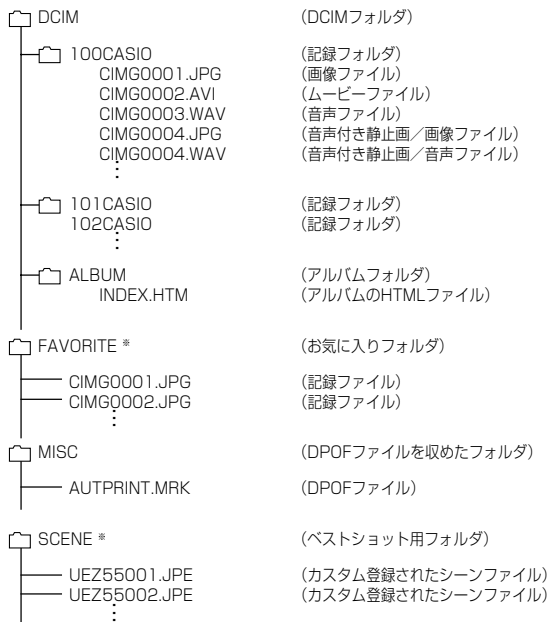
1) 市販のSDメモリーカード用リーダー／ライターを使用します。
具体的な使用方法は、SDメモリーカード用リーダー／ライターに付属の取扱説明書を参照ください。

2) 市販のPCカード用リーダー／ライターと市販のPCカードアダプター（SDメモリーカード／MMC用）を使用します。
具体的な使用方法は、PCカード用リーダー／ライターとPCカードアダプターに付属の取扱説明書を参照ください。

メモリー内のデータについて

本機で撮影された画像やその他のデータは、DCF(Design rule for Camera File system)規格に準拠した方法でメモリーへ保存されます。DCF規格とは、画像ファイルと画像に関連するファイルをデジタルカメラと関連機器の間で簡単に交換することを目的とした規格です。

DCF規格について

DCF規格対応の機器（デジタルカメラやプリンタなど）の間で画像の互換性があります。画像ファイルのデータ形式やメモリー内のフォルダ構造に規定がありますので、本機で撮影した画像をDCF規格対応の他社のカメラで見たり、この規格対応の他社のプリンタで印刷したりすることができます。逆にDCF規格対応の他社のデジタルカメラの画像も本機で見ることができます。

メモリー内のフォルダ構造

■ フォルダ構造

※ 内蔵メモリー内にのみ作成されるフォルダです。

■ フォルダ/ファイルの内容

- DCIMフォルダ
  デジタルカメラで扱うファイルすべてを収めたフォルダです。
- 記録フォルダ
  デジタルカメラで記録したファイルを収めたフォルダです。
- 画像ファイル
  デジタルカメラで撮影した画像ファイルです。拡張子は「JPG」です。
- ムービーファイル
  デジタルカメラで撮影したムービーファイルです。拡張子は「AVI」です。
- 音声ファイル
  音声を記録したファイルです。 拡張子は「WAV」です。
- 音声付き静止画/画像ファイル
  音声付き静止画の画像を記録したファイルです。拡張子は「JPG」です。
- 音声付き静止画/音声ファイル
  音声付き静止画の音声を記録したファイルです。拡張子は「WAV」です。
- アルバムフォルダ
  アルバム機能で使用するファイルを収めたフォルダです。

- アルバムのHTMLファイル
  アルバム機能で使用するファイルです。拡張子は「HTM」です。
- お気に入りフォルダ
  お気に入りの画像ファイルを収めたフォルダです。
  320×240pixelsの画像として収められています。
- DPOFファイルを収めたフォルダ
  DPOFファイルなどを収めたフォルダです。
- ベストショット用フォルダ（内蔵メモリーのみ）
  カスタム登録されたシーンファイルを収めたフォルダです。
- カスタム登録されたシーンファイル（内蔵メモリーのみ）
  ベストショットモードで使用されるファイルです。

このデジタルカメラで扱える画像ファイル

- 本機で撮影した画像ファイル
- DCF規格に対応している画像ファイル

※ DCF規格の画像ファイルでも、使用できない機能がある場合があります。また、本機以外で撮影された画像の場合、再生にかかる時間が長くなる場合があります。

■ パソコン上で内蔵メモリー／メモリーカードを扱うときのご注意

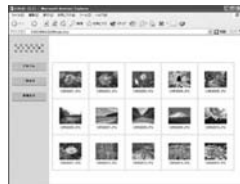
- メモリーの内容をパソコンのハードディスクやCD-R、MOディスクなどに保存する際は“DCIM”フォルダごと保存してください。その際“DCIM”フォルダの名前を年月日などに変えておくと、あとで整理するときに便利です。ただし、パソコンのハードディスクなどに保存したファイルを再度メモリーに戻して本機で再生する場合は、フォルダ名をパソコン上で“DCIM”に戻してからご使用ください。本機では“DCIM”以外の名前のフォルダは認識されません。“DCIM”フォルダ内の他のフォルダ名を変えた場合も同様です。元の名前に戻してから使用してください。

パソコンでファイルを活用する

アルバム機能を使用すると、パソコンにアルバム形式で画像を表示させせることができます。また、付属のCD-ROM内に収録されているソフトウェアをインストールすることで、パソコンでのファイルの自動取り込みや画像のレタッチをすることができます。

アルバム機能を使う

アルバム機能とは、本機で撮影した画像をレイアウトしたHTMLファイルを作成し、ホームページ上で一覧表示したり、印刷することができる機能です。

アルバム

一覧表示

情報表示

- 本機で作成したアルバムは、次のWebブラウザで見たり、印刷することができます。ただし、Windows 98/2000で動画を再生する場合はDirect Xが必要です。

  Microsoft Internet Explorer Ver 5.5以上

アルバムを作成する

重要!
- アルバムを作成すると"ALBUM"フォルダ(140ページ)が作成され、同じ画像データが複数枚メモリー内に保存されてしまいます。"ALBUM"フォルダを残したまま、お店にプリントを注文したり、プリンタですべての画像を印刷しようとすると、小さくリサイズされた同じ画像が複数枚印刷されてしまう場合があります。アルバム機能を使用しない場合はアルバムを消去(149ページ)することで、上記の問題を解消することができます。

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

2. **“再生機能”タブ→“アルバム作成”と選び、【▶】を押します。**

レイアウト見本

3. **【▲】【▼】で“作成”を選び、【SET】を押します。**

- アルバムの作成を開始し、“処理中です　しばらくお待ちください”と表示します。
- アルバムの作成が終了すると、アルバム作成メニューに入る前の画面に戻ります。
- アルバムを作成すると、内蔵メモリーまたはメモリーカード内の“ALBUM”フォルダの中に“INDEX.HTM”ファイル、その他アルバム用のファイルが作成されます。

重要!

- アルバム作成中に次の操作を行うと、アルバム用のファイルが作成されないばかりでなく、画像データ等のメモリー内のデータが破壊される恐れがあります。アルバム作成中は、下記の操作は絶対に行わないでください。
  - –【電池カバー】を開ける
  - – メモリーカードを抜く
  - – その他異常操作
- アルバム作成中にメモリーが一杯になったときは、“メモリがいっぱいです”と表示した後、アルバムの作成を中止します。
- 電池が切れかかっているときは、アルバムが正常に作成されない場合があります。
- アルバムの詳細設定で“自動作成”をする／しないのどちらに設定していても、【SET】を押すと、アルバムの作成を自動的に開始します（146ページ）。
- 作成された“ALBUM”フォルダ（140ページ）内の画像は、カメラで見ることはできません。

アルバムのレイアウトを選ぶ

10種類のレイアウトの中から、表示したときのレイアウトを選ぶことができます。

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “再生機能”タブ→“アルバム作成”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で“レイアウト”を選びます。

4. 【◀】【▶】で表示したいレイアウトを選びます。

- 【◀】【▶】を押すと、画面右横のレイアウト見本が切り替わります。

重要! • レイアウト見本上に表示されるのはアルバムのレイアウトおよび背景色です。一覧／情報表示付きかどうかや用途の内容（閲覧／WEB／プリント）は表示されません。

アルバムの詳細を設定する

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “再生機能”タブ→“アルバム作成”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で“設定”を選び、【▶】を押します。

4. 【▲】【▼】で設定項目を選び、【▶】を押します。

- 各設定項目の設定内容につきましては、以降をご覧ください。

5. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

■ 背景色を選ぶ

アルバムの背景色を白／黒／グレーの中から選ぶことができます。

- 背景色を選ぶと、一つ前の画面で表示されていたレイアウト見本上に選んだ色が表示されます。

■ タイプを選ぶ

アルバムのタイプを、標準タイプと一覧／情報付きタイプに切り替えることができます。

標準タイプ　：選んだレイアウトに従って画像を表示するタイプです。

一覧／情報付きタイプ：アルバム表示の他、画像の簡単な一覧表示や撮影時の情報を同時に表示できるタイプです。

■ 用途を選ぶ

閲覧：　簡易画像でアルバム表示されますので、簡単に画像を確認したりホームページ上で素早く閲覧したい場合に便利です。また、画像をクリックすると、大きな画像が表示されますので、細部を確認したり、画像を1枚ずつきれいに印刷したい場合にお使いください。AVIファイルをクリックすると動画を再生します。CD-Rなどにコピーして配布するときなどに最適です。

WEB：　簡易画像でアルバム表示され、簡単に画像を確認したり、ホームページ上で素早く閲覧したい場合に便利です。“DCIM”フォルダ内にあるデータ量の少ない“ALBUM”のみで動作しますので、特にインターネットで利用するときに素早くアップロードできます。ただし、画像の拡大や動画の再生はできません。

プリント：詳細画像でアルバム表示するため、アルバムをきれいに印刷したい場合にお使いください。ただし、表示するのに時間がかかる場合があります。また、画像の拡大や動画の再生はできません。

■ 自動作成をする／しないを設定する

アルバム用のファイルを、電源を切ったときに自動的に作成するかどうかを設定することができます。

入：電源を切ったとき、内蔵メモリーまたはメモリーカード内にアルバム用のファイルを自動的に作成します。
切：電源を切ったとき、アルバム用のファイルを自動的に作成しません。

重要!
- 自動作成を“入”に設定している場合、電源を切ると【液晶モニター】は消灯しますが、緑の【動作確認用ランプ】は数秒間点滅しています。この間はアルバム用のファイルを作成していますので、下記の操作は絶対に行わないでください。
  - 【電池カバー】を開ける
  - メモリーカードを抜く
  - その他異常操作

参考
- 自動作成を“入”に設定すると、電源を切るときにアルバム用のファイルを作成するため、メモリー内の画像枚数に応じて、電源が切れるまでの時間が長くなります。もし、アルバム機能を使用しない場合は、自動作成を“切”に設定することをおすすめします。“切”に設定すると電源が切れるまでの時間が短くなります。

アルバムファイルを見るには

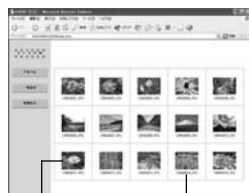
アルバムファイルはパソコンで使用しているWebブラウザで見たり、印刷することができます。

1. 内蔵メモリーまたはメモリーカード内のデータをパソコンに読み込むか、メモリーカードをパソコンに接続します（129、138ページ）。

2. 内蔵メモリーまたはメモリーカード内の“DCIM”フォルダの中の“ALBUM”フォルダを開きます。

3. “INDEX.HTM”ファイルをWebブラウザで開きます。

- 内蔵メモリーまたはメモリーカード内のフォルダの画像が一覧表示されます。

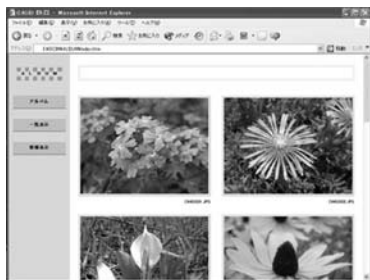
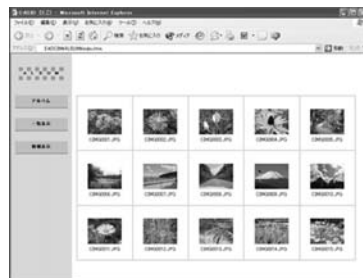
一覧／情報付きタイプの場合

画像　*ファイル名*

4. 一覧／情報付きタイプでアルバムを作成した場合は、インターネットのホームページを見る要領で下記の部分をクリックして操作します。

アルバム：カメラで作成したアルバムが表示されます。

一覧表示：フォルダ内の画像の一覧が表示されます。

情報表示：各画像の情報が表示されます。

- 用途を“閲覧”に設定しているとき、パソコン上に表示されている画像をクリックすると、撮影したサイズそのままの大きさの画像が表示されます。

一覧表示

アルバム

情報表示

- 表示される画像情報の内容
  ファイルサイズ
  画像サイズ
  撮影画質
  撮影モード
  露出モード
  測光方式
  シャッタースピード
  絞り
  露出補正
  測距方式
  AFエリア
  フラッシュモード
  シャープネス
  彩度
  コントラスト
  ホワイトバランス
  感度
  フィルター
  色強調
  フラッシュ光量
  デジタルズーム
  訪問先
  撮影日時
  モデル名

参考

- アルバム部分を印刷する場合は、Webブラウザの設定を下記のようにしておくことをおすすめいたします。
  – アルバムが表示されているフレームを選択する。
  – なるべく余白を少なくする。
  – 背景の色を印刷可能な設定にする。
- 印刷や設定のしかたについては、Webブラウザの取扱説明書をお読みください。
- アルバム内容の編集（タイトルやコメントの入力など）は、カメラで行うことはできません。編集したいときは、市販のHTMLファイルが編集できるソフトをお使いください。

5. アルバムを終了するには、Webブラウザを終了してください。

アルバムを保存するには

- 内蔵メモリーまたはメモリーカード内の“DCIM”フォルダごとパソコンのハードディスクやCD-R、MOディスクなどに保存してください。“ALBUM”フォルダだけでは、必要なファイルが保存されません。保存後は“DCIM”内のファイルを更新したり消去しないでください。新たに画像を加えたり、消去したりすると、アルバムが正常に表示されなくなることがあります。
- メモリーカードを再びデジタルカメラで使用するときは、以前のファイルをすべて消去するか、フォーマットしてから使うことをおすすめします。ただし、フォーマットすると、メモリー内のデータはすべて消えます。
- “用途”の設定を“WEB”にした場合は“ALBUM”フォルダのみでもアルバムを見ることができます。データ量が少ないので、素早くインターネットにアップロードすることができます。

アルバムを消去する

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “再生機能”タブ→“アルバム作成”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で“消去”を選び、【SET】を押します。

- アルバムが消去され、PLAYモードに戻ります。

ソフトをインストールする

本機には、パソコンで画像を活用するための便利なソフトが付属しています。目的に応じてソフトをインストールしてください。

付属のCD-ROM(カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア)について

付属のCD-ROM(カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア)には、以下のソフトウェアが収録されています。各ソフトの内容を確認し、必要に応じてソフトをパソコンにインストールしてください。

USBドライバ(マスストレージ)(Windows用)

デジタルカメラとパソコンをUSB接続するためのソフトです。

※ Windows XPではCD-ROM内のUSBドライバをインストールしないでください。USBケーブルでパソコンと接続するだけで、USB通信ができます。

Photo Loader(Windows用/Macintosh用)

デジタルカメラからパソコンに画像、音声付き画像やボイスレコードのWAVファイルを自動的に取り込むことができます。取り込んだ画像は年月日のフォルダ単位で管理し、カレンダー形式で検索できるHTMLファイルを自動作成しますので、Webブラウザを使用して画像を閲覧することができます。また、画像を手軽にメールに添付(Windows用のみ)することができます。

※ Photo Loaderの操作方法に関する説明は、電子文書(PDFファイル)化され、付属のCD-ROM内に収録されています。

Photohands(Windows用)

画像のカラー、コントラスト、明るさなどの調整(レタッチ)、サイズや向きの変更ができます。印刷または撮影日付を付けて印刷することもできます。

※ Photohandsの操作方法に関する説明は、電子文書(PDFファイル)化され、付属のCD-ROM内に収録されています。

Direct X(Windows用)

デジタルカメラで撮影した動画ファイルを、Windows 98/2000で扱うためのコーディックが含まれる機能拡張ツールです。Windows XP/Meにはインストール不要です。

Adobe Reader(Windows用)

電子文書化されたPDFファイルを読むためのソフトです。CD-ROM内に収録されているPhoto Loader、Photohandsの取扱説明書を読むために使用します。

※ Photo Loader、Photohandsの取扱説明書をパソコンのディスプレイ上で表示する方法は、「取扱説明書(PDFファイル)を読む」(154、155ページ)をお読みください。

パソコンの動作環境について

使用するソフトによって、必要な動作環境が異なりますので、必ず確認してください。

Windows

	USBドライバ※1	Photo Loader	Photohands
OS	XP※2/2000/Me/98	XP/2000/Me/98	XP/2000/Me/98
メモリ	−	16MB以上	64MB以上
HD	−	約7MB以上	約10MB以上

※ 1.Windows 2000の場合は、専用ドライバに代えてOS標準ドライバを使用するための情報ファイルとなります。
Windows 95/3.1からWindows Me/98に、Windows 95/NTからWindows 2000にバージョンアップしたパソコンでは動作保証いたしません。

※ 2.Windows XPでは、OS標準のUSBドライバを使用します。新たなインストールは不要です。

Macintosh

	Photo Loader
OS	9
メモリ	32MB以上
HD	約3MB以上

- USB接続は、Macintosh OS 9/10.1/10.2/10.3で可能です。標準搭載のドライバで動作しますので、そのままUSBケーブルでカメラとパソコンを接続してください。

重要!
- Windowsの詳しい動作環境については、付属のCD-ROM(カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア)内の「お読みください」ファイルを参照して、確認してください。
- Macintoshの詳しい動作環境については、付属のCD-ROM(カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア)内の「CD-ROMの使いかた」ファイルをブラウザソフトでご覧ください。
- 付属のCD-ROM(カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア)は、Mac OS X(10.0)には対応していません。

インストールする

付属のCD-ROM(カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア)に収録されているソフトウェアを、パソコンにインストールします。

参考
- すでにパソコンにソフトウェアをインストールしている場合は、バージョンを確認してください。もしもバージョンが古い場合は、古いバージョンのソフトフェアをアンインストールした後、新しいバージョンのソフトウェアをインストールしてください。
- CD-ROM(カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア)には日本語と英語のアプリケーションが搭載されていますので、必要な言語の方をインストールしてください(2重インストールには対応していません)。

Windows

■ 準備

1. **パソコンを起動させ、付属のCD-ROM(カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア)をパソコンのCD-ROMドライブに入れると、MENUが自動的に表示されます。**

- パソコンの設定によっては自動的にMENUが表示されない場合があります。その場合は、CD-ROMが割り当てられているドライブを開き、MENU.exeをダブルクリックして起動させてください。

2. **“Language”の「日本語」をクリックします。**

- 英語のアプリケーションソフトをインストールしたい場合は「English」をクリックしてください。

■「お読みください」を読む

インストールする前に、必ずインストールするアプリケーションソフトの「お読みください」をお読みください。インストールするために必要な条件や動作環境が書かれています。

1. **インストールしたいアプリケーションソフトの「お読みください」をクリックします。**

■ソフトのインストール

1. **インストールしたいアプリケーションソフトの「インストール」をクリックします。**

2. **手順に従ってインストールします。**

重要!

- Photo Loaderのバージョンアップ、再インストールやパソコンを変更する場合で、以前使用していたライブラリ情報を継続させる方法については、「お読みください」をご覧になり、手順をご確認願います。
  手順通りにインストールしないと、以前のライブラリ管理情報やカレンダー形式のHTMLファイルがPhoto Loaderで見ることができなくなるばかりか、取り込んだ画像ファイルが消失する恐れがあります。
- Windows XP以外では、USBドライバをインストールする前に、パソコンとカメラを接続しないでください。

■ 取扱説明書（PDFファイル）を読む

1. "取扱説明書"のお読みになりたいアプリケーションソフトの名前をクリックします。

重要! • 取扱説明書をお読みになるには、パソコンにAdobe Readerがインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、「ソフトのインストール」でAdobe Readerをインストールしてください。

■ ユーザ登録をする

パソコンからインターネットを通してのみ、ユーザ登録をすることができます。ユーザ登録をするには、パソコンがインターネットに接続されていることが必要です。

※ 会員制Webサイト「QVNet」「EXILIMオフィシャルWebサイト（179ページ）」へのユーザ登録となります。ユーザ登録で登録いただいた個人情報のお取り扱いに関しては、Webサイト上の「QVNetをご利用になる前に」に記載されておりますので、ご確認をお願い致します。ユーザ登録はデジタルカメラ本体や付属ソフトのバージョンアップのご連絡その他情報発信を目的としております。付属ソフトウェアについては、ユーザ登録をしなくてもインストールや使用は可能です。

1. 「オンラインユーザ登録」をクリックします。

• Webブラウザソフトが起動し、ユーザ登録が可能になります。画面の指示に従ってユーザ登録を行ってください。

2. ユーザ登録が終了したら、インターネットの接続を終了してください。

■ 終了

1. 「終了」をクリックします。

• MENUを終了します。

Macintosh

■「CD-ROMの使いかた」を読む

インストールする前に、必ず「CD-ROMの使いかた」をお読みください。

1. 付属のCD-ROM（カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア）をCD-ROMドライブにセットします。

2. CD-ROM（カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア）内の「CD-ROMの使いかた」ファイルを開きます。

■ ソフトのインストール

インストールする前に、インストールするアプリケーションソフトの「はじめにお読みください」を必ずお読みください。インストールするために必要な条件や動作環境が書かれています。

1. **付属のCD-ROM(カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア)をCD-ROMドライブにセットします。**

2. **CD-ROM(カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア)内の「CD-ROMの使いかた」ファイルを開きます。**

3. **「ソフトウェアについて」をクリックします。**

4. **インストールするソフトウェア名をクリックし、インストール方法を確認します。**

5. **手順に従ってインストールします。**

重要!
- Photo Loaderのバージョンアップ、再インストールやパソコンを変更する場合で、以前使用していたライブラリ情報を継続させる方法については、「お読みください」ファイルをご覧になり、手順をご確認願います。
手順通りにインストールしないと、以前のライブラリ管理情報やカレンダー形式のHTMLファイルがPhoto Loaderで見ることができなくなるばかりか、取り込んだ画像ファイルが消失する恐れがあります。

■ 取扱説明書(PDFファイル)を読む

1. **付属のCD-ROM(カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア)をCD-ROMドライブにセットします。**

2. **CD-ROM(カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア)内の「CD-ROMの使いかた」ファイルを開きます。**

3. **「取扱説明書を読む」をクリックします。**

4. **読みたいソフトウェア名をクリックし、取扱説明書を表示させます。**

重要!
- 取扱説明書をお読みになるには、パソコンにAdobe Readerがインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、アドビ システムズ(株)のホームページより Adobe Reader をダウンロードして、Adobe Readerをインストールしてください。

■ ユーザ登録をする

パソコンからインターネットを通してのみ、ユーザ登録をすることができます。EXILIMオフィシャルWebサイトにて登録を行ってください。

※ 会員制Webサイト「QVNet」「EXILIMオフィシャルWebサイト(179ページ)」へのユーザ登録となります。ユーザ登録で登録いただいた個人情報のお取り扱いに関しては、Webサイト上の「QVNetをご利用になる前に」に記載されておりますので、ご確認をお願い致します。ユーザ登録はデジタルカメラ本体や付属ソフトのバージョンアップのご連絡その他情報発信を目的としております。付属ソフトウェアについては、ユーザ登録をしなくてもインストールや使用は可能です。

付録

メニュー一覧表

RECモード、PLAYモードの各タブのメニューに表示される項目の一覧表です。

- 下線の引いてある項目は工場出荷時に選択されている項目です。

■ RECモード

●撮影設定タブメニュー

撮影モード	静止画／BS ベストショット／ムービー／静止画＋音／ボイスレコード
セルフタイマー	10秒／2秒／×3／切
サイズ	2560×1920／2560×1712(3:2)／2048×1536／1600×1200／1280×960／640×480
画質	高精細／標準／エコノミー
EVシフト	-2.0／-1.7／-1.3／-1.0／-0.7／-0.3／0.0／+0.3／+0.7／+1.0／+1.3／+1.7／+2.0
ホワイトバランス	オート／太陽光／曇天／日陰／蛍光灯1／蛍光灯2／電球／マニュアル
ISO 感度	オート／ISO 50／ISO 100／ISO 200／ISO 400
AFエリア	スポット／マルチ
オートPF	入／切
シャープネス	+2／+1／0／-1／-2
彩度	+2／+1／0／-1／-2
コントラスト	+2／+1／0／-1／-2
フラッシュ光量	+2／+1／0／-1／-2
フラッシュアシスト	オート／切
グリッド表示	入／切
デジタルズーム	入／切
撮影レビュー	入／切
アイコンガイド	入／切
左右キー設定	撮影モード／EVシフト／ホワイトバランス／ISO感度／セルフタイマー／切

●モードメモリタブメニュー

撮影モード	入／切
フラッシュ	入／切
フォーカス方式	入／切
ホワイトバランス	入／切
ISO 感度	入／切
AFエリア	入／切
セルフタイマー	入／切
フラッシュ光量	入／切
デジタルズーム	入／切
MF位置	入／切
ズーム位置	入／切

●設定タブメニュー

操作音	起動音／ハーフシャッター／シャッター／操作音／音量
起動画面	入(画像選択)／切
ファイルNo.	メモリする／メモリしない
ワールドタイム	自宅／訪問先
	ホームタイムの詳細設定 (都市名、サマータイムなど)
	ワールドタイムの詳細設定 (都市名、サマータイムなど)
表示スタイル	年/月/日／日/月/年／月/日/年
日時設定	日付と時刻の設定
Language	日本語／English／Français／Deutsch／Español／Italiano／Português／**中國語**／**中国语**／**한국어**
スリープ	30秒／1分／2分／切
オートパワーオフ	2分／5分
REC／PLAY	パワーオン／パワーオン/オフ／切
USB	Mass Storage (USB DIRECT- PRINT)／PTP (PictBridge)
フォーマット	フォーマット／キャンセル
リセット	リセット／キャンセル

■ PLAYモード

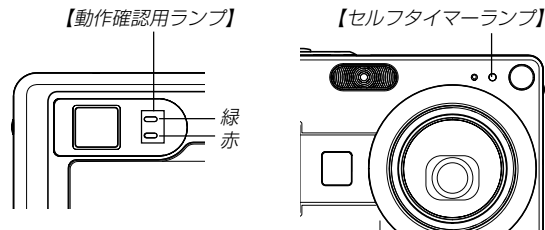
●再生設定タブメニュー

スライドショー	開始／表示画像／時間／間隔／キャンセル
お気に入り	表示／登録／キャンセル
DPOF	選択画像／全画像／キャンセル
プロテクト	オン／全ファイル　オン／キャンセル
回転表示	回転／キャンセル
リサイズ	1280×960／640×480／キャンセル
トリミング	–
アフレコ	–
アルバム作成	作成／消去／レイアウト／設定／キャンセル
アラーム	アラームの詳細設定
コピー	内蔵→カード／カード→内蔵／キャンセル

●設定タブメニュー

操作音	起動音／ハーフシャッター／シャッター／操作音／音量
起動画面	入(画像選択)／切
ファイルNo.	メモリする／メモリしない
ワールドタイム	自宅／訪問先
	ホームタイムの詳細設定 (都市名、サマータイムなど)
	ワールドタイムの詳細設定 (都市名、サマータイムなど)
表示スタイル	年/月/日／日/月/年／月/日/年
日時設定	日付と時刻の設定
Language	日本語／English／Français／Deutsch／Español／Italiano／Português／**中國語**／**中国语**／**한국어**
スリープ	30秒／1分／2分／切
オートパワーオフ	2分／5分
REC／PLAY	パワーオン／パワーオン/オフ／切
USB	Mass Storage (USB DIRECT- PRINT)／PTP (PictBridge)
フォーマット	フォーマット／キャンセル
リセット	リセット／キャンセル

ランプの状態と動作内容

カメラ本体には緑と赤の【動作確認用ランプ】と、【セルフタイマーランプ】の3つのランプがあります。これらのランプは、カメラの動作内容によって、点灯したり点滅したりします。

※ランプの点滅間隔は3種類あります。点滅1では1秒間に1回、点滅2では1秒間に2回、点滅3では1秒間に4回点滅します。

■ RECモード

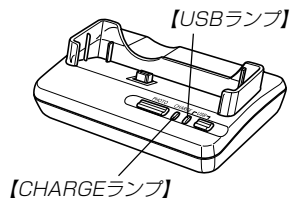
動作確認用ランプ		セルフタイマーランプ	内容
緑	赤	赤	
点灯			起動中（電源オン時、撮影可）
	点滅3		フラッシュ充電中
	点灯		フラッシュ充電完了
点灯			オートフォーカス合焦
点滅3			オートフォーカス合焦不可
点灯			LCDオフ
点滅2			撮影記録中
点滅2			ムービー取り込み中／画像処理中
		点滅1	セルフタイマーカウンドダウン 10〜3秒前
		点滅2	セルフタイマーカウンドダウン 3〜0秒前
	点滅1		フラッシュ充電不可
	点滅2		メモリーカード異常／メモリーカード未フォーマット／カスタム登録不可
	点灯		メモリーカードロック／フォルダ作成不可／メモリーフル／書き込みエラー
	点滅3		電池交換警告
点滅3			フォーマット中
点滅3			終了中（電源オフ時）

重要!
- カメラにメモリーカードを入れているときは、緑の【動作確認用ランプ】が点滅中にメモリーカードを取り出すことは絶対にお止めください。撮影された画像がメモリーカードに記録されずに消えてしまいます。

■ PLAYモード

動作確認用ランプ		セルフタイマーランプ	内容
緑	赤	赤	
点灯			起動中（電源オン時、撮影可）
点滅3			消去実行中／DPOF実行中／プロテクト実行中／コピー実行中／アルバム作成中／フォーマット中／終了中（電源オフ時）
	点滅2		メモリーカード異常／メモリーカード未フォーマット
	点灯		メモリーカードロック／フォルダ作成不可／メモリーフル
	点滅3		電池交換警告

■ USBクレードルのランプ

USBクレードルには【CHARGEランプ】【USBランプ】の2つのランプがあります。これらのランプは、USBクレードルの動作内容によって、点灯したり点滅したりします。

CHARGEランプ		USBランプ		内容
色	状態	色	状態	
赤	点灯			充電中
緑	点灯			充電終了
オレンジ	点灯			充電待機中
赤	点滅			充電エラー
		緑	点灯	USB接続状態
		緑	点滅	メモリーアクセス中

故障かな？と思ったら

現象と対処方法

	現　象	考えられる原因	対　処
電源について	電源が入らない。	1) 電池が正しい向きに入っていない。 2) 電池が消耗している。	1) 電池を正しい向きに入れてください(→25ページ)。 2) 電池を充電してください(→27ページ)。それでもすぐに電池が消耗するときは電池の寿命です。別売のリチウムイオン充電池(NP-40)をお買い求めください。
	電源が勝手に切れた。	1) オートパワーオフが働いた(→ 33ページ)。 2) 電池が消耗している。	1) 再度電源を入れ直してください。 2) 電池を充電してください(→27ページ)。
撮影について	【シャッター】を押しても撮影できない。	1) PLAYモードになっている。 2)【フラッシュ】充電中である。 3) “メモリがいっぱいです”と表示されている。	1)【 】(REC)を押してRECモードにしてください。 2)【フラッシュ】の充電が終わるまで待ってください。 3) パソコンに画像を転送後、不要な画像を消去するか、別のメモリーカードをセットしてください。
	オートフォーカスなのにピントが合わない。	1)【レンズ】が汚れている。 2) 被写体が【フォーカスフレーム】の中央にない。 3) ピントの合いにくい被写体である(→42ページ)。 4) 手ぶれしている。	1)【レンズ】をきれいにする。 2) 被写体を【フォーカスフレーム】の中央に合わせる。 3) マニュアルフォーカスモードに切り替えて手動でピントを合わせる(→58ページ)。 4) 三脚を使用してください。

	現　象	考えられる原因	対　処
撮影について	撮影した画像の被写体がボケている。	ピントが合っていない。	ピントを合わせたい被写体に【フォーカスフレーム】を合わせて撮影してください。
	フラッシュが発光しない。	1）フラッシュの発光方法が“ ”（発光禁止）になっている。 2）電池が消耗している。 3）ムービーモードになっている。 4）ベストショットモードでフラッシュが“ ”（発光禁止）のシーンを選んでいる。	1）フラッシュの発光方法を他の方法に切り替える（→46ページ）。 2）電池を充電してください。（→27ページ）。 3）他のモードに変更する。 4）必要に応じて、フラッシュの発光方法を切り替えるか（→46ページ）撮影したいシーンを選び直す（→63ページ）。
	セルフタイマーでの撮影の途中で電源が切れた。	電池が消耗している。	電池を充電してください（→27ページ）。
	【液晶モニター】に表示される画像のピントがあまい。	1）マニュアルフォーカスモードでピント合わせがずれている。 2）被写体が風景や人物なのに、“ ”（マクロモード）になっている。 3）接写しているのに、オートフォーカスモードや“∞”（無限遠モード）になっている。	1）ピントを合わせる（→58ページ）。 2）風景や人物を撮影する場合は、オートフォーカスモードにする。 3）接写撮影をする場合は“ ”（マクロモード）にする。
	撮影したのに画像が保存されていない。	1）記録が終了する前に電池切れになった。 2）記録が終了する前にメモリーカードを抜いた。	1）バッテリー残量表示が“ ”になったら、速やかに電池を充電してください（→27ページ）。 2）記録が終了する前にメモリーカードを抜かないでください。

	現　　象	考えられる原因	対　　処
再生について	再生した画像の色が撮影時に【液晶モニター】で見た色と違う。	太陽光など光源からの直接光がレンズに当たっている。	直接光がレンズに当たらないようにしてください。
	画像が表示されない。	DCF規格に準拠していない他のデジタルカメラで撮影したメモリーカードを使用している。	DCF規格に準拠していない他のデジタルカメラで撮影したメモリーカードは、ファイル管理形式が異なるため再生できません。
その他	すべてのボタンやスイッチが働かない。	他の周辺機器との接続中に静電気や衝撃等により、回路内部に障害が発生した。	電池をいったん取り出し、入れ直してから再度操作してみてください。
	【液晶モニター】がつかない。	1) USB通信中である。 2) RECモードで【液晶モニター】をオフにしている。	1) 内蔵メモリー／メモリーカードにパソコンからのアクセスがないことを確認し、USBクレードルの【USB】ボタンを押して【USBランプ】が消灯しているのを確認してから、カメラをUSBクレードルから取りはずしてください。 2)【DISP】を押して【液晶モニター】をオンにしてください。
	パソコンにUSB接続しても画像が取り込めない。	1) カメラがUSBクレードルに確実にセットされていない。 2) USBケーブルが確実に接続されていない。 3) USBドライバがインストールされていない。 4) カメラの電源が入っていない。	1) カメラとUSBクレードルの接合部を確認して、確実にセットしてください。 2) コネクター端子部を確認して、確実に接続してください。 3) USBドライバをインストールしてください（→129ページ）。 4) USBクレードルの【USB】ボタンを押してください。

USBドライバを正しくインストールできない場合は

Windows98でUSBドライバをインストールしようとしたが、正しくインストールできない場合や、もう一度インストールしようとカメラとパソコンをUSB接続したが、「新しいハードウェアの追加ウィザード」が起動しなくなった場合は、次のような原因が考えられます。

● 考えられる原因

1)Windows98を使用しているパソコンで、付属のCD-ROM(カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア)からUSBドライバをインストールする前にUSBケーブルでカメラを接続したことなどにより、別のドライバをインストールしてしまった。

2)正しくUSBドライバがインストールできなかった。

● 対処方法

1)USBドライバをインストールするときに「検索場所の指定」を間違うと、"USBドライバーがインストールできませんでした"と表示されます。このとき「完了」ボタンをクリックすると、「不明なデバイス」やUSBドライバとまったく違うドライバをインストールしてしまいます。そのため、パソコンとカメラをUSB接続しても「新しいハードウェアの追加ウィザード」が起動できなくなる場合があります。インストールができなかったり、途中で中止するときは、「完了」で終わらせないで、必ず「キャンセル」で終わらせてください。

2)パソコンとデジタルカメラをUSB接続しても「新しいハードウェアの追加ウィザード」が起動できない場合は、以下の手順で「不明なデバイス」を削除してから再インストールしてください。

① パソコンとカメラをUSBケーブルで接続します。
② カメラの電源を入れます。
③ スタートメニューから「設定」→「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」タブを選択し、「種類別に表示」を選択して一覧から「不明なデバイス」を探し削除してください。
④ 「不明なデバイス」を削除したらカメラの電源を切り、USBケーブルを抜きます。
⑤ パソコンを再起動し、129ページの操作に従って付属のCD-ROM(カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア)からUSBドライバを再インストールしてください。

重要! • 詳しい情報につきましては、付属のCD-ROM(カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア)に収録されている「USBドライバ」の「お読みください」をお読みいただくか、カシオホームページ(http://www.casio.co.jp/)をご覧ください。

画面に表示されるメッセージ

メッセージ	内容
圧縮に失敗しました	画像データ記録中に圧縮不可能状態のとき表示されます。撮影し直してください。
アラームを設定しました	アラーム設定時に表示されます。
インクを補充してください	プリント時に、プリンタのインクが減っている、またはインクが切れている場合に表示されます。
お気に入りのファイルがありません	お気に入りフォルダにファイルが登録されていないときに表示されます。
カードが異常です	メモリーカードに異常が発生したときに表示されます。電源を切って、メモリーカードを差し直してください。再度電源を入れても同じメッセージが表示されるときは、フォーマットしてください(119ページ)。 **重要!** ● フォーマットを行うとメモリーカード内のすべての内容(ファイル)が消えてしまいます。フォーマットを行う前に、パソコン等を利用してメモリーカード内の正常なファイルを保存してください。
カードがフォーマットされていません	メモリーカードがフォーマットされていないときに表示されます。メモリーカードをフォーマットしてください(119ページ)。
カードがロックされています	SDメモリーカードに付いているLOCKスイッチがロックされている状態です。この状態では、記録、消去などファイルを操作することができません。
この機能は使用できません	カメラにメモリーカードを入れない状態で、内蔵メモリーからメモリーカードへファイルをコピーしようとしたときに表示されます(121ページ)。
この画面は補正できませんでした。	補正が実行できなかった場合に表示されます。補正せずに画像が保存されます(70ページ)。
このファイルではこの機能は使用できません	各種機能が実行できなかった場合に表示されます。
このファイルは再生できません	ファイルが壊れているか、本機で表示できないファイルを表示しようとしています。
これ以上登録できません	ベストショットモードで「SCENE」フォルダの中に999シーンある状態でカスタム登録しようとした場合に表示されます。または、9999のお気に入りのファイルがすでにある状態で、さらにお気に入りのファイルを登録しようとした場合に表示されます(65、103ページ)。
接続エラー	プリント時に、プリンタに合っていないUSB接続になっている場合に表示されます。

設定したファイルが見つかりません	スライドショーの"表示画面"で設定した画像が見つからないときに表示されます。もう一度設定し直してください(92ページ)。
電池容量が無くなりました	電池がなくなったときに表示されます。
電池容量が無くなりました ファイルが保存されませんでした	電池がなくなったため、撮影した画像ファイルが保存されませんでした。
登録可能な画像がありません	ベストショットモードで登録できる画像がないときに表示されます。
ファイルがありません	まだ何も記録していない状態、または記録内容をすべて消去して本機にファイルが一つもない状態です。
フォルダが作成できません	999番のフォルダの中に9,999番のファイルが登録されている状態で、撮影しようとしたときに表示されます。撮影を行いたい場合は、不要なファイルを消去する操作を行う必要があります(99ページ)。
プリントする画像がありません DPOF設定してください	プリントする画像が指定されていないときに表示されます。DPOFの設定を行ってください(123ページ)。
プリントエラー	プリント中のエラー時に表示されます。 • プリンタ電源オフ • プリンタ本体のエラーなど

メモリがいっぱいです	撮影可能枚数を使い切りました。撮影を行いたい場合は、不要なファイルを消去する操作を行う必要があります(99ページ)。
用紙を補充してください	プリント時に、プリンタの用紙が切れている場合に表示されます。
LENS ERROR	レンズが動いているときにレンズに障害物が当たると、このメッセージが表示され、電源が切れます。障害物がないことを確認して、再度電源を入れてください。
SYSTEM ERROR	カメラのシステムが壊れていますので、お買い上げの販売店またはカシオテクノ・サービスステーションにお問い合わせください。

主な仕様／別売品

主な仕様

品　名 .... デジタルカメラ

機種名 EX-Z55

■カメラ機能

記録画像ファイル

フォーマット............. 静止画：JPEG(Exif Ver.2.2)、DCF (Design rule for Camera File system) 1.0準拠、DPOF対応
動画　：AVI (Motion JPEG)
音声　：WAV

記録媒体 内蔵フラッシュメモリー9.3MB
SDメモリーカード(SD Memory Card)
マルチメディアカード(MultiMediaCard)

記録画素数 .... 静止画：2560 × 1920 pixels
2560 × 1712 (3:2)pixels
2048 × 1536 pixels
1600 × 1200 pixels
1280 × 960 pixels
640 × 480 pixels
動画　：320 × 240 pixels

画像記録枚数／ファイルサイズ(可変長)

- 静止画

画像サイズ (pixels)	画像	画像ファイルサイズ	内蔵フラッシュメモリー9.3MB	SDメモリーカード* 64MB
2560×1920	高精細	約2.2MB	約4枚	約26枚
	標　準	約1.8MB	約4枚	約32枚
	エコノミー	約1.3MB	約6枚	約44枚
2560×1712 (3：2)	高精細	約2.0MB	約4枚	約29枚
	標　準	約1.6MB	約5枚	約36枚
	エコノミー	約1.1MB	約7枚	約51枚
2048×1536	高精細	約1.6MB	約5枚	約34枚
	標　準	約1.2MB	約6枚	約45枚
	エコノミー	約630KB	約13枚	約88枚
1600×1200 (UXGA)	高精細	約1.05MB	約8枚	約53枚
	標　準	約710KB	約12枚	約79枚
	エコノミー	約370KB	約23枚	約154枚
1280×960 (SXGA)	高精細	約680KB	約12枚	約82枚
	標　準	約460KB	約19枚	約126枚
	エコノミー	約250KB	約33枚	約221枚
640×480 (VGA)	高精細	約190KB	約44枚	約294枚
	標　準	約140KB	約58枚	約386枚
	エコノミー	約90KB	約94枚	約618枚

※ 記録枚数は、撮影できる枚数の目安です。

※ 松下電器産業(株)製の場合です。撮影枚数はメーカーによって異なります。

※ 容量の異なるメモリーカードをご使用になる場合は、おおむねその容量に比例した枚数が撮影できます。

- 動画（320×240pixels）

記録容量	最大約300KB/秒

消去 .... 1ファイル単位、全ファイル一括消去可能（メモリープロテクト機能付き）

有効画素数 500万画素

撮像素子 .... 1/2.5型正方画素原色CCD（総画素数：525万画素）

レンズ／焦点距離 ...... F2.6-4.8/f＝5.8〜17.4mm
非球面レンズを含む5群6枚、（35mmフィルム換算35〜105mm相当）

ズーム .... 光学ズーム3倍／デジタルズーム4倍（光学ズーム併用12倍）

焦点調節 .... コントラスト方式オートフォーカス（スポット、マルチ切換可能）、マクロモード、無限遠モード、パンフォーカスモード、フォーカスロック可能、マニュアルフォーカス可能

撮影可能距離
（レンズ表面より）...... 標準：約40cm〜∞

接写 .... 約6cm〜50cm

露出制御 .... 測光方式：撮像素子によるマルチパターン測光
制御方式：プログラムAE
露出補正：−2EV〜+2EV（1/3EV単位）

シャッター .... CCD電子シャッター／メカシャッター併用
1/8〜1/2000秒
※ベストショットモードの一部では異なります。
夜景を写します：4〜1/2000秒
花火を写します：2秒固定

絞り .... F2.6／4.3自動切替式

ホワイトバランス ...... 自動／固定（6モード）／マニュアル

感度設定 .... ISO50／ISO100／ISO200／ISO400／オート

セルフタイマー .... 作動時間約10秒、2秒、トリプルセルフタイマー

内蔵フラッシュ .... 発光モード：自動発光、発光禁止、強制発光、赤目軽減機能切替可能
フラッシュ撮影範囲（ISO感度オート時）：
広角時　約0.4m〜約2.6m
望遠時　約0.4m〜約2.0m

撮影／録音関連機能 .. 静止画撮影（音声付き）、マクロ撮影、セルフタイマー撮影、ベストショット撮影、ムービー撮影（音声付き）、音声録音（ボイスレコード）
※ 音声はモノラルです。

音声記録時間 .... 音声付き静止画撮影：1画像につき最長約30秒間
ボイスレコード：約39分（内蔵メモリーの場合）
アフターレコーディング：1画像につき最長約30秒間

モニター 2.5型TFTカラー液晶
115,200（480×240）画素

ファインダー .... 液晶モニター／光学式ファインダー

時計機能 .... クォーツデジタル時計内蔵
日付・時刻：画像データと同時に記録
自動カレンダー：2049年まで

ワールドタイム.......... 世界162都市（32タイムゾーン）に対応
都市名、日付、時刻、サマータイム

入出力端子 .... クレードル接続端子
マイク .... モノラル
スピーカー .... モノラル

■電源部、その他

電源 .... リチウムイオン充電池（NP-40）×1個

電池寿命

電池寿命は、温度23℃で使用した場合（29ページ）の電源が切れるまでの目安であり、保証時間、または保証枚数ではありません。低温下で使うと、電池寿命は短くなります。

撮影枚数（CIPA）（動作時間）※1	約400枚（約3時間20分）
連続撮影枚数（動作時間）※2	約1070枚（約3時間30分）
連続再生時間（静止画）※3	約6時間50分
ボイスレコード録音時間※4	約6時間20分

- 使用電池：NP-40（定格容量：1230mAh）
- 記録メディア：SDメモリーカード

- 測定条件

※1 撮影枚数（CIPA）
CIPA規準に準ずる
温度（23℃）、液晶モニターオン、30秒毎にズームのワイド端とテレ端で交互に撮影、フラッシュ発光（2枚に1回）、10回撮影に1度電源を切／入操作

※2 連続撮影枚数
温度（23℃）、液晶モニターオン、フラッシュ非点灯、12秒毎に、ズームのワイド端とテレ端で交互に撮影

※3 連続再生時間
温度（23℃）、約10秒に1枚ページ送り

※4 ボイスレコード録音時間は、連続で録音したときの時間です。

消費電力 .... DC 3.7V　約2.9W

外形寸法 .... 幅87mm×高さ58mm×奥行き22.5mm（突起部除く、最薄部19.7mm）

質量 .... 約130g（電池、付属品除く）

付属品 .... リチウムイオン充電池（NP-40）、USBクレードル（CA-24）、専用ACアダプター（AD-C51J）、USBケーブル、ストラップ、CD-ROM、取扱説明書（保証書付き）

■リチウムイオン充電池(NP-40)

定格電圧 3.7V
定格容量 1230mAh
使用周囲温度.............. 0〜40℃
外形寸法 .... 幅38.5×高さ38.0×奥行き9.3mm
質量 約34g

■USBクレードル(CA-24)

入出力端子 .... カメラ接続端子、USB接続端子、外部電源端子(DC IN 5.3V)
消費電力 .... DC5.3V　約3.2W
サイズ .... 幅103mm×高さ32mm×奥行き70mm(突起部除く)
質量 約71g

■専用ACアダプター(AD-C51J)

入力電源 .... AC100−240V　50/60Hz　83mA
出力電源 .... DC5.3V　650mA
プラグ形状 .... Aタイプ(平2ピン)
サイズ .... 幅48mm×高さ16mm×奥行き69mm(突起部、ケーブル除く)
質量 約95g

電源について

- 電池は、必ず専用リチウムイオン充電池NP-40をお使いください。他の電池は使用できません。
- 本機には時計専用の電池は入っておりません。電池やUSBクレードルで電源が供給されていないと、約2日で日時がリセットされますので、その場合は再度設定してください(36ページ)。

液晶パネルについて

- 液晶モニターに使用されている液晶パネルは、非常に高精度な技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%未満の画素欠けや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。

レンズの特性について

- レンズの特性(歪曲収差)により、撮影した画像の直線が歪む(曲がる)場合がありますが、故障ではありません。

別売品

• 急速充電器	BC-30L
• リチウムイオン充電池	NP-40
• EXILIMオリジナル本革ケース	ESC-50
• EXILIMオリジナルケース	ESC-51
• EXILIMオリジナル本革ケース	ESC-52
• EXILIMオリジナル本革ケース	ESC-53
• EXILIMオリジナルカバー	ESC-55
• EXILIMオリジナル本革ケース	ESC-56
• ネックストラップ	ENS-1

別売品は、お買い求めの販売店もしくは、カシオ・オンラインショッピングサイト(e-カシオ)にご用命ください。

e-カシオ:http://www.e-casio.co.jp/

カシオデジタルカメラに関する情報は、カシオホームページでもご覧になることができます。

http://www.casio.co.jp/

索引

英数字

ACアダプター 27
Adobe Reader 151
AFエリア 56
CHARGEランプ 28, 161
DCF規格 139
DirectX 151
DPOF機能 123
EVシフト 59
Exif Print 128
ISO感度 78
Language 36, 115
Mass Storage 115, 126
MMC 117
Photo Loader 150
Photohands 151
PictBridge 115, 125
PLAYモード 85
PRINT Image MatchingⅢ 128
PTP 115, 126
RECモード 32
REC/PLAY 116
SDメモリーカード 117
USB 115, 129
USBクレードル 20, 27, 93, 125, 129
USBの設定 115
USB DIRECT - PRINT 115, 125
USB端子 115
USBドライバ 129, 135, 165
USBランプ 161

あ

アイコンガイド機能 81
赤目軽減 47
アフターレコーディング 96
アフレコ 96
アラーム 111
アルバム作成 142
印刷 122
インストール 129, 150
液晶モニター 21
エンディング画面 109
お気に入りフォルダのコピー(登録) .. 103
お気に入りフォルダの表示 104
お気に入りファイルの消去 105
オートパワーオフ 33
オートパンフォーカス 55
オートPF 55
オートフォーカス 42, 55
音声付き静止画再生 86
音声付き静止画撮影 73
音声再生 97

か

回転表示 94
拡大表示 87
画質 53
カスタム登録 65
画像サイズ 52
画像記録枚数 168
画像ルーレット機能 95
カップリングショット 66
カレンダー表示 91
キーカスタマイズ 82
起動画面 108
グリッド表示 80
光学ズーム 44
コピー 120
コントラスト 80

さ

サイズ 52
再生 85
彩度 79
撮影 38
撮影モード 38
撮影レビュー 81
サマータイム 114
左右キー設定 82

シャープネス 79
シャッター 41
充電式電池 25
消去 99
消去防止(メモリープロテクト) 102
ズーム 44
ストラップ 25
スライドショー 92
スリープ 33
セルフタイマー 51
セルフタイマーランプ 51, 159
操作音 107

た

デジタルズーム 45
電源 25
電源の入／切 32
電池寿命 29
電池消耗防止 33
動画再生 90
動画撮影 71
動作確認用ランプ 159
トリミング 89

な

内蔵メモリー(フラッシュメモリー) . 40,116
内蔵メモリーのフォーマット 116
日時設定 36, 112

は

パソコンとの接続 129
バッテリー残量 30
反転表示 86
パンフォーカス 57
ビジネスショット 69
日付表示スタイル 113
ヒストグラム 76
表示言語設定 36, 115
表示のオン／オフ 23
ファイル
.... 101, 110, 120, 129, 140, 142
ファイルNo. 110
ファイルのコピー 120
ファインダー 43
フォーカス方式 54
フォーカスロック 59
フォーマット 116,119
フォトスタンド機能 93
フォルダ 101, 140
フラッシュ 46
フラッシュアシスト 49
プリショット 68
プロテクト 102
ベストショット 63
ボイスレコード 74
ホームタイム 112
ホワイトバランス 61

ま

マクロ 56
マニュアルフォーカス 58
無限遠 57
ムービー 71, 90
メニュー 34, 157
メモリーカード 117, 138
メモリーカードのフォーマット 119
メモリープロテクト 102
モードメモリ 83

ら

リサイズ 88
リセット 84
リチウムイオン充電池 25, 30
レンズ 13
露出補正 59

わ

ワールドタイム 112

EXILIMオフィシャルWebサイトのお知らせ

当サイトは、EXILIMのオフィシャル情報発信サイトです。

http://www.exilim.jp/

■ユーザー登録の仕方

ユーザー登録はEXILIMサイト(http://www.exilim.jp/)の【Registration】からご利用のデジタルカメラを選択して登録を行ってください。

ご登録いただいた方への特典

Download
最新ファームウェア・バージョンアップ・ソフトウェアがダウンロードできます。

EXILIM News
会員向情報メールにより[www.exilim.jp]の更新情報、製品関連の最新情報、特典情報等を配信します。

EXILIM Collection
登録された会員様だけにEXILIM起動画面ファイルなどを配信します。

EXILIM BBS
開発フォーラムで「製品開発」に関する意見を交換することができます。

一般公開のサービス内容

EXILIM Avenue

Faces	Sense
こだわりとスタイルを持った人々がEXILIMの魅力を語ります。	EXILIMを格好良く身に付けるポイントをレポートします。
Story Exilim開発スタッフが語る秘話を紹介します。	**Wallpaper** パソコン用壁紙がダウンロード可能です。
Edge of the World ニューヨーク、ロンドン、上海など国際都市からEXILIMを通してレポートします。	**Collection** TVCMのMP3ファイル等を公開します。

その他のEXILIM関連WEB情報

EXILIM Info	EXILIM Support
製品情報／サンプル画像	各種FAQや動作確認情報

＊ EXILIM.jpのサービス内容は会員の意見・要望や公開アンケートの結果により変更される場合があります。あらかじめご了承ください。